

三 省 堂 編 輯 所 編 纂  
 中 等 教 育  
 最 近 日 本 地 理

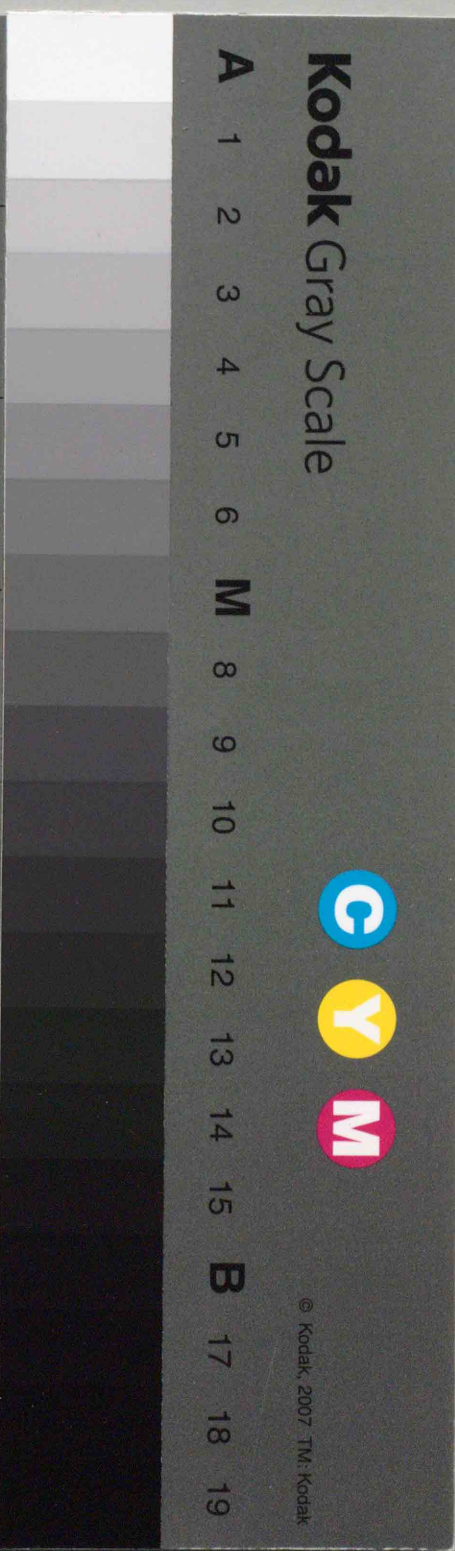
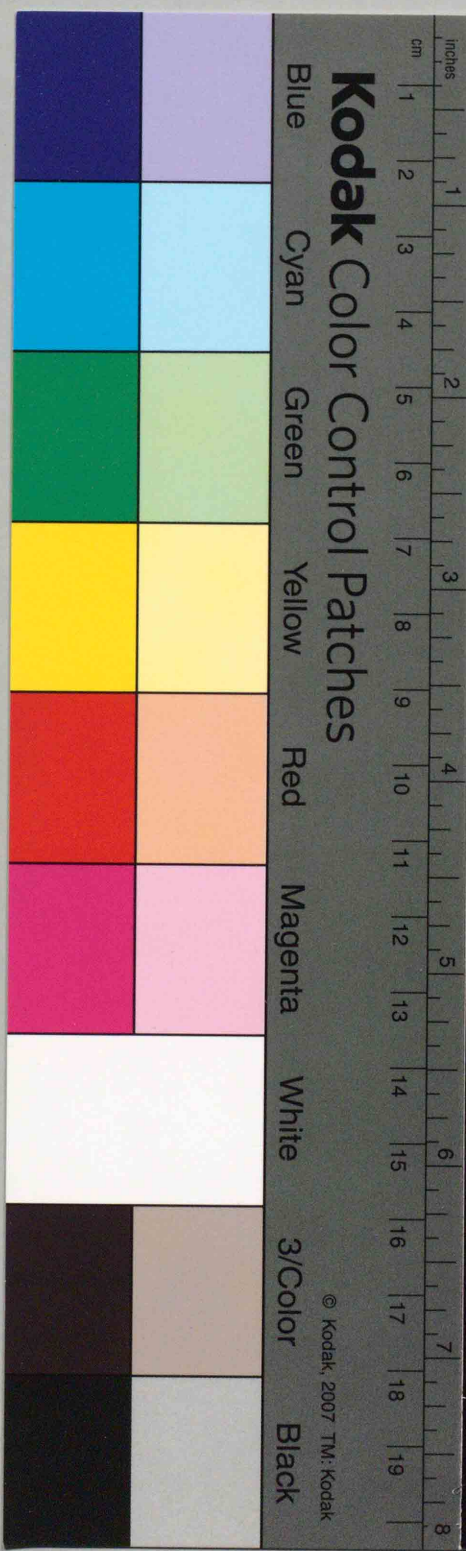
十 訂 版



株 式 會 社

三 省 堂

教科書文庫  
 4  
 291  
 41-1926  
 2000041343



42819

教科書文庫

4
291
41-1926
20000 41343



日三十月二十年五十五大  
濟定檢省部文  
用科理地校學中

教科書文庫

4

291

41-1926

2000041343

資料室

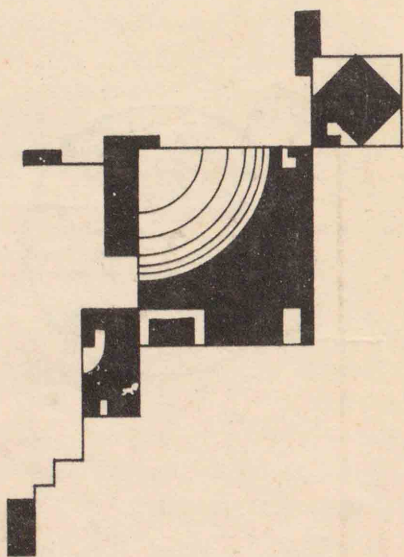
3759  
5a14

育教等中

# 理地本日近最

纂編所輯編堂省三

版訂十



社會式株

堂省三

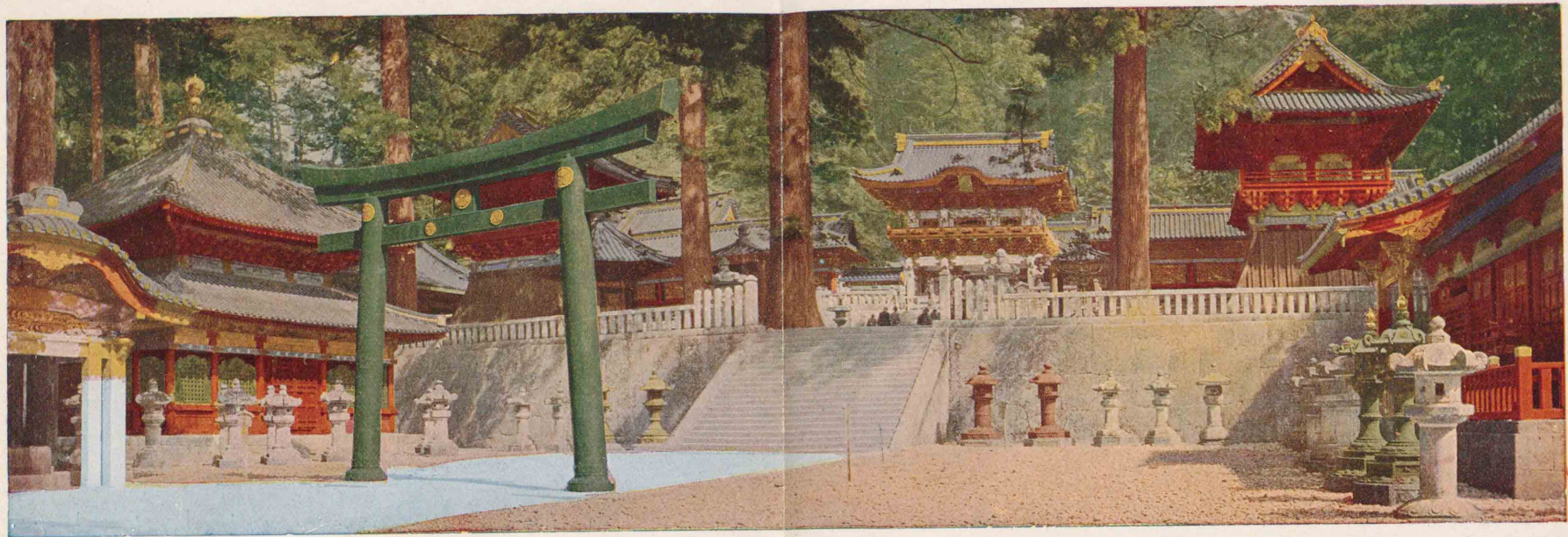
日光  
日光廟の華麗は廣く内外に喧傳せられ、今や日本を代表するものとして外國觀光客の訪れるものが多い。寫眞は日光廟中の最も壯麗な部分を示したもので、正面の石階上にあるのは世に日暮門と呼ばれる陽明門である。陽明門の左右に竝ぶのは鐘樓と鼓樓で、鳥居の左側にあるのは輪藏、之に續くのは水盤舎の一部である。四邊を閉す老杉の深緑と燦爛たる丹碧との對照は自然の妙と人工の美との調和の極致である。



広島大学図書

2000041343





日 光 東 照 宮 の 陽 明 門



金 剛 山 の 奇 観

### 金剛山

金剛山は江原道の北部に位し、奇峯怪岩が簇立して一萬二千峯と呼ばれ、その區域は約百五十方軒に互る。俗にその嶺西を内金剛、嶺東を外金剛といひ、又山勢の海に盡くる邊、無數の奇岩が海中に群立する處を海金剛といふ。前の二は主として花崗岩から成り、後者は火山岩から成つてゐる。寫眞は金剛山中でも特に奇勝の名を有する萬物相の一部で、之を遠く望めば只造化の神の妙技に恍惚として我を忘れる程である。

## 辯言

本書は、中等學校の教科書とする爲に、最近の事實に基いて編纂したもので、中等教育「最近世界地理」中等教育「最近地理通論」と連絡し、相俟つて地理教授の本旨を達成することに努めた。

本書の編纂に當つて、特に意を用ひた要點は、

- 一、尋常小學地理との連絡に考慮して内容の程度を高め、總括的智識を養成することに最も力を盡した。
- 一、挿畫は嚴密に選擇して、一々略解を附し、殊に多數の産業圖を加へて、總括的記述の本文と對照し、その了解得會に便ならしめた。
- 一、人口は大正十四年國勢調査の結果に據り、人口二萬以上の都邑は、各府縣の初頭欄外に列記して、概觀し易からしめた。
- 一、市と朝鮮の府とは、總て太字を用ひ、地方廳所在地には、特殊の記號(○)を附して、他の都邑と區別した。

一、産業の統計は、能ふ限り最近の數に據つたが、種類によりその變動の著しいものは、數年間の平均數量を採つた。

一、距離尺度は、總てメートル法を本位としたが、鐵道航路等は、官廳の公用に倣つて哩、漙を用ひた。

一、卷末に設問を附けて、學生の自習を促し、併せて豫習・復習の便に供した。

本書は、時勢の推移に伴れ、第十回の訂正を加へて、益、内容を改善した。是れ偏に教官各位の熱誠な注意や、援助に負ふ所である。茲に謹んで感謝の意を表する。

大正十五年八月

著者識

中等教育 最近日本地理 目次

前編 地方誌

第一章	關東地方	四
第二章	奥羽地方	三二
第三章	中部地方	三三
第四章	近畿地方	三九
第五章	中國地方	七〇
第六章	四國地方	八〇
第七章	九州地方	八八
第八章	臺灣地方	一〇五
第九章	北海道	一二九
第十章	樺太(南部)附 北樺太	一三三

第十一章	朝鮮	三六
第十二章	關東州 南洋諸島	一五

後編 總說

第一章	地勢	一五
第二章	海洋	一五
第三章	氣候及び天産物	一五
第四章	産業及び物産	一五
第五章	交通	一七
第六章	住民	一七
第七章	政治	一七

中等教育 最近日本地理 目次終



中等教育 最近日本地理

大日本帝國

我が國は、亞細亞大陸の東邊に沿つて、約四千七百軒(約一千)に互る日本列島と、大陸から突出して、長さ約八百軒(約三百)に及ぶ朝鮮半島から成つてゐる。日本列島は三の弓形を作つて、東北から西南に連り、内側はオホーツク海、日本海、東支那海を挟んで、亞細亞大陸と離れ、外側は廣い太平洋を隔て、遙に兩米大陸及び大洋洲と相對してゐる。朝鮮半島は大陸の東部に出て、日本海と黄海とを分け、列島との間に、狭い朝鮮海峽を挟んで、我が本土と大陸との橋梁をなしてゐる。

帝國の四極

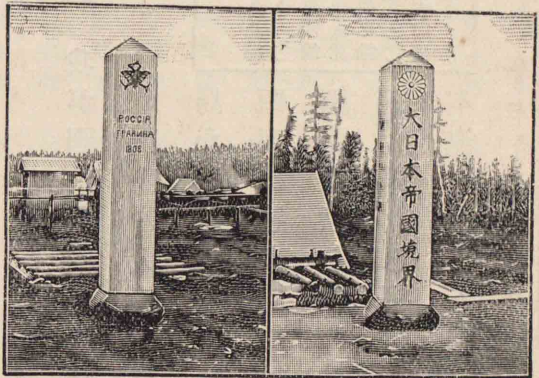
極北	千島の阿頼度島北端 <small>(北緯五〇度五六分)</small>
極南	臺灣の七星岩南端 <small>(北緯二度四五分)</small>
極東	千島の占守島東端 <small>(東經一五六度三分)</small>
極西	澎湖諸島 花嶼西端 <small>(東經一九度一八分)</small>

帝國の面積は英吉利佛蘭西等の本國よりも遙に廣い

樺太の國境標  
樺太の國境線には四ヶ所の天測境界標石と十七ヶ所の中間標石が建ててゐる。圖はその中間標石の一を示した

面積の概數

(單位方軒)  
本州 二四、〇〇〇  
朝鮮 三、〇〇〇  
北海道本島 七、〇〇〇  
九州 二六、〇〇〇  
樺太 二、〇〇〇  
臺灣 二、〇〇〇  
四國 一、〇〇〇  
其他 〇  
合計 六六、〇〇〇  
(四四、〇〇〇方軒)



樺太と朝鮮の北部とは、自然又は人爲の境界で、支那・シベリヤと接してゐるが、大部分は海に圍まれ、千島・間宮・臺灣・バシー等の諸海峡は、近く外國に對してゐるから、國防上極めて大切な處である。

帝國の面積は、約六十八萬方軒(四萬四)ある。その中本州は最も廣く、全體の約三分の一を占め、朝鮮は之に次いで稍、小さい。北海道本島は、本州の約三分

の一に當り、九州・樺太・臺灣は、面積が殆ど相似て、何れも北海道本島の約二分の一に當り、四國は更にその半に當つてゐる。

帝國の人口は、約八千三百萬で、面積に比べると、

道海北	12	朝	本
州九	5.5		
灣臺	5.5	鮮	州
大樺	5.5		
他其	3	33	33
國四	2.5		

人口の概數

萬人  
本州 四、九七  
四國 三、七  
九州 九、〇八  
北海道 二、四九  
朝鮮 一、九五  
臺灣 三、九  
合計 八、〇〇

その密度が甚だ大きいから、食料自給等の上には、不足の點もあるが、將來工業の發展を期するには極めて有望である。

我が國運は、明治以後著しく發展し、曩に臺灣及び樺太の南半を收め、關東州を租借し、南滿洲東部

	内		朝
	地	72%	鮮
臺灣			
樺太			23%

内蒙古を勢力範圍とし、更に朝鮮を併合した。最近の世界大戰によつて、舊獨逸領のマリヤナ・カロリン・マーシャル・パラオ等の諸島も、我が國で統治することになつた。

本州・四國・九州は最も早く開け、帝國の主要部で、北海道も明治維新前から既に我が版圖であつた。是等を内地又は本土と呼び、新しく領土となつた臺灣・樺太・朝鮮等を殖民地といふ。内地は往時畿内・八道・八十五國に分れてゐたから、今でもその名稱を呼ぶことがある。

畿内		東海		東山		北陸		山陽		山陰		南海		西海		北海道				
山城	伊賀	駿河	上總	近江	美濃	飛騨	越前	加賀	能登	石川	福井	滋賀	京都	丹波	石見	紀伊	筑前	日向	日向	日向
大和	河内	尾張	相模	信濃	陸奥	上野	下野	越中	越後	備前	備後	出雲	美濃	阿波	淡路	淡路	淡路	淡路	淡路	淡路
和泉	攝津	三河	武藏	陸奥	上野	下野	下野	越中	越後	備前	備後	出雲	美濃	阿波	淡路	淡路	淡路	淡路	淡路	淡路
安房	遠江	安房	安房	安房	安房	安房	安房	安房	安房	安房	安房	安房	安房	安房	安房	安房	安房	安房	安房	安房



### 前編 地方誌

地勢・人文等の關係から、本州を關東・奥羽・中部・近畿・中國に分け、之に四國・九州・臺灣・北海道・樺太・朝鮮を加へて十一地方とし、別に租借地の關東州と、委任統治地の南洋諸島とを、一章として附記した。

### 第一章 關東地方

#### 通説

國名 相模 武藏 安房  
上總 下總 常陸  
上野 下野  
面積 約三二〇〇〇方  
約二〇七〇〇方  
約二〇七〇〇方  
人口 約一三三萬

密度 一方軒三八四人  
(一方里五九三四人)

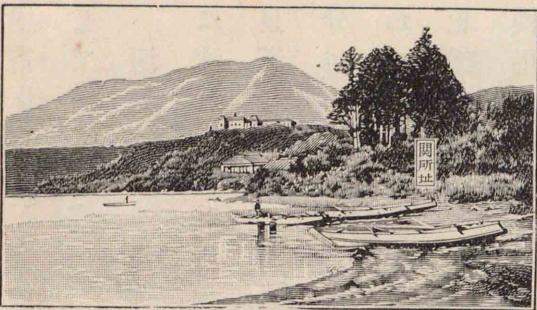
本州の東南部を占め、往昔關東八州と呼ばれた地方で、政治上、一府六縣に分ける。  
**地勢** 北部から西部にかけては、山地が續き、南方の半島部にも、丘陵が少く

府縣名(廳所在地)	管轄國名	面積・人口
東京府(東京市)	武藏一部伊豆七島小笠原諸島	二一四三方軒 四四八五千人
神奈川縣(横濱市)	武藏一部相模	二三五二方軒 一四二〇千人
千葉縣(千葉市)	安房上總	五〇七九方軒 一三九九千人
埼玉縣(浦和町)	武藏大部	三八〇三方軒 一三九四千人
群馬縣(前橋市)	上野	六三一五方軒 一八一八千人
栃木縣(宇都宮市)	下野	六四四八方軒 一〇九〇千人
茨城縣(水戸市)	下總一部常陸	五八七一方軒 一四〇七千人

#### 山脈・火山脈

阿武隈山地 米  
筑波山 八七六  
三國山脈  
關東山脈  
那須火山脈  
男體山 二四八四  
那須山 一九一七  
赤城山 一八二八  
榛名山 一四四八  
妙義山 一〇四  
富士火山脈  
箱根山 一四三九

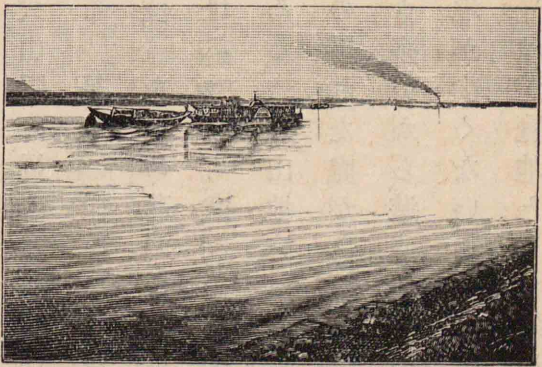
箱根町から蘆湖を隔てて離宮所址等を望んだ光景で、遠景の山は駒ヶ岳である、附圖は通行手形の一例で、文面は左の通り  
右注從二人肥前佐幕(御越後往還無異儀可被指通候以上) 松林源藏  
松平肥前守内 丙二月七日志波左轉太所々人御覽衆中



ないが、その間の大部は廣い關東平野である。東北部には、高原性の阿武隈山地があり、その餘勢は南に延び、末端に筑波山が聳えてゐる。北境には三國山脈が連り、之と竝ぶ那須火山脈には、活火山たる那須山を始め、男體・赤城・榛名・妙義等の火山が多い。西部には關東山脈があつて、富士火山脈に屬する箱根山が、その南部に聳えてゐる。是等の山脈は、古來交通上・軍事上に重要な位置を占め、著名な關所の址(勿來關)も、處々に残つてゐる。火山地方には、景色の勝れた處があり、又溫泉も多いから、遊覽・保養の名地が少くない。中でも日光は遊覽地として、箱根

伊香保草津(馬)鹽原那須(板)等は温泉勝地として特に名高い。

河流は、多く是等の山地から發して、東南に流れる。利根川は本邦屈指の大河で、渡良瀬川・鬼怒川等の支流を合せて、江戸川を分け、下流は、霞浦・北浦・印旛沼等の湖沼を連ねて、灌漑・舟運の便が極めてよい。この他、北部に那珂川・久慈川、南部に荒川・多摩川・相模(馬入)川等がある。是等の上流は、多く發電に利用せられ、又東京横濱等の水道發源地となるものもある。



口の浦賀水道は、帝都防備の上に最も重要な處である。東海岸は、犬吠崎によつて鹿島灘と九十九里濱とに分けられ、西南の相模灣沿

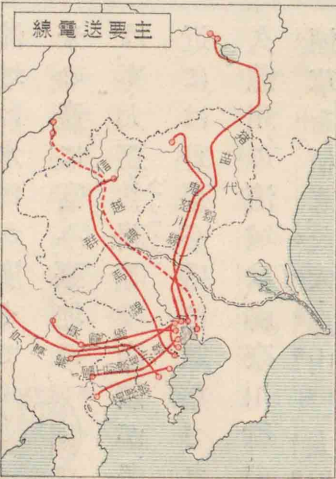
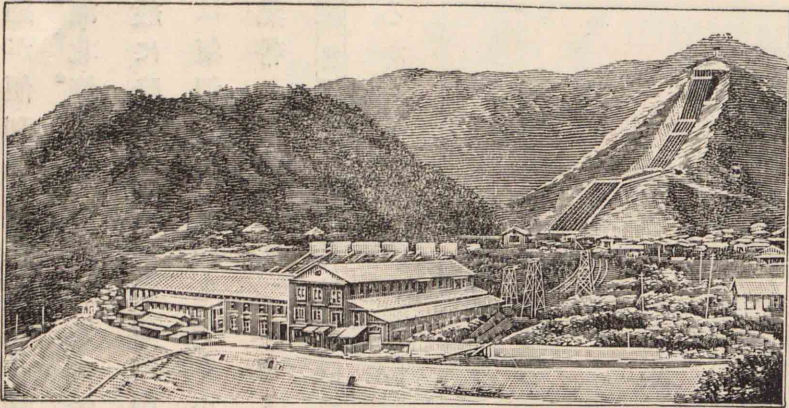
利根川の下流  
水量の多いことは全圖  
屈指の如き小汽船  
は開通して通じてゐる

河	湖	流長	周囲
利根川		三二二	
荒川		一七七	
久慈川		一四一	
那珂川		一一七	
相模川		一一〇	
北浦		七六	
印旛沼		七六	
中禪寺湖		一九	
荒川		一九	

浦賀水道及びその附近は要塞地帯で観音崎と富津とに砲臺が設けてある

日本海流の一部は暗黒色をしてゐる爲黒潮の名がある

鬼怒川上流の發電所  
下浦にある第一發電所である



岸と共に、單調な砂濱であるが、半島部には丘陵が海に迫つてゐる處も

ある。南方の海上には、富士火山脈に屬する伊豆七島・小笠原諸島等があつて、通信上軍事上の要地をなしてゐる。

氣候 北と西との連山は、寒風を遮り、海岸には、近く日本海流が流れて氣候が概々溫和である。殊に房總半島及び相模灣の沿岸は、冬暖で夏涼しく、風景もよく、交

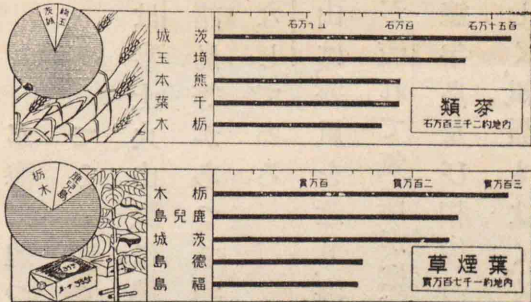
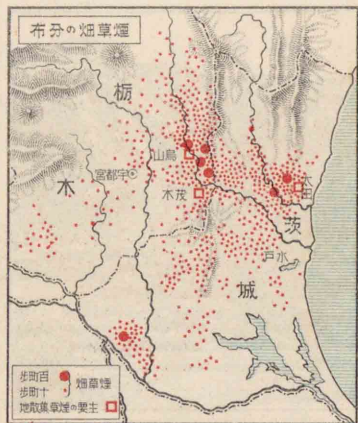
小田原附近は殊に  
溫暖で蜜柑を多く  
産し筑波山の東南  
麓も亦蜜柑の産が  
少くない

米の産額は頗る豊  
富であるが人口の  
密な爲需用が多く  
他地方から供給を  
仰いでゐる

關東地方の大麥産  
額は全産の約二分  
の一を占めてゐる

通が便利な爲、葉山、逗子、鎌倉、大磯、小田原、(神奈川)勝浦、北條(千葉)等の著名な保養地が多い。夏季は一般に降雨が多いが、冬は雨量が少い。豆南諸島は気温が高く、雨も多く、小笠原諸島には、熱帯亞熱帯の植物が繁つてゐる。

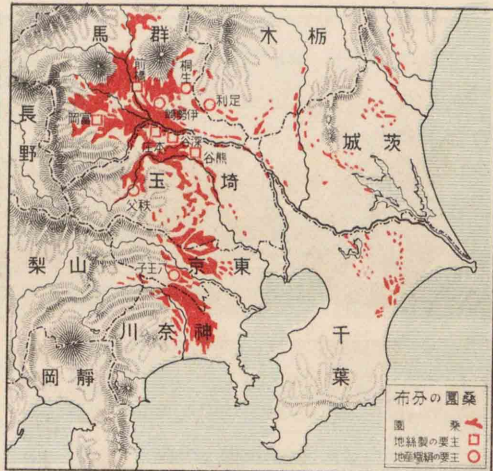
【産業】 關東平野は、氣候がよく地味も肥えてゐるから、農業が大いに開け、殊に利根川、荒川等の流域は、水田が廣く、米の産に富み、臺地には、麥、大豆、甘藷等の産額が多く、又東京附近には野菜が盛に栽培される。那珂川、久慈川の流域は、神奈川縣の一部と共に、煙草を植ゑ、茂木、(モトギ)木鳥山、(カラスヤマ)太田、(城)茨城、(城)秦野、(川)神奈川



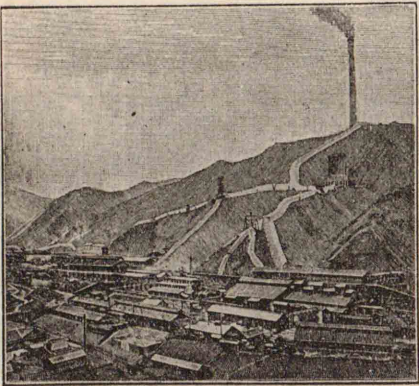
富岡は製絲釜数は  
多くないが有名な  
大製絲場がある

【圖】日立精鍊所の  
一部  
屈曲せる數條の煙道に  
より煙煙を大煙突に導  
く光景である

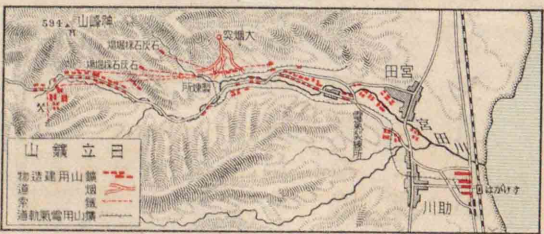
栃木縣(大谷)、茨  
城縣(加波、太田)、  
千葉縣(錦山)等の  
各地には石材の産  
がある



に行はれる。  
鑛産は足尾、(木)栃、(木)日立、(城)茨の銅を主とし、日立は各地からの買鑛による金、銀等の精鍊も盛に行はれ、茨城縣の北部に



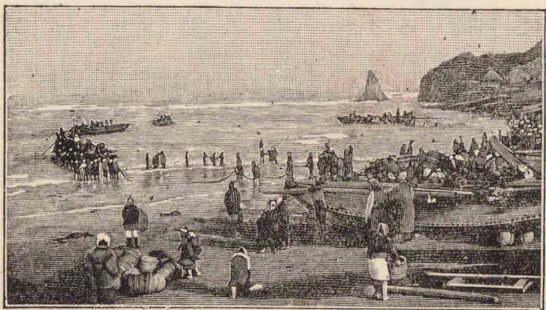
等は、その集散地である。栃木縣には、鹿沼、栃木を中心として大麻を産し、西部の山麓地方では廣く桑の栽培が行はれ、養蠶が發達して、繭の産額が多く、前橋、高崎、富岡、(馬)群、(本)庄、深谷、(玉)埼等には製絲業が盛



常磐炭田は京濱の消費地に近いので採掘が盛である

東京灣の海産産額は全産の約三分の一を占める

圖九十九里濱の漁業と東京灣の海苔採集  
海中にある垣根の如きものは海苔を附着せしめる法である



は、常磐炭田の一部がある。近海は各種の魚族に富み、且東京横濱等の大消費地を控へてゐるから、漁業が盛に行はれ、殊に房



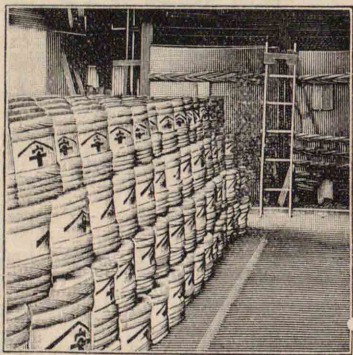
總半島の東岸は、鯷、鰹、鯖、秋刀魚等の産額が多く、全國屈指の漁場に數へられ、銚子は重要な漁港である。東京灣には海苔の特産があり、又貝類が養殖される。

京濱地方は人口が多く、水陸の交通が便利で、動力を得るにも亦容易であるから、工業が大いに發達し、

桐生・足利・八王子の三市は關東の三大機業地といはれる  
千葉縣の醤油味淋の産額は全國の首位を占める

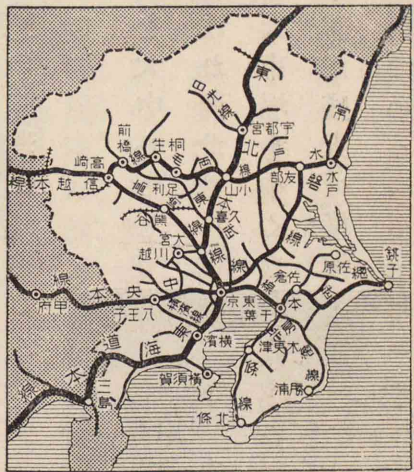
圖 銚子醤油會社の樽詰場  
樽子を懸けたのは仕込樽で之から左方の小樽に詰めるのである

我が國有數の工業地帯をなし、紡織機械製造製肥製紙印刷その他あらゆる工業が行はれ、東京横濱の兩市はその接續市街と共に、川崎市を含んで一の連續市街たらしむる有様である。西北部の養蠶地方では、製絲の外に機業が盛で、桐生・伊勢崎・足利・秩父・八王子等には絹織物を出し、佐野・栃木等からは交織綿織等を出す。利根川の下流地方には、醸造地が多く、野田・銚子(葉)の醤油、流山(葉)の味淋は最も名高く、佐原(葉)、石岡(城)等からは酒を出す。  
内地商業は、東京を大中心としてその取引が盛に行はれ、西北部には養蠶機業等に伴ふ大市場も少くない。外國貿易も亦甚だ盛大で、横濱は實に北日本の關門である。



圖解東京停車場  
本邦最善の停車場で長さ三百二十六米右端は乗車口で左端は降車口中央は皇室用の昇降口である

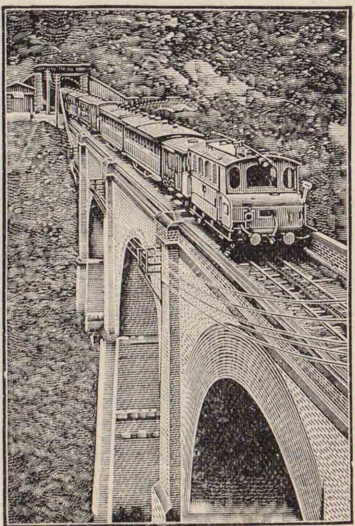
- 1 東京・神戸間
  - 2 東京・青森間
  - 3 東京・名古屋間
  - 4 東京・岩沼間
  - 5 東京・銚子間
  - 6 大宮・高崎間
  - 7 高崎・小山間
- 工事中の上越線は本州横断交通路を著しく短縮するものとして重要である



總武線等の外、高崎・兩毛等の諸線があつて、鐵道網の密なことは全國中の第一である。是等の鐵道は、多く舊街道に沿ひ、信越線の碓氷峠を越える處にはアプト式軌條が設けてある。海運は、横濱を中心として内外の要地と通じ、又東京を中心とする近海航路も頗る多く、東京港

交通 交通機關は、水陸共に能く備り、主要な街道は、概ね東京が基點となつてゐる。鐵道も東京に起る東海道線、東北線、中央線、常磐線

圖解碓氷峠のアプト式軌條  
この邊は我が國第一の急勾配をなし二十六の險道がある



の修築と相俟つて、一層盛になるであらう。東京から小笠原島を經る海底電線は、米國と通信し、空中通信には、東京附近（埼玉縣岩槻、千葉縣検見川）及び船橋に大無線電信局があつて、海外諸國とも通信し、銚子無線電信局は、近海航路の船舶との通信に當つてゐる。

處誌

關東は、夙に政治上の中心となり、殊に江戸幕府の時からその發達が著しく、近年各種の産業が大いに起り、交通も亦至便で、人口の密なことは全國中の第一である。

東京市は隅田川に跨り、帝國の首府で、政治、軍事、學藝、商工業、交

●東京府 郡邑人口

東京市	一九五
八王子市	四五
澁谷町	九九
西武町	九八
瀧野川町	八二
平塚町	七二
野村町	六六
王子町	〇〇

吾	三	大	日	南	品	千	代	こ	四	四	八
河	井	井	暮	千	川	住	々	の	三	二	あ
島	町	町	里	住	町	町	幡	他	萬	萬	あ
町	町	町	町	町	町	町	町	府	以	以	あ
五	五	五	五	五	五	五	五	内	上	上	あ
五	五	五	五	五	五	五	一	の	が	が	あ
九	八	八	六	四	三	二	一	町	が	が	あ

附圖 日本橋附近  
橋の南方から望んだ光景で中央に建つ三個の電燈で飾られた柱は道路元標である

東京は全市を十五區に分ける

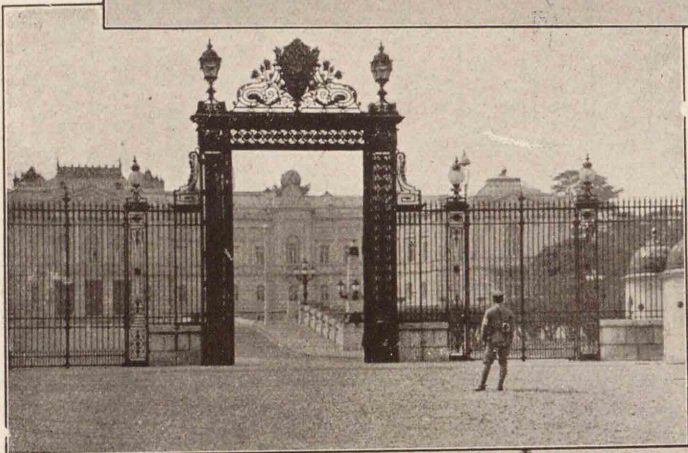
東京には大審院・控訴院・近衛及び第一師團司令部等がある。又東京帝國大學・商科大學・高等師範學校等を始め各種の學校が多い



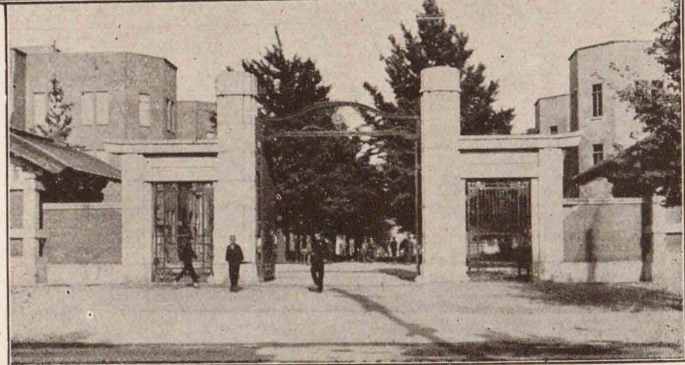
通等の大中心をなし、世界屈指の大都會である。市は地形上、山手(臺地)と下町(低地)とに分れ、山手は土地が高燥で、學校、邸宅、兵營等が多く、下町は低濕で、先年の大震には非常な打撃を受け、殆ど全部焦土と化した。商工業の中心地帯で、速に市況を恢復し、その中樞部には、高層家屋の建築が年を追うて盛である。宮城は市の中央にあつて、國會議事堂、諸官廳等がその附近に集つてゐる。市は大阪と共に大工業地で、綿絲、毛織、肥料、洋紙、雜貨、機械、圖書等の製造が盛に行はれ、其等の工場は、多く市の海岸地方から近郊の低地に散在し、品川、大井、王子、日暮里、瀧野川、南千住、千住等は工場地と



二重橋 宮城正門前の石橋と奥の錦橋とから成り御所は圖の右方に當る

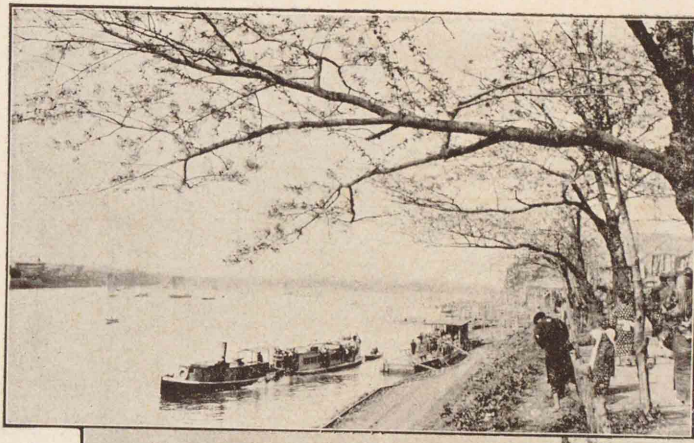


東宮御所 ベルサイユ宮殿を模したもので結構莊麗である

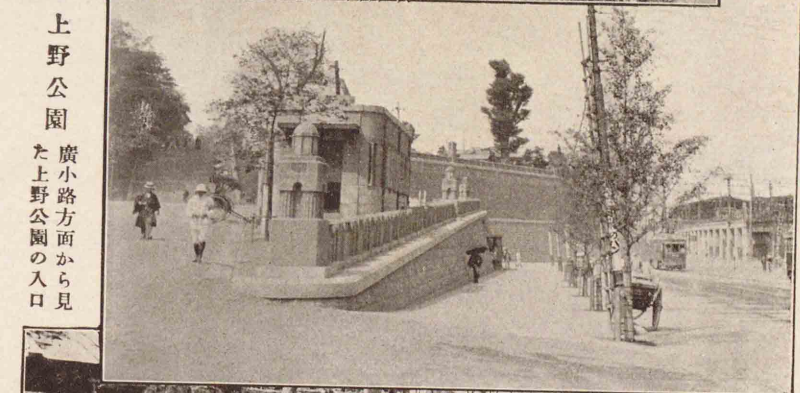


東京帝國大學 本郷大通りにある花崗造の正門

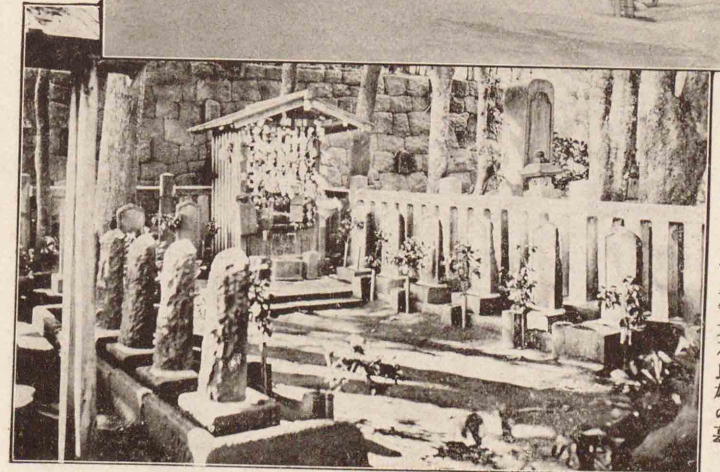
隅田川 都島に開えた言問の邊から川を隔て、淺草方面を望んだ光景



泉岳寺 我が國武士道の華と散つた赤穂主領大石良雄の墓根



上野公園 廣小路方面から見た上野公園の入口



社寺には靖國神社・淺草寺・泉岳寺・増上寺等、公園には日比谷・上野等、勝地には向島・飛鳥山等がある

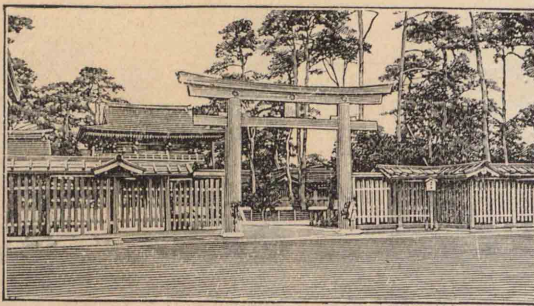
明治神宮 南神門即ち正面を望んだ光景である

立川に陸軍飛行場がある

神奈川縣

横濱市	千八百一
川崎市	一千四百一
鶴見市	一千五百四
保土ヶ谷町	二千二百八
小田原町	二千二百五
平塚町	二千二百二
藤澤町	二千二百一
鎌倉町	二千二百〇
茅ヶ崎町	二千二百〇
田島町	二千二百〇

横濱の埠頭 震災後の模様を示したものである

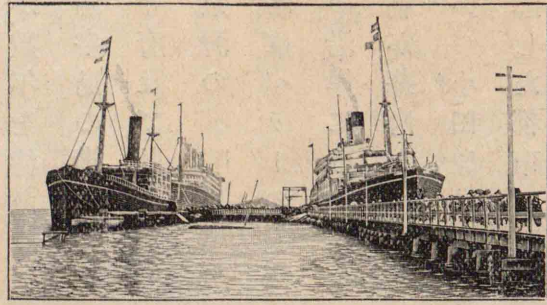
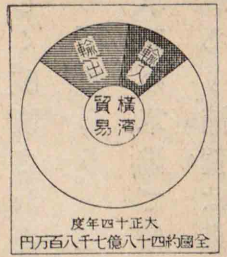


して發達し、臺地には澁谷・中野・西巢鴨・淀橋等の住宅地が開けた。市の内外には明治神宮を始め、社寺・公園・勝地等の著名なものが多く、観光の客が常に絶えない。

八王子市は、養蠶機業の中心地で、中央線の鐵道は、此處を経て西方に通じてゐる。

東海道線に沿ふ横濱市は、東京の門戸に當り、我が國

最大の輸出港で、内外の船が常に集り、貿易が盛に行はれ、生絲・羽二重の輸出が殊に多い。防波堤・棧橋等の港灣設備は大震



横須賀に近い田浦に水雷學校砲術學校あり、追濱に海軍飛行場がある。三浦半島南端の三崎に大學臨海實驗所がある。

鎌倉の大佛  
金剛の露生佛で高さ十米半と號せられる。

鎌倉には鶴ヶ岡八幡宮建長寺圓覺寺大佛鎌倉宮(祭神護良親王)等がある。



業の一中心である。

箱根山は名高い複式火山で、中に數箇の火口丘が聳え、火口原湖たる蘆湖の沿岸には、離宮や關所の址がある。蘆湖から流出する早川の急流は、到る處に勝景を伴つてこの山中を奔り、その溪谷には多數の温泉があつて、入浴遊覽の客が多く、之が爲に遊覽電車も敷設せられてゐる。

の爲に著しく破壊されたが、數年を待たずして恢復するであらう。三浦半島の横須賀市は、第一海軍區の軍港で、鎮守府及び壯大な海軍工廠等があり、浦賀は東京灣の咽喉に當り、造船が行はれ、附近の久里濱はペリーの上陸地として名高い。相模灣の沿岸には保養に適する處が多く、鎌倉は頼朝が幕府を開いた地で、著名な社寺史蹟が多い。小田原はもと箱根山麓の宿場として發達した都市で、又漁

千葉縣

千葉市 千人  
郡邑人口 四一  
千葉に醫科大學がある。  
佐原は伊能忠敬の出身地である。  
小湊に誕生寺がある。

埼玉縣

川越市 千人  
郡邑人口 三一  
熊谷市 二七  
大宮市 二五  
浦和市 一八  
大宮に氷川神社(祭神大己貴命その他)がある。  
熊谷の南方に當る吉見に百穴がある。  
秩父地方は我が國地を學搖籃の地といはれ、長瀬は景色がよいので名高い。

千葉市

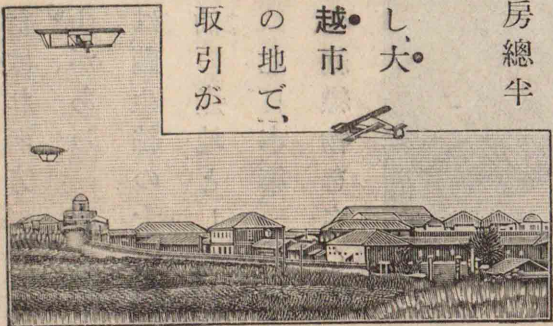
千葉市は鐵道(總武房)の要地に當り、その附近の臺地は練兵地で、陸軍の學校兵營等が多い。印旛沼に近い佐倉は地方の名邑で、成田には名高い不動堂がある。利根川沿岸の佐原は舟運の要地で、附近に香取神宮がある。河口の銚子は、港口が險惡であるが、漁業の大中心地で、又醬油、鰹節等の産出が多い。房總半島には保養に適する漁港が處々にある。

東北線に沿ふ浦和

浦和は、附近から綿織物を出し、大宮は高崎線の分岐點で、鐵道の工場がある。川越市は機業の一中心をなし、所澤は我が航空術發祥の地で、又附近には茶の産がある。熊谷は繭生絲等の取引が盛に行はれ、秩父盆地は絹織物を産し、秩父はその市場である。

高崎市

高崎市は鐵道(高崎、信越)の集點に當り、繭生絲





群馬縣

郡邑人口 千人  
前橋市 七三  
高崎市 四三  
桐生市 四二

圖 妙義山の奇景  
妙義山は峯頭が白雲金洞金鶏の二つに分れてゐる。圖は金洞山の第一石門である

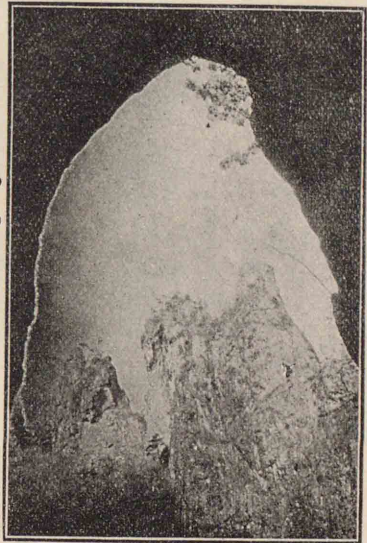
太田の金山に新田神社があり山麓に大光院がある

栃木縣

郡邑人口 千人  
宇都宮市 七六  
足利市 三九  
栃木町 二七  
足尾町 二二  
鹿沼町 二〇

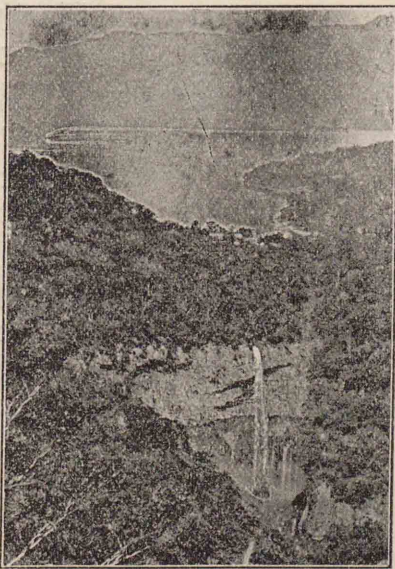
足利に足利學校の址がある

圖 華嚴瀧  
直下百六米といはれ極めて壯觀で圖の遠景に白く見えるは中禪寺湖である



し、東南の館林には製粉・製織等の工業が行はれる。

足利市は關東屈指の大機業地で、佐野にも綿織の産が多い。栃木には大麻・生絲等の集散が行はれ、小山は鐵道線路(兩毛・水戸)の集點になつ



の集散が盛に行はれ、西方に奇景で名高い妙義山がある。兩毛線に沿ふ前橋市は、繭生絲の大市場で、伊勢崎は銘仙の産地として、名高い。桐生市は北日本第一の機業地で、輸出向の絹織物を多く産

宇都宮の西北に大谷石の産地がある

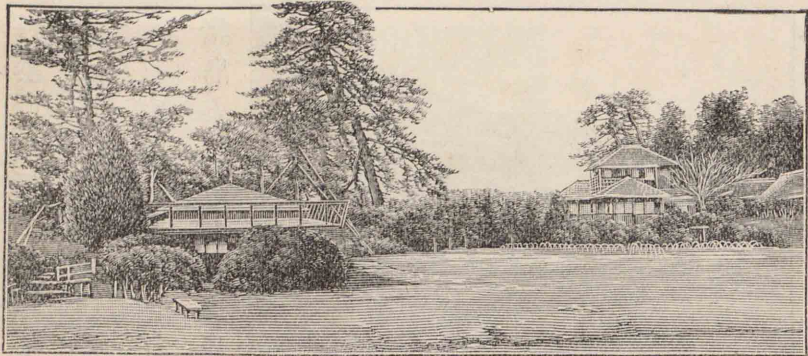
中禪寺湖は火山噴出物によつて出来た堰止湖で海拔千二百七十一米の處にある

圖 常磐公園  
右方の二階建物は好文亭である

茨城縣

郡邑人口 千人  
水戸市 四六  
日立町 二三

土浦の附近に海軍の飛行場、高層氣象臺がある  
鹿島神宮は武甕槌神を祀る



てゐる。宇都宮市は日光線の分岐點で、第十師團司令部があり、附近に干瓢の特産がある。日光には壯麗な東照宮の社廟があり、足尾は著名な鑛業都邑である。

日光は人工の善美を盡した東照宮がある上に、山中には中禪寺湖を湛へ、その水は懸つて華嚴瀧となり、流れて大谷川となつて自然の景趣を添え、又附近に温泉も湧き、殊に夏は涼しく、秋は紅葉が滿山を彩り、その名が内外に知られてゐる。

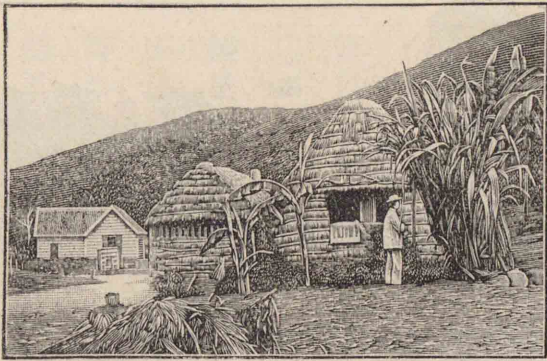
水戸線に沿ふ結城は、結城紬の名産を出し、霞浦に臨む土浦は水運の要地で、繭の集散が行はれ、北浦に近い鹿島神宮は、名高い古社である。水戸市は徳川氏が親藩を置いた處で、名高い常磐公園がある。那珂川の口に臨

湊の附近に大洗の勝地がある。北常陸の海岸には高萩・平潟等の勝地が少くない。

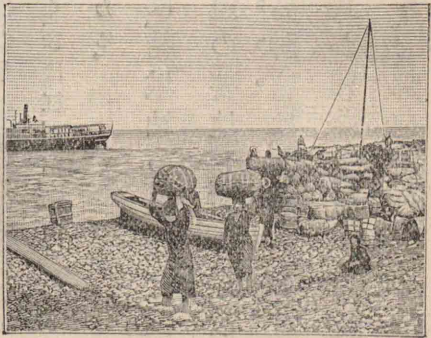
大島の海岸 元料の増頭で女子が多く労働をなし内地から移送の米俵を頭上は載せて運ぶ光景

小笠原島には大編蝠・林投樹等が生ずる

小笠原島には大編蝠・林投樹等が生ずる



む湊は、水戸の外港で、海産物の集散が多く、日は、鑛山の爲に發達してゐる。豆南諸島は、伊豆七島と小笠原諸島とに分れ、硫黄島諸島・南島島等と共に東京府の管轄である。多くは富士火山脈に屬する火山島で、大島の三原山には常に噴煙が絶えない。伊豆諸島は椿油を出し、近海には水産が多く、その中の八丈島には絹織の名産がある。小笠原諸島には甘蔗・鳳梨等の栽培が行はれ、又巨大な海龜の産がある。父島の二見は近海の良港で、太平洋を横斷する海底電線の中繼所である。



國名

磐城 岩代 陸前 陸中 陸奥 羽前 羽後

面積 約六六六〇方料 (約四三〇〇方里)

人口 約六一六萬

一方新九二人 (一方里一四二七人)

山脈・火山脈 奥羽山脈 阿武隈山脈 北上山脈 越後山脈 那須山脈 岩手山 吾妻山 磐梯山 八甲田山 鳥海山 岩木山 寒風山

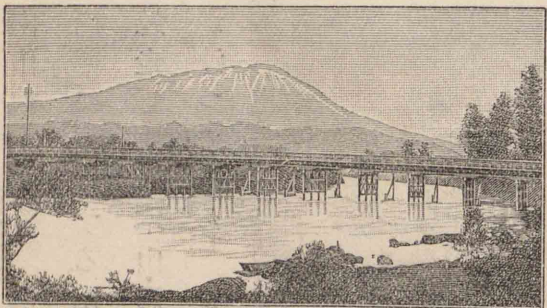
第二章

奥羽地方

通説

本州の東北部を占め、古の陸奥・出羽の地で、政治上六縣に分ける。

地勢 三條の高地が略、南北に連つて、その間に細長い弁野、又は盆地を挟んでゐる。中央を縦貫する奥羽山脈は、割合に低い山地であるが、那須火山脈が竝走して、磐梯山・吾妻山・岩手山・八甲田山等の高峰を起してゐる。この地帯には猪苗代湖・十和田湖・田澤湖等の、火山に關係ある湖水が多く、風光がよい。東部には阿武隈・北上の



府縣名(廳所在地)	管轄國名	面積、人口
福島縣(郡島市)	岩代	一三六一五方料 一四三、七千人
宮城縣(仙臺市)	陸前一部	七二八六方料 一〇四、四千人
岩手縣(盛岡市)	陸中一部 陸前一部 陸前一部	一五二、三四方料 九〇、〇千人
青森縣(青森市)	陸奥一部	九六、三〇方料 八一、二千人
秋田縣(秋田市)	羽後一部 陸中一部	一一五、〇四方料 九三、六千人
山形縣(山形市)	羽後一部	九三、〇五方料 一〇二、七千人

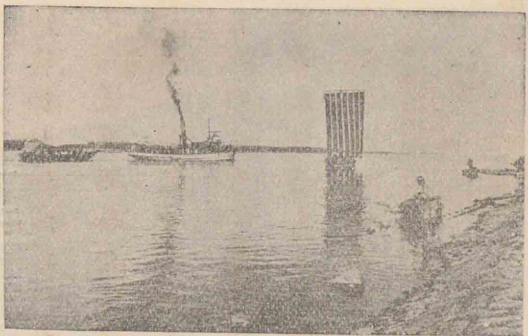
兩山地は著しく浸蝕を受けて共に高原状であるが阿武隈山地は一層浸蝕が進んでゐる

月山は羽黒山湯殿山と共に出羽三山と呼ばれるが湯殿山は月山の一部で別個の山ではない青森縣の恐山には硫質噴氣孔が多い

最上川の下流酒田の附近で見た光景

河(湖) (流長) (周囲) 軒

田澤湖	猪苗代湖	岩木川	馬淵川	米代川	雄物川	阿賀川	阿武隈川	北上川	最上川
一四九	一五〇	一五〇	一三〇	一四九	一四九	一四九	一四九	二二六	二四三



兩山地がある。共に高臺性で高くはないが東西の交通を妨げる。西部に斷續する出羽丘陵は、多くの盆地を抱き、鳥海火山脈が之に竝走して、岩木山・鳥海山・月山等の名山を起し、この南部に越後山脈が連つてゐる。是等の火山地方には温泉の湧出する處が多く、中にも東山飯坂(福)・鬼首(宮)・浅蟲(森)・上山(山)等は殊

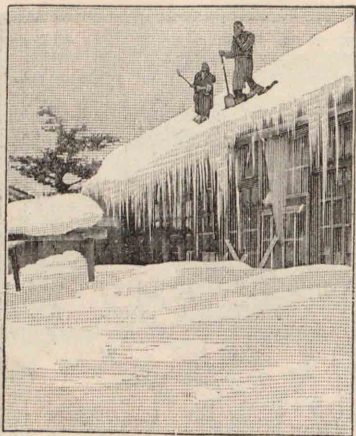
に名高く、鬼首は間歇泉で知られてゐる。河は多く山脈に沿ひ、又は盆地を貫流する。その主なものには、東に北上川・阿武隈川等があつて、下流に仙臺平野を開き、西には阿賀川・最上川・雄物川・米代川・岩木川等が流れて、其等の流域に、庄内・津輕等の平野がある。海岸 沿岸は概單調であるが、北部には下北津輕の兩半島があつて、陸奥灣を抱き、北海道

陸奥灣の大湊附近及び大間崎附近は要塞地帯である津輕海峽には龍飛崎・大間崎及び尻屋崎が突出してゐる

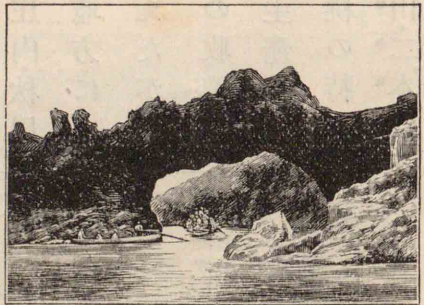
男鹿半島の奇景 西岸にある天然の大石橋である

青森の雪景 家は雪に覆はれてゐる

千島寒流は一に親潮ともいふ

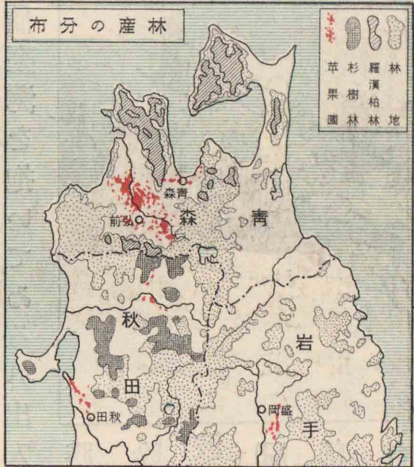


との間に津輕海峽を挟んでゐる。灣内には海軍要港の大湊があつて、我が北方の備となつてゐる。岩手縣の海岸には鋸齒状の出入が多いが、山地が海岸に迫つてゐるので、商港として發達した處はなく、僅に近海航路の寄港地、又は漁港たるに過ぎない。南部には牡鹿半島が出て、仙臺灣を抱いてゐる外、出入が少い。西岸は、奇



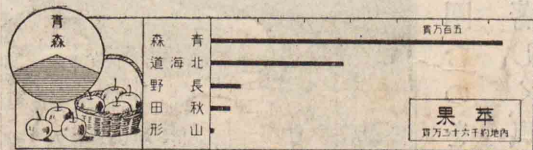
勝に富む男鹿半島が八郎瀉を圍むのを除けば、概平直で、砂丘の發達が著しく、風波が荒いから良港はない。氣候 本州中で氣温が最低く、殊に東北部は千島寒流に洗はれて、夏は屢濃霧が起り、西部は對馬暖流と西北季節風との

岩手縣の種は産額が全國第一である  
青森縣の苹果産額は全國第一である  
山形縣の櫻桃産額は全國第一である



仙臺等の平野は、米の産地として知られ、之を他地方にも送るから、石巻(城宮)・酒田(形山)はその積出港として榮えたが、今は鐵道によるものが多い。又、到る處に馬鈴薯の收穫が多く、福島縣の煙草、岩手縣の大豆、稗等も一部の主産物で、津輕平野には苹果の産が多く、山形盆地には、櫻桃の特産がある。養蠶は福島山形の二縣に最も發達し、郡山・二本松

影響で、冬は雪が多く、交通を妨げるこ  
とが少くない。東西兩山地の内部は、  
寒暑の差が最も烈しい。  
〔産業〕 氣候、位置等の關係から開發が  
稍、後れ今でも未墾の原野が  
少くない。従つて、面積の割  
合に農産は少いが、庄内・秋田

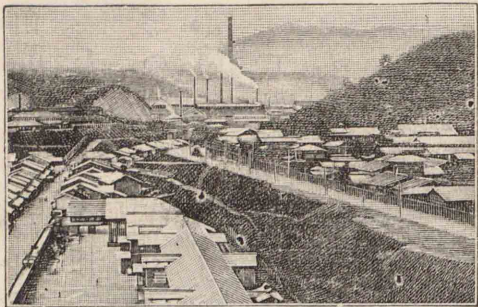


岩手山麓の牧場  
小岩井農場の放牧を示したもので、遠景の山は岩手山である

三本木原に軍馬育成所がある

小坂鐵山  
山間に鑛山あり、發達せしめ、左方の低地に並ぶ家は従業員の住宅、高處にあるは役宅、又中央に高く建つ煙突は精錬所である

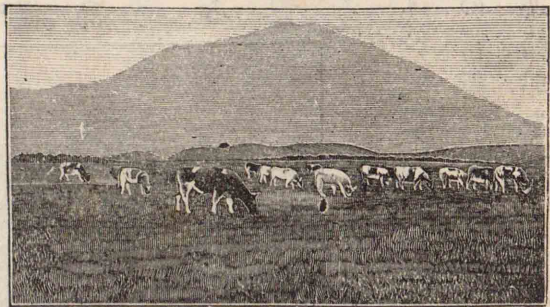
岩手縣の鐵産額は内地第一である



等には製絲業が盛である。東部一帯の諸縣には、馬の放牧が行はれ、三本木原(青森)・岩手山麓(手岩)・鍛冶谷(澤城宮)・三春附近(福島)等はその中心である。



秋田・青森の二縣には杉・羅漢柏等の良材を産し、能代港には壯大な製材所がある。秋田縣は鑛物の埋藏に富み、鑛業が大いに發達し、小坂・尾去澤・阿仁・荒川等の銅・銀、秋田・油田(川黒川道)の石油は産額が最多く、その他釜石の鐵(手岩)・安部城の銅(青森)・常磐炭



秋田・青森の二縣には杉・羅漢柏等の良材を産し、能代港には壯大な製材所がある。秋田縣は鑛物の埋藏に富み、鑛業が大いに發達し、小坂・尾去澤・阿仁・荒川等の銅・銀、秋田・油田(川黒川道)の石油は産額が最多く、その他釜石の鐵(手岩)・安部城の銅(青森)・常磐炭

圖 金華山沖の捕鯨  
 小船に乗り小銃から第一發を發射し今や第二發を發射しようとする所である

未だ大工業地帯の發達を見ない

仙臺の商業範圍は稍、廣いが、取引の盛なのは福島が生絲・羽二重である青森は奥羽地方唯一の開港場である

田(福)の石炭高田(城)の亞鉛等も亦著名である。

太平洋の近海には、水産物が頗る豊富で、鰻・鮪・鮑・鮭等の漁利が多く、金華山沖は有名な捕鯨區で、小名濱(福)・宮古(岩)・鮫(青)等は、主要な漁港である。

工業は福島・山形兩縣の製絲・機業が最も盛で、川俣(福)・米澤(山)は絹織産地として名高い。この他福島縣の陶磁器(中村)・漆器(松)等も稍、知られてゐる。

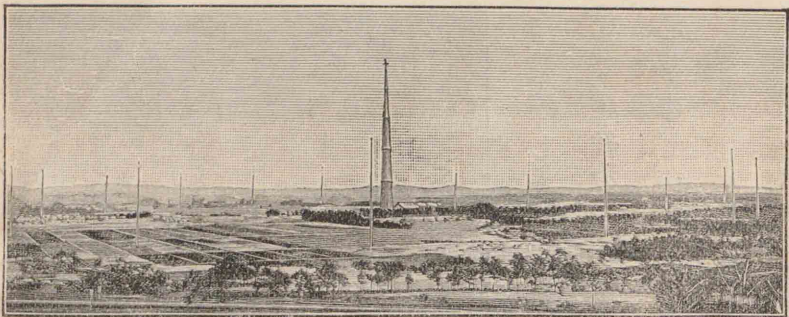
商業は未だ大中心がなく、只特殊の産物のある地方で、その取引が行はれるのみである。外國貿易は、青森から水産物を出すのが、主なものである。

交通 主要な道路は、河谷又は海岸を通じ、鐵道も之に沿うて走るものが多い。東北線は、奥州街道に沿ひ、東海岸の常磐線を連ねて、この地方の幹線となり、青森・函館の間には鐵道連絡船を通じてゐる。

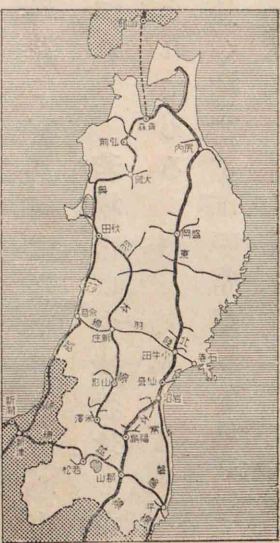


- 青森・函館間の連絡船には列車航送の設備がある
- 1 福島・青森間
  - 2 秋田・新津間
  - 3 新津・平間
  - 4 余目・小牛田間
  - 5 横手・黒澤尻間

圖 磐城無線電信局  
 圖は原町の送信局で富岡にある受信局とを併せて磐城無線電信局といふ



る。西部の奥羽線・羽越線は共に裏日本の幹線となつてゐる。この他、



磐越・陸羽・横黒等の横斷線もあるが、面積が廣いから、鐵道網は密でない。海運は、良港が少く殊に日本海面は、冬季風浪が荒いので、航行を妨げることが多いが、北海道と連絡の衝に當るから、彼我の往復は頗る頻繁である。

福島縣には磐城無線電信局があつて、米國と通信し、又米國を経て歐洲諸國とも通信を交換することが出来る。

**福島の生絲荷造場**  
 歲々から集つた製品の品位を鑑別し荷造りして出すので信用を高める一法である



**福島縣**  
 縣人口 千人  
 福山市 四二  
 郡山市 四二  
 若松市 四二  
 白河町 三三  
 平河町 三三  
 白河の近くに白河關址がある  
 郡山は猪苗代湖の電力を利用し石炭の輸送にも容易であるから工業が盛になつた  
 川俣の東北に露山がある  
 若松の市外に白虎隊の墓及び東山温泉がある

面積は關東の二倍に餘るが、人口はその半にも達しない、従つて仙臺の外には大都市と稱する程のものはない。  
 東北線に沿ふ白河は、馬市の盛なので名高く、近年護謨足袋の製造が行はれ、郡山市は鐵道(東北)の交叉する處で、近時商工業が大いに發達した。福島市は奥羽線の起點に當り、阿武隈平野の中心市場で、生絲羽二重の取引が盛に行はれる。若松市は會津盆地の中心都市で、戊申の激戦地として知られてゐる。  
 猪苗代湖は近く磐梯山を控へて眺望がよく、湖水の落口には大發電所があつて東京に送電し、又東方に疏水を設けて灌漑の便を計り、且發電に利用して附近の

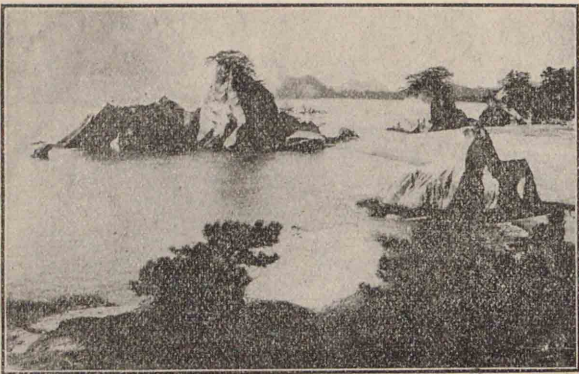
磐梯山は近年爆發してその山麓に榎原湖秋元湖等の堰止湖を作つた

**宮城縣**  
 縣人口 千人  
 仙台市 一四二  
 石巻町 二五

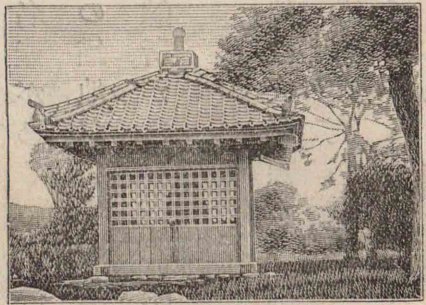
**多賀城の碑**  
 碑は城内にあるが往昔城門の處に建て、四方に至る距離を示したものでらしい。

**松島灣の一部**  
 松島は凝灰岩の地が海水の浸蝕によつて出来たもので昔から日本三景の一に數へられてゐる。

鹽釜に鹽竈神社がある



工業を盛ならしめてゐる  
 東海岸の中村は、相馬焼の名産地で、平は常磐炭田の中心をなし、耐火煉瓦を出す。



仙臺市は伊達氏の舊城下、東北第一の都會で、第二師團司令部、東北帝國大學等があり、仙臺平埋木細工等の名産を出す。市の東方は古の宮城野で、多賀城の址があり、鹽釜は仙臺の門戸である。松島灣には青松を戴く多數の小島があつて、古來風景の美で名高い。石巻は土砂堆積の爲に港が浅いが、荻濱は水が深く良好な錨地である。

岩手縣

盛岡市 千人  
釜石町 五〇  
平泉の附近に衣川  
柵・高館・平泉の館  
等の址がある

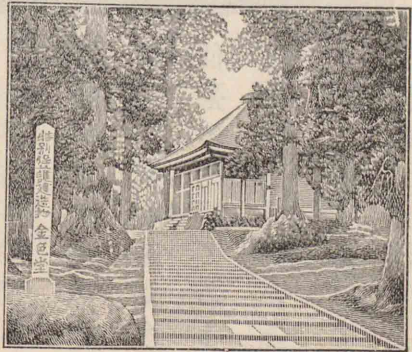
盛岡の馬市  
馬の良否を検査し價格  
を定めるので九月の市  
は最も盛である

中尊寺の金色  
堂  
藤原時代の建築標本で  
圖に見えろのはその覆  
堂である

青森縣

青森市 千人  
弘前市 五八  
八戸町 二二

八戸は鮫・湊等を  
控へて運輸の便が  
よく附近に燕島  
の勝地がある



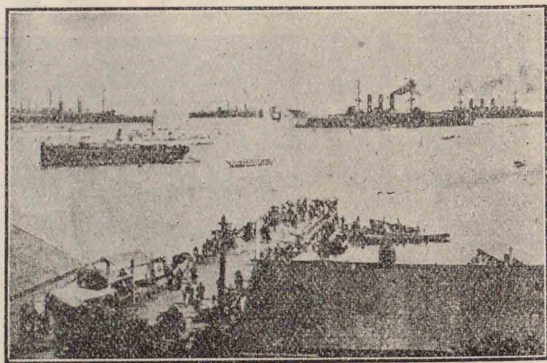
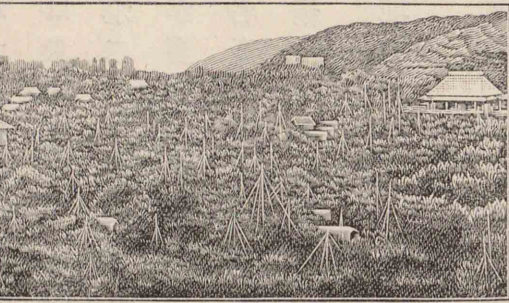
岸には大船渡・釜石・宮古等の錨地がある。釜石は釜石鐵山を控へて精鍊所があるが、内陸との交通は便利でない。

馬淵川に沿ふ八戸は商業上の要地で、野邊地は大湊線の分れる處である。青森市は北海道と交通の要地で、その往復が頻繁に行はれ、又奥羽唯一の開港場であるが、貿易は盛てはない。弘前市

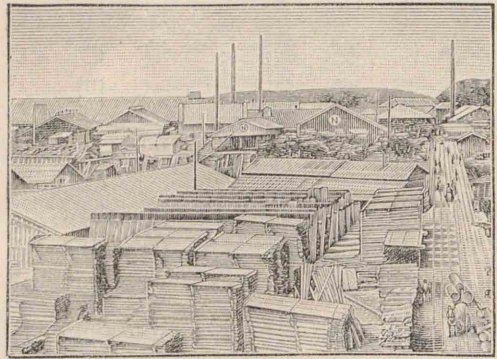
青森港  
埠頭から海上を見た光景

岩木山麓の苹果園  
雪で枝が折れぬやう傘形に繩を張つてある園中に散在する小屋は番小屋である

は第八師團司令部の所在地で、津輕塗・木通細工等の名産を出し、又この附近には苹果の栽培が盛に行はれる。



秋田縣  
秋田市 千人  
能代港町 四三  
秋田木材會社の貯材場である  
能代港には能代塗の名産がある



米代川の流域には著名な鑛山があつて、多量の銅・銀等を産し、又杉の大森林がある。小坂は著名な鑛山市で、能代港は製材の大中心地である。秋田市でも製材が行

米澤の織物工場  
手織工場の内部を示したものである

山形市 五千人  
米澤市 四千人  
酒田市 二千人

尾張 三河 遠江  
駿河 伊豆  
美濃 飛騨 信濃  
若狭 越前 加賀  
能登 越中 越後  
佐渡

はれ、又絹織物、銀細工等を出す。土崎港は秋田の門戸に當り、製油業が盛であるが、冬季は風浪が荒く、碇泊に不便な爲、船川港を補助港としてゐる。横手は交通の要地に當る。  
新庄は盆地の中心地で、鐵道(奥羽)が此處で交叉する。庄内平野は米の産が多く、鶴岡市はその中心市場で、又羽二重の製織が行はれ、酒田には米穀の集散が多い。山形市は綿織物を出し、又銅鐵器の名産がある。米澤市は養蠶地方の中心市で、絹織物の産地として名高い。



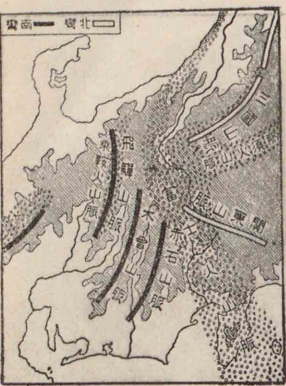
第三章 中部地方

通説

面積 約六六四〇方  
約四三〇〇方里

人口 一三〇萬  
一方里一七〇人  
一方里二六五人

北嶺山系  
關東山脈  
三國山脈  
越後山脈  
南嶺山系  
赤石山脈  
白峰山脈  
木曾山脈  
飛騨山脈  
乘鞍山脈  
白馬山脈  
白山山脈  
富土山脈  
八ヶ岳山脈  
天城山脈  
那須山脈  
淺間山脈



本州の中部を占める廣い區域で、政治上九縣に分ける。  
地勢 日本列島の骨格を成す南嶺北嶺の兩山系が會する處で、山勢は雄大を極め、土地の幅も最廣い。富士山脈が兩山系の間を通じて、富士山を始め八ヶ岳、高山、天城山等を起し、遠く豆南諸島に及んでゐる。この火山脈に

府縣名(廳所在地)	管轄國名	面積・人口
府縣名(廳所在地)	管轄國名	面積・人口
靜岡縣(靜岡市)	伊豆・大郡	七七八方里 一六七一人
愛知縣(名古屋)	尾張・三河	五五五方里 二二二九千人
岐阜縣(岐阜市)	美濃・飛騨	一〇四六方里 一一三二千人
長野縣(長野市)	信濃	一三五五方里 一六二九千人
山梨縣(甲府市)	甲斐	四四五方里 六〇〇千人
新潟縣(新潟市)	越後	一八四九方里 一八四九千人
富山縣(富山市)	越中	四二五方里 七四九千人
石川縣(金澤市)	加賀・能登	四一九七方里 七五〇千人
福井縣(福井市)	若狹	四〇一八方里 五九七千人

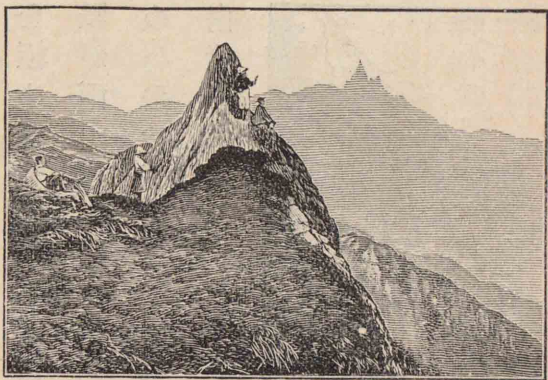
當る地方には温泉の湧出してゐる處が多く、中でも伊豆半島の熱海、修善寺、伊東等は、氣候もよく、保養地として知られてゐる。  
北嶺に屬する關東山脈、三國山脈は關東との境に連り、越後山脈は之に續いて東北



赤石山脈は水成岩からなる褶曲山脈で木曾・飛驒の兩山脈は主として花崗岩からなる斷層山脈である。この三山脈を日本アルプスと呼び位置の上から北・中央・南と別ける

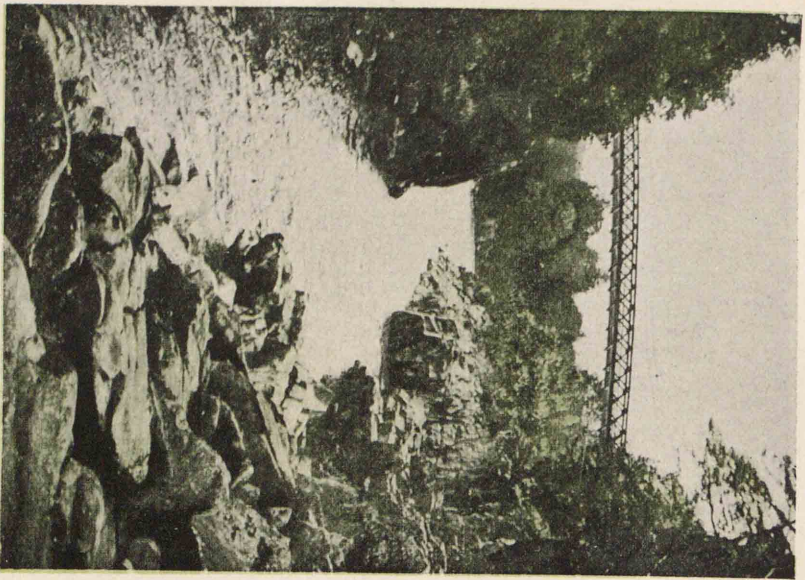
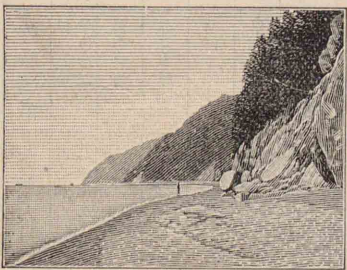
圖 燕岳の頂上  
全山花崗岩から成つて奇峰が多い遙に尖つた高峰は槍ヶ岳である

圖 親不知の海岸  
飛驒山脈の盡端に當る處で海岸に近く高山が峙ち海上からの眺めは實に雄壯である昔はこの水行に街道が通じ難所として聞えたが今は鐵道の便がある



夏も尙處々に殘雪を戴き、山勢が極めて雄大で、所謂日本アルプスの主部をなし、北端は斷崖となつて日本海岸に終り、親不知の嶮を作つてゐる。飛驒山脈の西部は、緩斜して飛驒高地となり、その西

に延び、又東境には、那須火山脈に屬する淺間山が絶えず噴煙してゐる。南彎の赤石山脈には高峻な白峰山・赤石岳等が聳えて、その餘勢は渥美半島から紀伊半島に互り、木曾山脈には駒岳・惠那山等の高山がある。飛驒山脈には白馬岳・鎗岳等の外、乗鞍火山脈に屬する御岳・乗鞍岳・立山等の火山もあつて、三千米以上の高峯が並び峙ち、



天龍峽 龍天峽 潭々湖は淵、橋射付は橋で流峽の名著圖が後

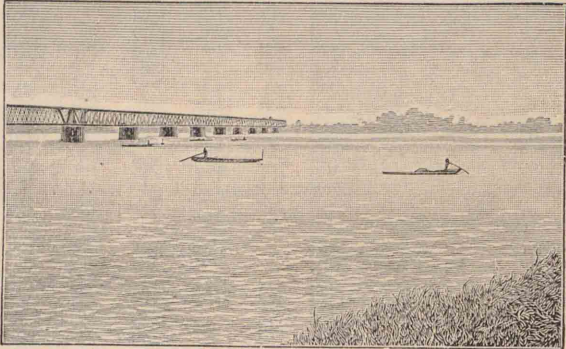


寝覺床 小川河ある 天辨に上岩、邊る十激の淵奔流瀧

河	信濃	木曾	天龍	阿賀	富井	大庄	神龍	常願	安名	諏訪	大井
湖	曾川	龍川	賀川	井川	井川	井川	井川	井川	井川	井川	井川
(流長)	三六九	二二二	二二二	一六九	一六九	一四九	一四九	一四九	一四九	一四九	一四九
(周囲)	三六九	二二二	二二二	一六九	一六九	一四九	一四九	一四九	一四九	一四九	一四九
軒	三六九	二二二	二二二	一六九	一六九	一四九	一四九	一四九	一四九	一四九	一四九

大井川は昔時蓮臺渡があつたので著名である

信濃川の下流には大分水工事を施して氾濫を防ぐ



に聳える白山は、白山火山脈の主峯である。主なる河川は、多く中央から發して放射狀に流れる。南斜面の富士川は、古來急流として名高く、之と殆ど並行して大井川・天龍川・木曾川等がある。木曾川は飛驒・長良・揖斐等の長大な支流を併せ、その下流は廣い濃尾平野を潤してゐる。北斜面の信濃川は千曲川・犀川の合流で、阿賀川と共に下流は越後平野を流れ、この他常願寺川・神通川・庄川・九頭龍川等があつて、其等の流域にも沃野が少くない。

是等の河川は、多く上流・中流に峡谷を作る。天龍川の天龍峽、木曾川の寢覺床、日本ライン等は殊に名高い。下流も流勢は頗る早いから、信濃川・木曾川・天龍川等に小汽船を浮べる外、

長野岐阜山梨新潟  
富山の諸縣は著名  
な水電地である

三河灣内には蒲  
郡・佐久島等の保  
養地がある

若狭灣には敦賀  
灣・小濱灣等の支  
灣がある

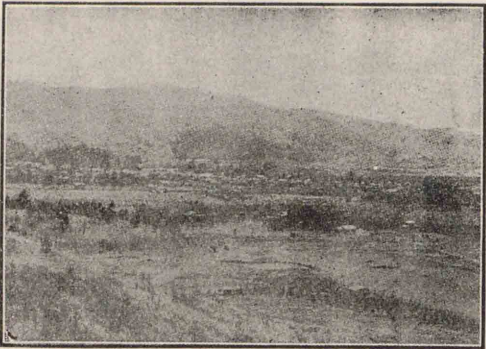
諏訪湖の採氷  
海拔七五九米冬季は採  
氷と共に氷滑が盛に行  
はれる

水運の利は少いが、廣く灌漑の便を與へ、又上流は發電に利用して、この地方は勿論、遠く京濱阪神等の地方にも送電する。  
〔海岸〕 太平洋面の東部には、伊豆半島が深い駿河灣の東を劃し、西部には浅い伊勢海と、知多渥美の兩半島に圍まれる三河灣があり、中部は平直で、その海面を遠州灘と呼ぶ。駿河灣の沿岸には、富士山を背景とする白砂青松の勝地が多い。  
日本海岸の西部には、屈曲の多い若狭灣が天然の良港を作り、中部以東は、能登半島が富山灣を抱く外、概單調である。この海岸には、斷崖の直に海に迫る處もあるが、砂丘が遠く連つて、内に潟湖を抱く處が多い。  
〔氣候〕 太平洋面の地方は概溫和で、殊に駿河灣岸は冬季溫暖で、風景も亦勝れ、避寒の好適地が



輕井澤  
點在してゐる多數の洋  
風家は避暑の爲の別  
荘である

北陸地方の深  
雪  
小千谷町に於ける雪景  
である



多い。内部の地方は、海の影響を受けることが少いので、冬は寒氣が稍強く、諏訪湖は厚く凍つて氷滑場となり、又採氷も行はれるが、土地の高い處は夏が涼しく、避暑に適し、中でも輕井澤は最も名高い。日本海岸は對馬暖流が近く岸を洗つて氣温を緩和するが、大陸の影響を受けるから、寒暑の差は太平洋岸よりも著しい。雨量は中部に少く、海岸地方に多い。太平洋岸は夏期に屢豪雨が降り、日本海岸は冬季に雪が深く積つて交通を妨げ、鐵道は雪除けの設備を要する。  
〔産業〕 風土が好く、農業が盛に行はれ、殊に越



後・富山・濃尾等の平野は、主要な米産地で、他地方へも移出し、長岡・新潟・高岡・大垣・岐阜等ではその集散が盛である。静岡縣は茶の産額が全國の第一位を占め、安倍・天龍兩河の間を主産地とし、静岡はその集散地で清水港から盛に之を輸出し、又

海に近い丘陵等に、蜜柑の栽培も盛である。山梨縣の勝沼附近には、葡萄の特産があり、生果で輸送する外、醸酒の原料ともする。濃尾平野には野菜の栽培が盛で、乾燥、又は

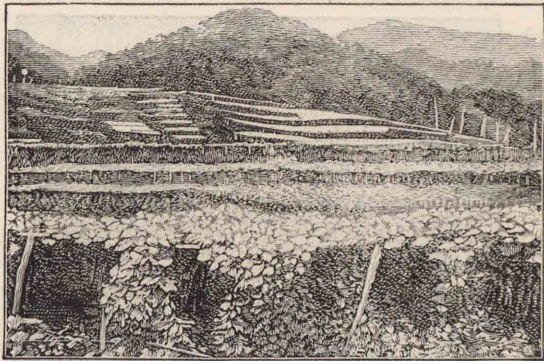


圖 勝沼附近の葡萄園  
園は棚作りの光景であるが、縦横に針金を張つて蔓を支へたものもある

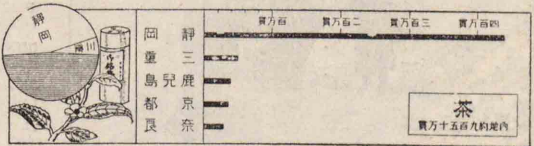
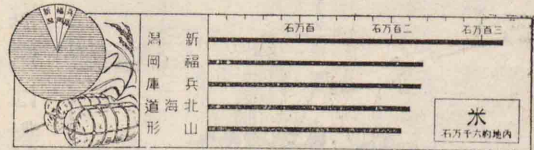
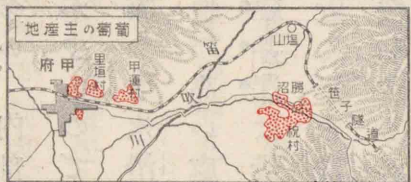
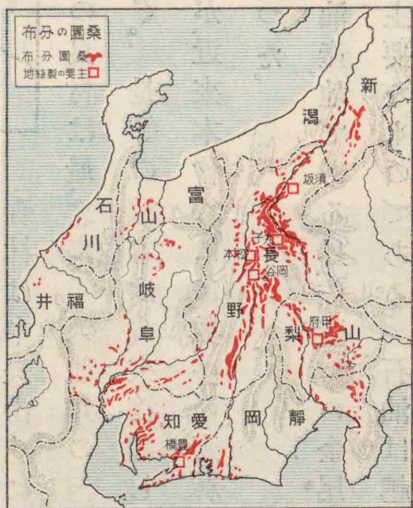
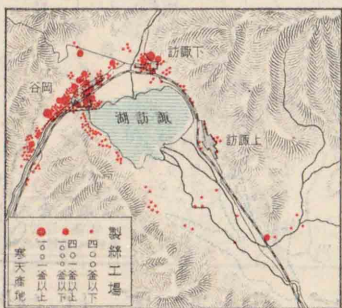
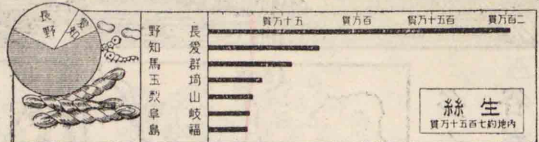
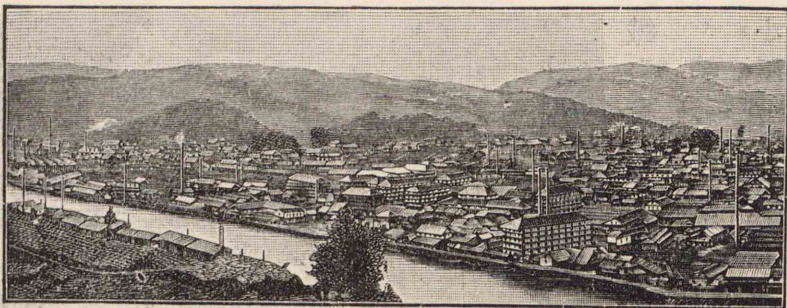


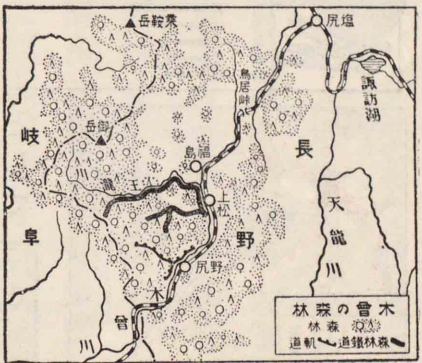
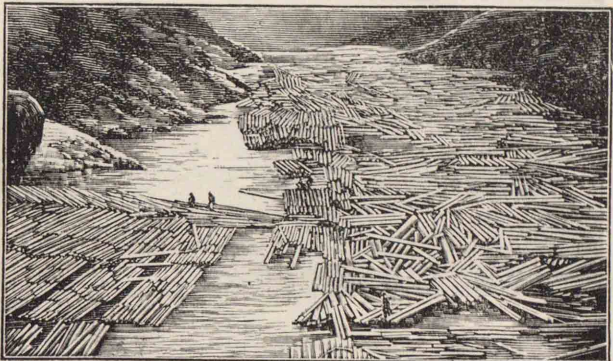
圖 岡谷の製絲場  
製絲業の盛衰を示したもので、處々に見える四層五層の建物は繭の貯蔵庫である



漬物として他地方に送ることが少くない。養蠶は中央部の盆地を中心として、

その附近に行はれ、長野・愛知・岐阜・山梨の諸縣には繭の産額が多い。従つてこの地方は製絲業も甚だ盛で、岡谷・松

木曾川の運材  
岐阜縣可兒郡錦村の  
一部である錦織夜場  
の光景である



代丸子(野長)豊橋(知愛)等には、その工場が多く、中でも岡谷を中心とする諏訪湖畔の一帯は、我が國第一の製絲地である。

森林は中央山地に多く、木曾谷の良材は最、名高く、天龍川の河谷が之に次ぐ。是等の材木は、古來筏として流下したが、近來木曾谷には數多の森林鐵道を通じ、陸路の輸送も頗、盛になつた。

靜岡縣の蓮臺寺も  
金産地として一時  
知られたが今は盛  
てない

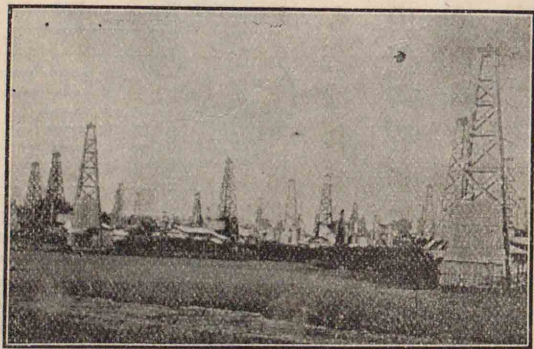
小・屋(石久根)岡(靜)の銅、神岡(阜岐)の鉛等も主要なものである。石油は越

金峰山の水晶も今  
は名のみで産額は  
多くない

後・油・田(新津東)を主要の産地とし、新・瀧・柏・崎(カシハザキ)には製油業が盛に行はれる。この外、岐・阜・縣(カシハザキ)の大石(坂赤)、山梨縣の水晶(山峯)等も特産として知られてゐる。

油田の光景  
新津油田の一部を示し  
たもので林立せる石油  
樁に盛況が察せられる

水産は頗、豊富で、太平洋面の鰹、日本海面の鰯、鯛等は殊に多く、靜岡縣は鰹節の産出が内地第一である。その他、長良川、神通川は、鮎漁を以て知られ、濱名湖及びその附近には鰻の養殖が盛である。

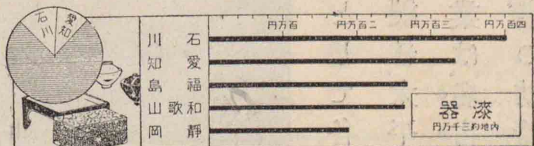
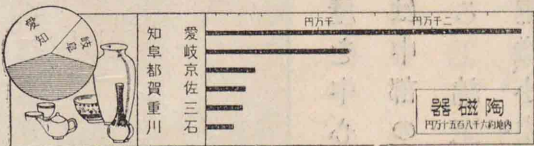


工業は東海道方面に著しく發達し、特に名古屋を中心として各種の工場が多く、大工業地帯をなす。纖維工業は中部の製絲、太平洋斜面の綿工業、日本海斜面の絹織を特色とする。綿工業は、名古屋を中心とする紡績機業を第一とし、濱・松(岡靜)の綿織、小・山(岡靜)の紡績

海氣織は山梨縣から全國の八割餘を出す

瀬戸の日用陶器、名古屋の輸出陶器、常滑の土管類、高濱の瓦類、多正見の日用陶器は何れも有名である

等も亦主要なものである。福井・石川の兩縣は絹織の産額が多く、福井・大野(福)・金澤・小松・大聖寺(石)等では、盛に輸出向の羽二重を出す。新潟縣の山麓地方では處々から(小千谷・十日町・五泉等)精巧な絹織を出し、山梨縣の郡内地方には海氣織の特産がある。その他、愛知(瀬戸・名古屋)・岐阜(多治)・石川(金澤・山代)諸縣の陶器、石川(山中)・静岡(兩縣)の漆器も産額が多く、新潟縣(三條)の鐵器、富山(高岡)・新潟(燕)兩縣の銅器も著はれてゐる。又岐阜・静岡・福井の諸縣からは和紙を産し、富士山麓(其他)には洋紙の大工場がある。醸造は愛知縣に最盛で、知多半島(半田)には、酒・醬油・酢等の産出が多い。



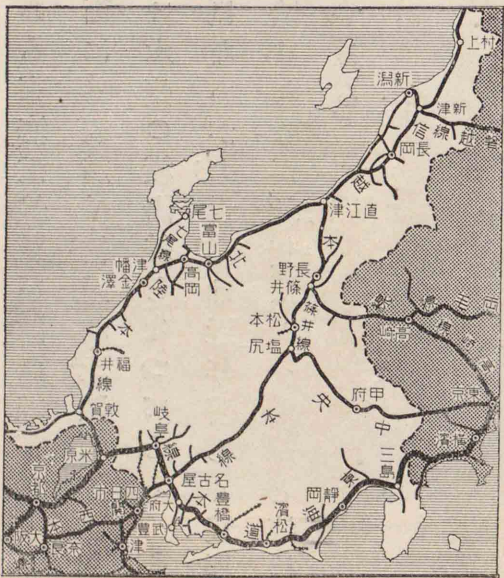
名古屋・清水・武豊・敦賀・七尾・伏木・新潟・夷は開港場である

大宮附近の富士製紙會社  
富士製紙會社  
富士製紙會社から見た光景  
で遙に走るは富士身延鐵道の列車である



産物が多い爲、商業も亦甚だ盛で、名古屋はその大中心である。外國貿易は、名古屋港その他の開港場で行はれる外、横濱を経由するものも少くない。

交通 京都と江戸とを連絡する東海道、中仙道を通じてゐるので、昔から人馬の往來が極めて頻繁であつたが、今は鐵道の敷設が普及し、その幹線は概舊時の街道に沿つてゐる。即ち太



1 名古屋・大阪間  
 2 高崎・新潟間  
 3 米原・直江津間  
 中央線は甲信地方  
 を東京及び名古屋  
 と連れ羽越・北陸・  
 信越の諸線は奥  
 羽・北海道方面と  
 阪神地方とを連れ  
 てゐる

●静岡縣

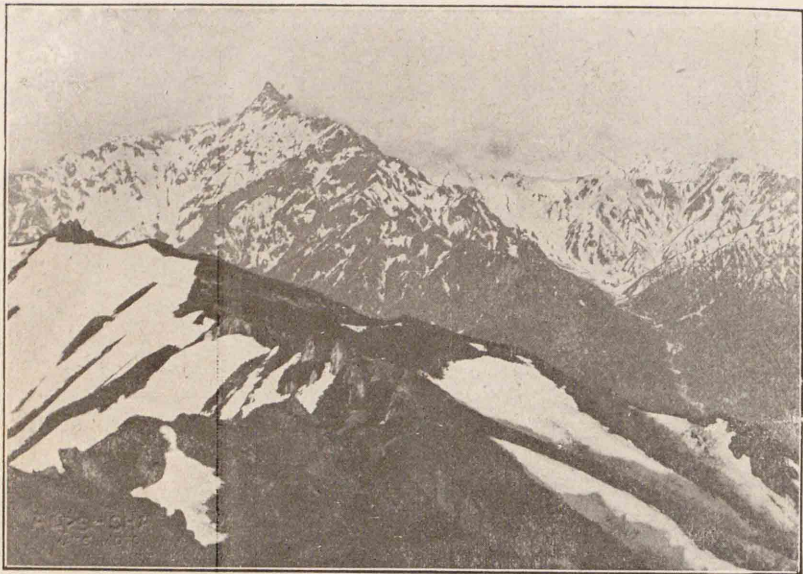
都邑人口  
 静岡市 八四九  
 濱松市 四六二  
 清水市 三三八  
 沼津市 二〇〇  
 大宮町 二〇〇  
 三島町 二〇〇

平洋方面には、表日本の幹線である東海道線及び關西線があり、中部には中央線があり、日本海方面には羽越線<sup>2</sup>・信越線<sup>3</sup>・北陸線等が相連つて、裏日本の幹線となり、或は本州の横斷線となつてゐる。海運は未だ大中心の發達を見ないが、名古屋は近年著しく發展し、日本海面は冬季風浪の荒い憾はあるが、敦賀はシベリヤと連絡して、世界交通路の一端に當つてゐる。

處誌

南北の海岸地方には、近年各種の産業が起つて、都邑の發達を促し、中部盆地には養蠶の爲に榮えてゐる處がある。従つて人口の密なことは關東・近畿に次いでゐる。

■東海道線の鐵道は、富士山の南麓を走る。富士山は國內第一の名山で、夏季には登山者多く、御殿場・大宮及び吉田(梨山)は、何れもそ

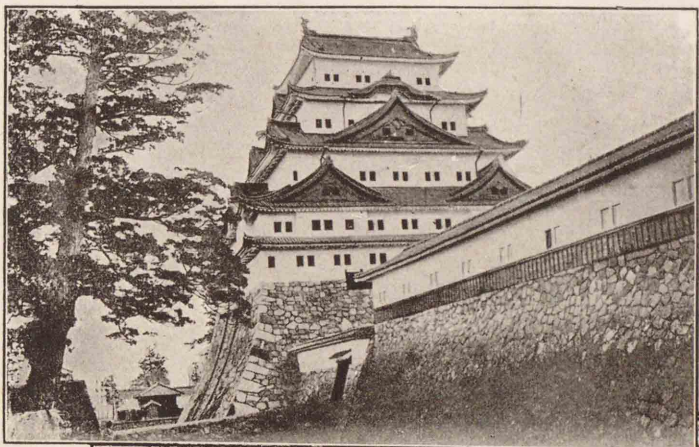


スブルア本日  
 岳ヶ槍はのるゐてし壓威を峯連と然嶺てつ峙に央中



り走砂の山士富  
 々人るす山下でん踏を礫砂

名古屋城 天守の高さは三十七米、名物の金鱈は高さ二米八



熱田神宮 神々しい老杉の間に社殿が拜される神殿は大廟に模した白木造

名古屋の市街 市内で最も繁華な廣小路通の一部である



富士山麓には数多の湖水が散在し山中湖・明見湖・河口湖・西湖・精進湖・湖・四尾連湖・本栖湖は箱根・蘆湖と合せて富士八湖と呼ばれる

富士川口の海岸を田子浦と呼ぶ

茶の積出

米國行の茶箱を小舟に積んで神倉の汽船に運ぶ光景である

豊橋の製絲場

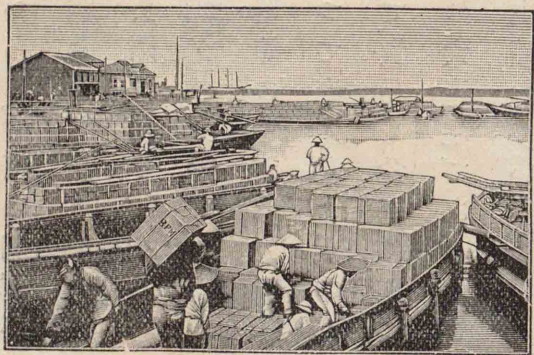
圖は鐵道近から市街を望見した所である

濱松の北方に三方原の古戦場がある

愛知縣

名古屋	七六八
豊橋市	八二
岡崎市	四四
宮崎市	三四
安城市	二二

の登山口に當つてゐる。伊豆半島の下田は、我が開國の史上に名高い。駿河灣岸は氣候が溫和で、沼津市興津等の保養地が多く、清水市は茶の輸出の多い開港場で、近く三保松原及び久能山を控へ、風光が甚だよい。静岡市は、徳川家康隱棲の地で、茶紙等の集散が行はれ、又漆器竹細工を出す。濱松市は工業が盛で、綿織・帽子・樂器等を産し、附近の濱名湖沿岸には勝地が多い。



豊橋市は製絲業が盛に行はれ、この東北に稻荷の爲に名高い豊川がある。岡崎市は徳川



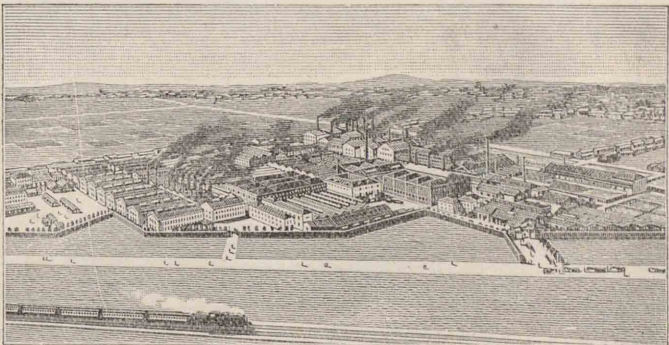
豊川の上流に鳳來寺・長篠古戰場等がある

市は東・西・中・南の四區に分れ、醫科大學(縣立)がある

名古屋の日本陶器會社

専ら輸出の磁器や内地向の洋食器を製造する

熱田神宮は草薙劍を祀る



氏創業の地で、綿織を出し、有松・鳴海は絞木綿の名産地である。知多半島には晒木綿の産が多く、武豊は開港場である。名古屋市は徳川氏親藩の城下として發達した處で、今は我が國六大都市の一に數へられ、中京の別稱がある。舊城には第三師團司令部及び離宮が置かれ、又熱田神宮、中村公園等の史蹟や、各種の學校がある。鐵道(東海道中)の集點で、綿絲、綿織、毛織、漆器、時計、陶器、樂器等の産が多く、又七寶燒、扇子等の名産もあつて、商工業の大中心をなし、その港は開港場で、貿易も益々盛になつた。一宮市には機業が行はれ、瀬戸は陶磁器の大産地である。この地方には清洲、小牧、山桶、狭間等、戰國時代の史蹟が多い。

岐阜縣

郡邑人口 千人

岐阜市 八一

岐阜と隣接せる加納は盛に傘を産し、市東の各務原には陸軍飛行場がある

長良川の鵜飼

七艘の漁舟が一組となつて鵜飼をしてゐる所、て右方に黒く突き出た山は金華山である

高山に近い位山は古來一位木の産地として名高い

養老瀧

養老公園の西部にあつて孝子の傳説で名高い

山梨縣

郡邑人口 千人

甲府市 六八

岐阜市

岐阜市は絹織、毛織等を出し、又提灯團扇等の名産がある。鵜飼に名高い長良川は、市の東北を流れ、その上流地方では、紙の抄出が盛である。大垣市は揖斐川舟運の要地を占め、米の集散が多く、西南に養老瀧、西方に關原の名蹟がある。高山は飛驒盆地の中心都邑で、製絲業が行はれ、又春慶塗、一位細工の名産を出す。中央線の鐵道は



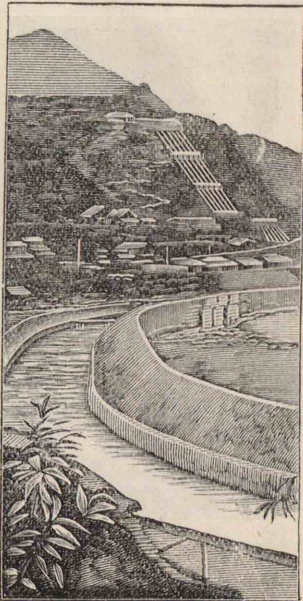
製陶地の多

治見製絲地、中津等を連ねて長野縣に入る。四東京から起る中央線の鐵道は、桂川の河谷を通つて山梨縣に入る。



桂川に架けた猿橋は古來奇構を以て名高い、その西北に天目山がある

桂川の發電所  
廣里村陶橋の發電所  
發電馬力二萬二千餘に達する



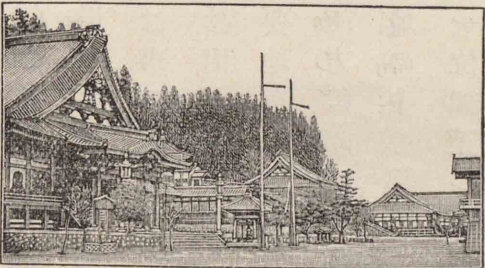
桂川は山中湖から發し、盛に發電に利用され、その流域の谷村は海氣織製出の中心で、西北の笹子峠には我が國最長の隧道が通じてゐる。甲府市は甲府

甲府の附近に酒折宮(祭神日本武尊)がある

身延山の久遠寺  
圖の左端に見えるのは、師範堂で金彩装たる美しい建物である

長野縣  
都邑人口 千人  
長野市 六六  
松本市 六三  
上田市 三二  
諏訪町 二〇

諏訪湖畔には處々に温泉が湧出する



盆地の中心都市で、生絲の取引が多く、又葡萄酒、水晶細工等の名産を出し、北方に御嶽の勝地がある。西南の鵜澤は富士川沿岸の名邑で、身延山は日蓮宗の靈場である。

諏訪湖の沿岸には製絲業の大中心たる岡谷を始め、上諏訪、下諏訪等の名邑がある、この附近からは寒天を出す。天龍川河谷の飯田は製絲業が行はれ、鹽尻は鐵道の要地に當り、福島は木曾谷の中

松本の東北に姥捨山の名地がある、此處からの眺望は甚だよい

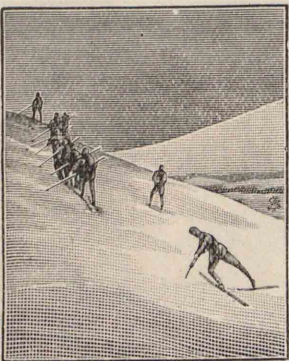
諏訪地方の寒天製造  
箕の上に並べて寒氣に遣はせ凍らせた所である

善光寺  
本堂の正面を示したものである

長野の附近に川中島古戰場がある

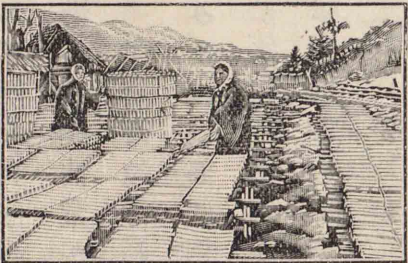
スキー練習  
高田附近の光景で右方に一部を現はす斜面は妙高山の裾である、赤倉温泉はその中心

新潟縣  
都邑人口 千人  
新潟市 一〇八  
長岡市 五三  
高田市 三〇  
三條市 二七  
新発田町 二〇



心地である。松本市は繭生絲等の取引が甚だ盛で、又蠶卵紙を産し、養蠶業の大中心である。信越線に沿ふ上田市は繭の集散が行はれ、又織物の産がある。長野市には名高い善光寺があるので、参詣者の絶える時なく、この附近には杏の名産がある。東南の松代、須坂は共に製絲業が行はれる。

高田市附近は冬季の積雪が深いから、スキーの練習地として知られ、直江津は水陸交通の要地である。柏崎は油田を控へ



村上に漆器の名産がある

信濃川の河口新潟の河津を示したもので現今この河口に築港の工事中である

新潟に醫科大學がある

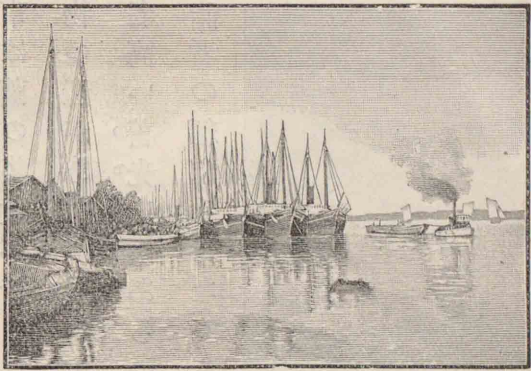
富山灣の蜃氣樓

前方に見える松林のやうなものがそれである

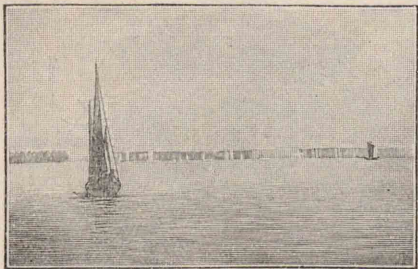
相川に無名異焼の名産がある

富山縣

富山縣 千八百六十七年  
富山市 千八百六十七年  
新湊町 千八百六十七年



山脈の間に一帶の平地を挟み、その西部に相川がある、古來著名な金山であるが産額は多くない。  
北陸線に沿ふ魚津は主要な漁港で、附近の海上には時々蜃氣樓の現はれることがある。富山



て製油業が行はれ、長岡市は石油米等の取引が盛である。小千谷十日町は東北の五ヶ所と共に絹織物を産し、新津は鐵道(信越)の集點に當つてゐる、この東北に新發田村上の名邑がある。新潟市は信濃川の口に臨み、古い開港場であるが、貿易は振はない、碇泊が不便な爲、佐渡の夷を副港とし、製油業が行はれる。佐渡は並行した二

魚津の近海には蜃烏賊の名産がある

富山の賣藥製造

廣電の内部を示したもので丸薬を包裝してゐる處である

兼六園の一部池は露ヶ池でその畔の大木は旭櫻と呼ばれる名樹である

氷見に縫針の名産がある

石川縣 千八百六十七年  
金澤市 千八百六十七年



市は富山平野の中心都會で、古來賣藥の製造を以て知られ、その行商人は、都鄙遠近殆ど到らぬ處はなく、支那南洋にまで及んでゐる。高岡市は鐵道の交叉地(北陸)で、銅器漆器を出し、城端には羽二重の伏木は開港場で、米穀の積

機業が行はれる。出が多く、氷見は漁港である。  
北陸線の鐵道は、俱利伽羅峠の西方で七尾線を分ける。七尾は開港場で、附近に和倉温泉がある。金澤市は前田氏の舊城下で、北



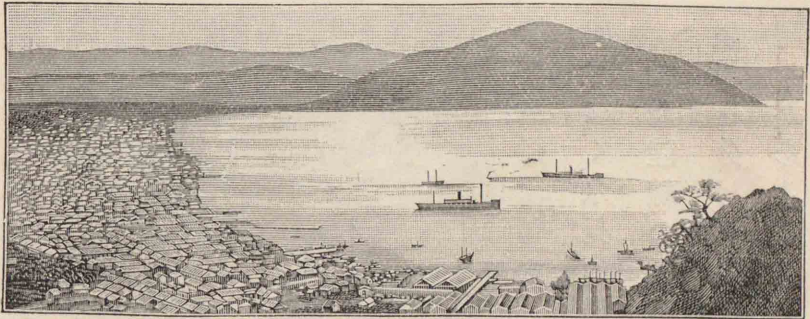
金澤に醫科大學がある

近く右端に見える小山は金崎城址で金崎宮(祭神尊良恒良爾親王)がある

福井縣

郡邑人口 千人  
福井市 五九  
敦賀町 二二

藤島神社は新田義貞を祀る  
永平寺は曹洞宗本山の一である  
三國の附近に東尋坊の勝地がある  
敦賀の東部に氣比神宮(祭神仲哀天皇)がある



陸第一の都會である。第九師團司令部各種の學校及び名高い兼六園がある。羽二重九谷燒の外、漆器、硬質陶器等の工業が行はれ、米の取引も頗る多く、金石はその外港である。山代山中は共に著名な温泉場で、前者は大聖寺と共に九谷燒を出し、後者は盛に漆器を出す。

九頭龍川の流域は羽二重の製織が盛に行はれ、福井市はその大中心で、市内に藤島神社があり、又東方に永平寺がある。河口の三國は福井平野の門戸で、上流の大野勝山は共に羽二重機業の中心である。西南の武生は又物紙等を出す。敦賀は日本海岸第一の良港で、ウラチポストックと連絡の要地を占め、主要な開港場で、

國名

山城 大和 河内  
和泉 攝津 伊賀  
伊勢 志摩 近江  
丹波 丹後 但馬  
播磨 紀伊 淡路

面積

約三二〇〇万軒  
(約二〇九一方里)

人口

約一〇〇五萬

密度

一方軒三二一人  
(一方里四八二人)

山脈・火山脈

中國山脈  
紀伊山脈 一八四〇米  
山上岳 一七二〇  
大室原山 一六九五  
金剛山脈 一一二二  
笠置山脈 二九〇  
笠置山 二九〇  
鈴鹿山脈 一三七七  
伊吹山 一三七七  
鈴鹿峠 三七八

小濱には若狭塗の名産がある。

第四章 近畿地方

通説

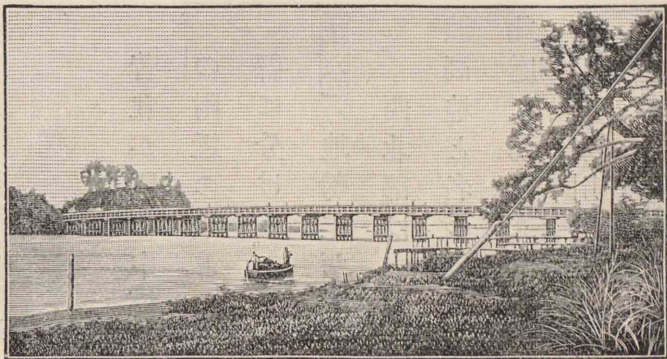
昔我が國の中樞であつた畿内と、その附近の地とを含み、政治上二府五縣に分ける。

地勢 地勢上西北部・中央部・南部の三地方に大別することが出来る。西北部は中國山脈に屬し、丘陵性で一般に低く、その一部を丹波高地と名づける。白山火山脈がこの北邊を通じて、城崎温泉が此處に湧き、玄武洞の奇觀もこの附近にある。川は南北に流れ、由良川・朝來川は日本海に、加古川・市川・揖保川は瀬戸内海に入る。瀬戸内海斜面には稍、廣い播磨平野がある。

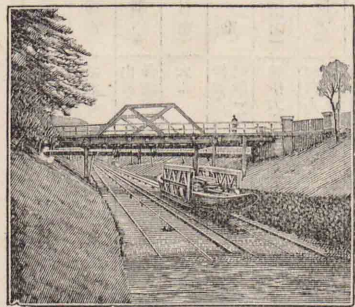
府縣名(廳所在地)	管轄國名	面積・人口
滋賀縣(大津市)	近江	三三二四方軒 六六二千人
京都府(京都市)	山城・丹後 丹波大郡	四五五八方軒 一四〇五千人
奈良縣(奈良市)	大和	三七三〇方軒 五八三千人
三重縣(津市)	伊賀・伊勢・志摩 紀伊一部	五六一七方軒 一一〇七千人
和歌山縣(和歌山市)	紀伊大部	四七三三方軒 七八六千人
大阪府(大阪市)	河内・和泉 攝津東半部	一七八〇方軒 三〇五九千人
兵庫縣(神戸市)	攝津西半部 播磨・但馬・淡路 丹波一部	八四一六方軒 二四五四千人

河	一六
湖	一四
熊野川	一三
由良川	一一
宮田川	一〇
有田川	〇九
加古川	〇八
淀川	〇七
揖保川	〇六
朝来川	〇五
大和川	〇四
琵琶湖	〇三
勢多川	〇二
疏水	〇一

下流から琵琶湖方面を望んだ光景で橋は名高い瀬田橋である  
奈良盆地には管て湖水を湛へたものといはれ山城盆地には今もその名残を止めてゐる  
疏水のインクライン  
一艘の舟がレールで運ばれ橋に水中に進み浮ばんとする所である  
勢多川には洗堰を設けて氾濫を防ぎ淀川には新淀川の放水路がある



漁利が多い。その水は流れて勢多川となり、中流は宇治川下流は淀川と呼ばれ、又疏水によつ

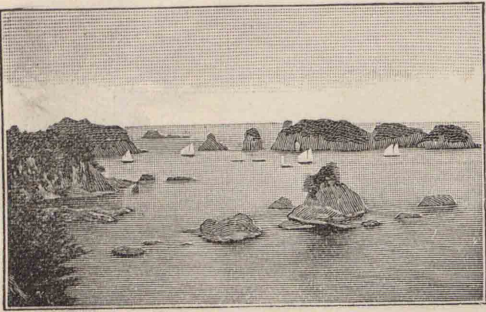


中央部は所謂瀬戸内海陥没地帯の一部で、淡路島及び金剛笠置鈴鹿等の諸山脈が略、南北に走り、其等の間に、大阪湾大阪平野奈良盆地伊賀盆地近江盆地山城盆地等を挟んでゐる。是等の諸平野は、古來文化の中心地であつたから、その間の山脈は、交通上軍事上重要な位置を占め、逢坂關不破關金剛山笠置山孔舎衛坂等の名高い關址古戰場等がある。近江盆地の琵琶湖は、四邊の諸川を入れて舟運の便がよく、又

紀川の上流を吉野川といふ  
熊野川は十津川・北山川の合流である

熊野灘の海岸  
勝浦の港外で島や屈曲の多いことが知れる

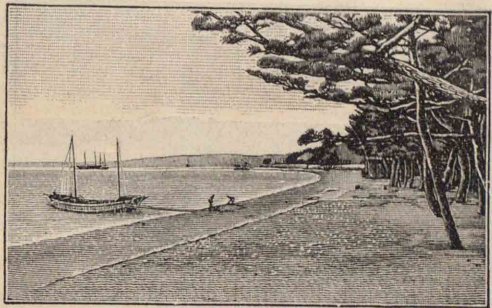
舞鶴灣及び紀淡・鳴門の二海峡附近は要塞地帯である



て京都と通じてゐる。共に舟楫灌漑の便が多く、又發電に利用される。淀川は京都盆地から來る衆水をも集め、西南に流れて大阪灣に入り、その下流は大和川と共に、廣い大阪平野を潤してゐる。南部には紀伊山脈が東西に走つて、彌山山上岳大臺原山等が聳え、地貌が峻嶮で、その山勢は赤石山脈及び四國山脈と關聯してゐる。紀川有田川宮川櫛田川は縦谷を作つて東西に流れ、熊野川は横谷をなして、その途中に瀨八丁の峽谷がある。是等の河谷は平野に乏しいが、半島の交通上頗る重要である。  
海岸 北部には若狭灣があり、その中には宮津舞鶴等の支灣が多い。舞鶴は日本海沿岸防備の要地で、海軍要港となつてゐる。南部の紀伊半島は、東側に志摩半島を出し、單調な伊勢海と、

熊野灘は古來潮流の險惡なるを以知られてゐる。潮岬に無線電信局がある。

須磨浦の海岸 須磨公園の一部を西面して寫したものである。



小屈曲の多い熊野灘とを分ける。淡路島は紀淡鳴門明石の三海峡を挟んで、大阪灣播磨灘及び紀伊水道を分け、瀬戸内海の入口を扼して軍事上重要な位置を占めてゐる。大阪灣の沿岸は單調であるが、その西部には、播磨灘の沿岸と共に、白砂青松の勝地が多い。

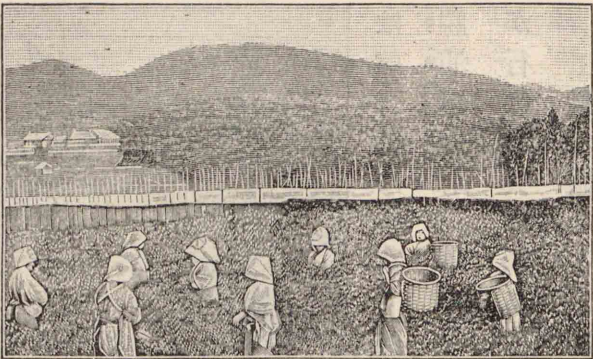
〔氣候〕 紀伊山脈以南は、暖流に直面して、最、海洋性を帯び、夏季の雨量が甚だ多い。内部の盆地は寒暑の差が稍、著しいが、瀬戸内海の沿岸は概して溫和で、雨量が少いから、製鹽に適してゐる。六甲山南から、明石海峡に面する地方は、氣候が適順で、風景もよく、良好な保養地が多い。日本海岸は、大陸の影響を受けて、冬季は降雨が多く、陰鬱な天氣が續く。

〔産業〕 開墾が能く行届いて、耕地の面積が割合に廣く、且盛に二毛

宇治は玉露で名高く、三重縣の茶は四日市から輸出することが多い。

宇治の茶園 白く見えるは玉露を作るために施した日覆である。

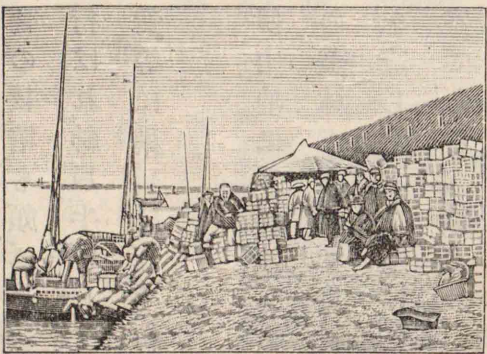
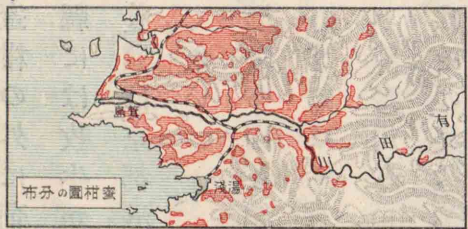
蜜柑の積出 圖は有田川口の箕島町から箱詰にして積出す光景である。



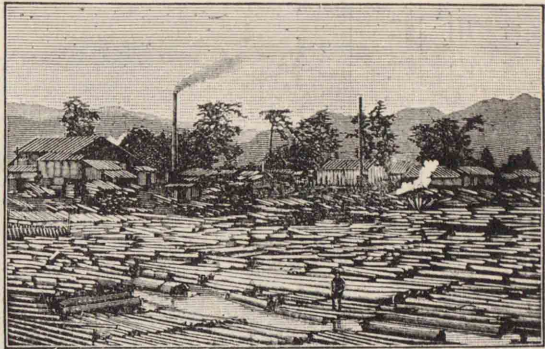
作が行はれ、農産が豊である。米は各地から出るが、就中兵庫縣は良米の産地として知られ、大阪・神戸・四日市・桑名等には米の取引が盛である。京都盆地の南部、三重縣の北部には茶の産が多く、宇治は殊に名産地である。近

江盆地伊勢平野は菜種を出し、紀伊半島の西部

には蜜柑の栽培が行はれ、有田川の流域は最盛で、箕島・湯淺(和歌山)等から積出し、大阪府の東



新宮の貯木場  
熊野川を筏として流下した材木が集つてゐる所である



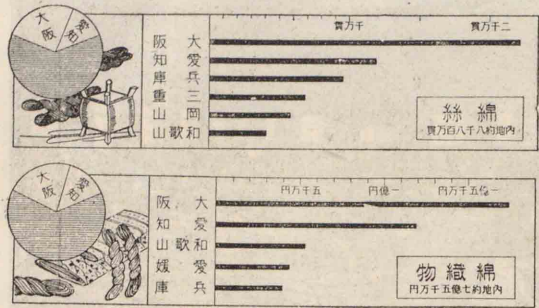
我が國の養殖眞珠は世界的に有名である

は熊野灘に豊富で、就中三重縣には鱧、鰯、鰯等の漁利が多く、波切(三)勝浦(和歌山)等の漁港がある。志摩半島附近には眞珠貝の養殖が行はれ、兵庫縣には製鹽が盛で、赤穂はその一中心である。工業の盛なことは本邦第一で、大阪灣播磨灘の沿海地方には、各

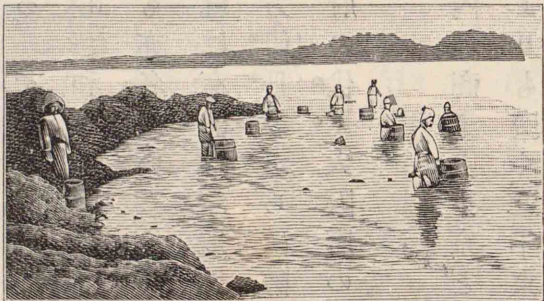
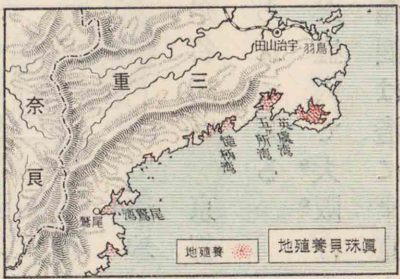
南部には蜜柑の外に葡萄の栽培も頗盛である。兵庫縣には牧牛が行はれ、神戸牛として名高い。養蠶は京都、滋賀等に稍行はれ、生絲の産も少くない。

林業は温暖多雨な紀伊山地に最も發達し、吉野、高野、熊野等には稀有の美林があつて、良材の産に富み、熊野川、紀川を流して之を運び、新宮、和歌山はその集散が盛である。鑛産は生野(兵)の銀、銅、明延(兵)の錫等が稍名高い。水産

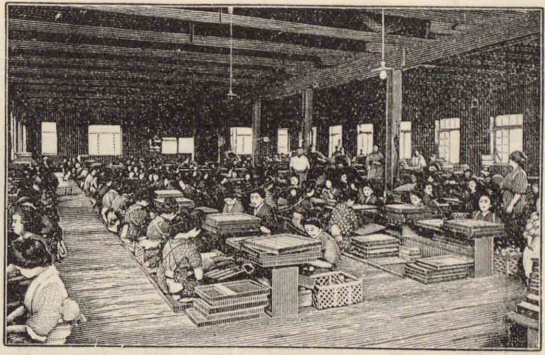
志摩半島の眞珠採取  
養殖場の一部を示した



種の大工場が密集して、全國無比の工業地帯をなし、阪神の間に尼崎、西宮の兩市を挟んで殆ど一連の市街地を作り、西は明石を経て姫路に、東は堺を経て岸和田に延びてゐる。工産額の最も多いのは綿絲綿布で、大阪(大)等の諸縣にも行はれ、又大阪府の肥料、硝子器製藥、毛織物(大)、セルロイド、セメント(堺)、兵庫縣の燐寸製粉造船(戸)、毛織物(川)等は、何れも工場の規



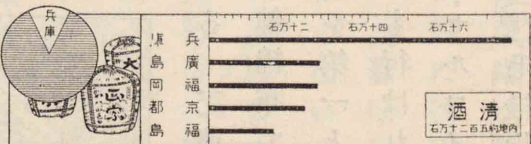
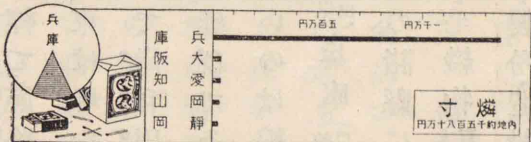
神戶市にある寸燐製造工場  
工場の内面を示したもので多数の工女は箱詰をしてゐる



灘の酒は花崗岩より湧出する水と播磨米とが醸造に適する爲に品質が優良であるといふ

良な清酒を出し、龍野の醤油も亦名高い。堺池田も、清酒の産地として知られてゐる。

工業の發達に伴ひ商業も甚だ盛大で大阪は内地商業上、東京と共に東西の二大中心をなして、商圈は遙に東京よりも廣く、近年東



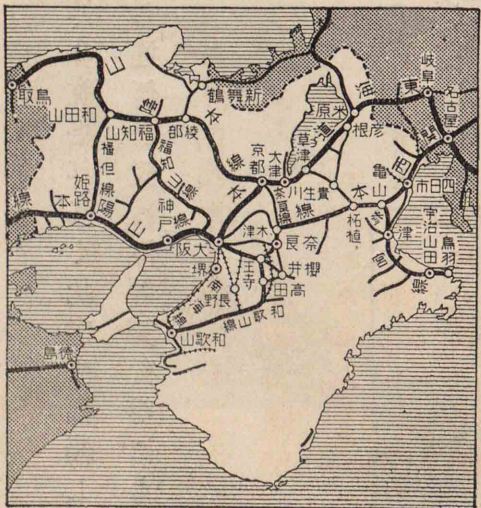
模が甚だ大きい。京都は絹織染物、陶磁器等の美術品を以て名高く、峯山、長濱(賀滋)の縮緬も古から知られてゐる。その他滋賀縣の麻織(八幡)、和歌山縣の漆器(江)等も亦名高い。

兵庫縣は有名な醸造地で、灘地方伊丹等からは醇

- 1、神戸・下關間
- 2、京都・戸田小濱
- 3、鳥羽・龜山間
- 4、京都・木津間
- 5、王寺・和歌山間
- 6、神崎・福知山間
- 7、姫路・和田山間

洋方面との取引も亦大いに發展した。神戸は横濱と共に外國貿易の大中心をなし、盛大な近畿工業界の門戸として、莫大な原料を仰ぐ爲に、輸入の多いことは横濱の上にある。四日市も亦綿の輸入港として知られてゐる。

交通 歴史上の關係で、主要道路の多くはこの地に集り、鐵道も亦之に沿うて發達したのが多い。東海道線は山陽線と共に、この地方の幹線をなして、山陰線、關西線、北陸線等を連ね、この他、參宮線、奈良線、和歌山線、福知山線、播但線等の主要線路が多く、東南部の外は鐵道網が甚だ密である。紀伊半島は地形上鐵道は發達しないが、沿岸航路がよく開





けてこの缺を補つてゐる。  
海運は神戸・大阪を大中心とし、内外の航路が多く此處に輻輳してゐる。大阪無線電信局は歐洲から通信を受け、潮岬・舞鶴等にも無線電信局がある。

處誌

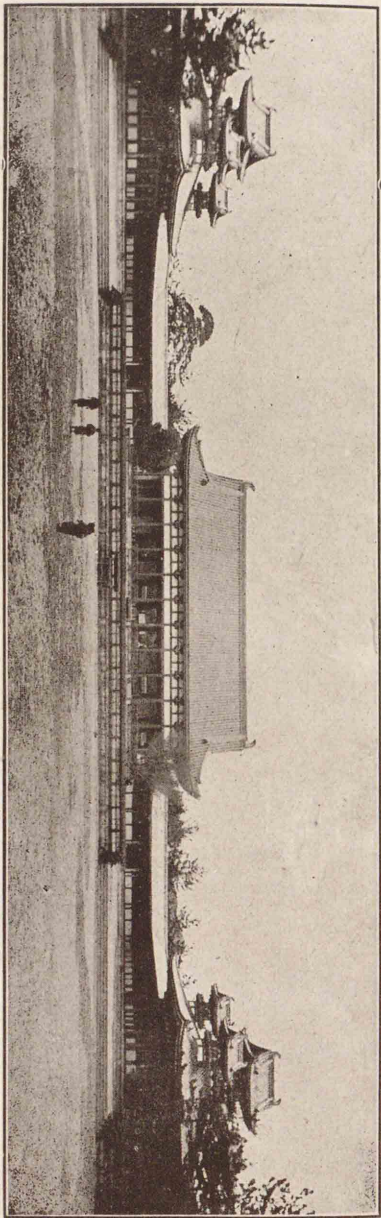
●滋賀縣  
郡邑人口 千人  
大津市 三三  
彦根町 二〇

琵琶湖の景  
圖は名高い堅田の淨御堂でこの邊に雁の集つたのを近江八景の一に數へてゐる

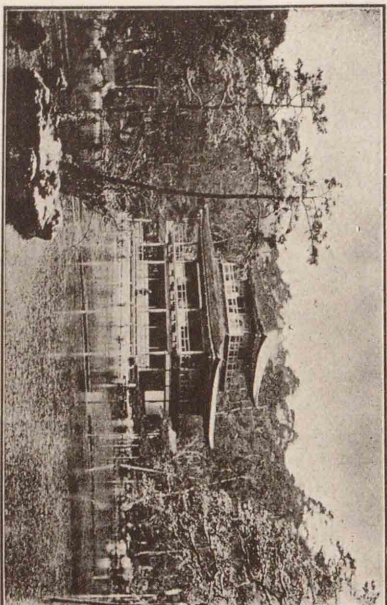
日野・八幡の地方から行商人の出るものが多い八日市に陸軍飛行場がある

永く文化の中心であつたから、戸口の稠密なことは關東に次ぎ、名勝古蹟が廣く散布して、大小の都邑が甚だ多い。

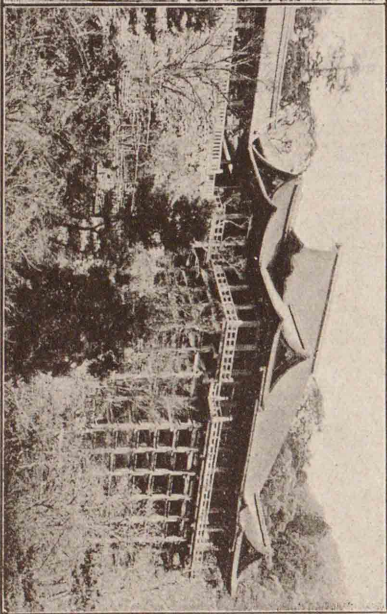
東海道線は伊吹山の麓を過ぎ、米原で北陸線を分ける。彦根は琵琶湖畔の名邑で、八幡は麻織の産地である。大津市は水陸交通の要地で、京都との間に疏水を通じ、製麻工業が行はれ



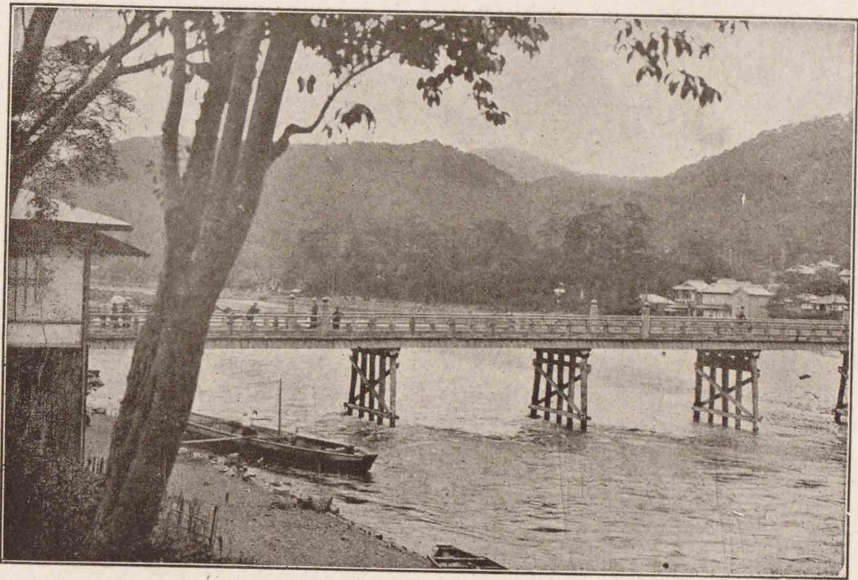
中央の平安神宮の左に龍安寺の白虎の大きな極殿あり



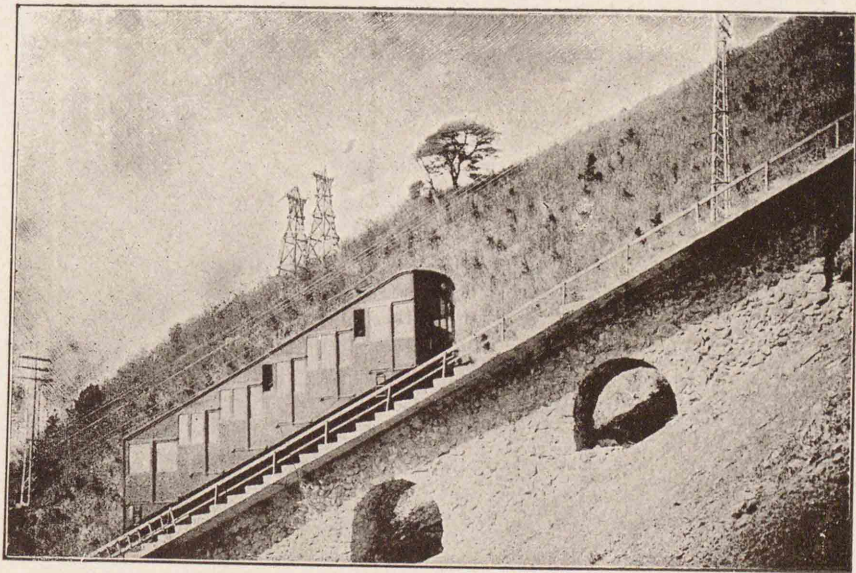
足利義興の地又庵の寺と金閣寺



清水寺の中外の平安神宮の左に龍安寺の白虎の大きな極殿あり



宇治川 佐名木川 梶原の戦物語にあり 宇治橋



比叡山のケーブルカー 頂上から下つたあつた景光

近江八景  
三井晚鐘、石山秋月、瀬田夕照、栗津晴嵐、矢橋歸帆、堅田落雁、唐崎夜雨、比良暮雪

◎京都市

都邑人口 千人  
京都市 六七九  
伏見町 三〇  
深草町 二〇  
福知山町 二〇

京都市は全市を上京下京の二區に分ける

◎京御所

京都市の内外に泉涌寺・清水寺・三十三間堂・知恩院・浄土宗本山・平安神宮・北野神社・金閣寺・東本願寺(眞宗大谷派本山)・西本願寺(眞宗本派本山)・東寺・延暦寺(天台宗本山)・嵐山等がある



る。三井寺・石山寺等を始め、所謂近江八景の多くは市の内外に散在し、比叡山には延暦寺の古刹がある。

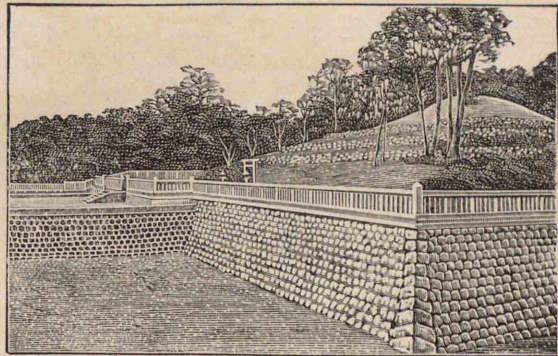
◎京都市は三方に比叡・鞍馬・愛宕等の山丘を繞らし、賀茂川が市中を流れて、閑雅の趣がある。この地は千有餘年の間帝都のあつた處で、舊時の御所は依然として現存し、二條城は離宮となつてゐる。市の内外には著名な神社・佛閣・舊蹟・勝地等が多く、觀光の客が常に絶えない。市には京都帝國大學を始め各種の學校があつて、關西學術の中心をなし、且交通上の要地で、數線の鐵道(東海道山陰)が集り、第十六師團司令部も此處にある。美術工藝の盛なことは市の特色で、絹織物・友禪染・刺繡・清水焼・粟田焼・蒔繪等を出す。

平等院には名高い鳳凰堂がある

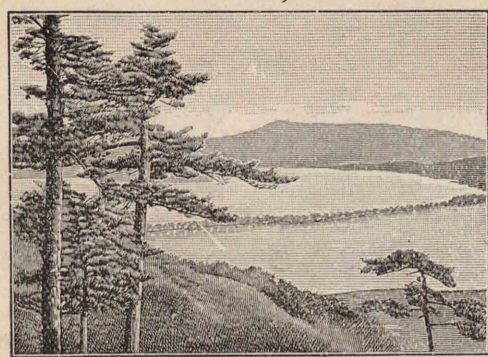
明治天皇御陵  
伏見城址本丸址にある昭憲皇太后の御陵はこの東方にある  
舞鶴に海軍機關學校がある

天の橋立  
西方の禰峠から見た光景である

奈良縣  
郡邑人口 千人  
奈良市 四八



橋立がある。青松を戴く一連の砂嘴が長く海中に延び、眺望が極めて美しい。  
奈良盆地の奈良市は、古の平城京の一部で、東に三笠山を負ひ、正倉院春日神社、東大寺



伏見は市の接續都會で、近郊の桃山に、明治天皇及び昭憲皇太后の御陵がある。宇治は古來屢戰場となつた處で、平等院の古刹がある。西北部には幾多の盆地があつて小都會が開け、福知山はその中の著しいものである。舞鶴は良灣を控へ、その東灣は海軍要港で、西灣は商港である。宮津は開港場でその前面に天



春日神社 縁の森に青丹の宇千年前の。華榮の夢に實現に見るや。だら



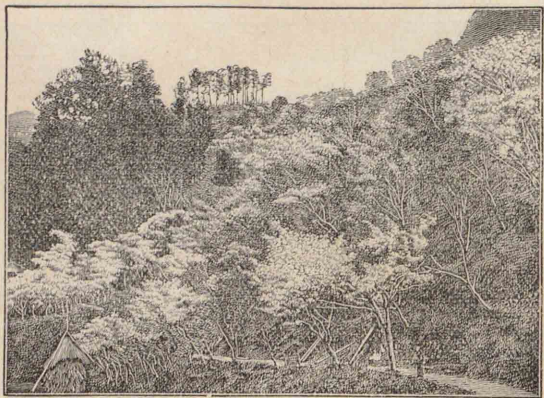
嵐山 春の櫻・秋の紅葉、麓を容きし保の津の清。架あて長橋は渡月橋。流に映る。る

正倉院は勅封の寶藏、東大寺は華嚴宗本山、興福寺は法相宗本山である。春日神社は天兒屋根命その他を祀る。吉野に名高い如意輪寺がある。

圖 吉野山の櫻花  
一目千本の眺望

四三 重 縣

郡邑人口 千人  
津市 五二  
宇治山田市 四四  
四日市市 四〇  
松坂町 二五  
桑名町 二二  
四日市の西方に菟野温泉がある。松坂は本居宣長の出生地である。



(大)興福寺等の古い建物が多く、貝釦を産し、又漆器・墨等の名産がある。郡山には紡績工業が行はれ、法隆寺は法隆寺の古刹があるのて名高い。王寺から分れる和歌山線の鐵道は、緋の産地たる高田で櫻井線と會し、和歌山縣に入る。吉野は吉野朝數代の史蹟と櫻花とて名高く、附近には畝傍山・多武峰を始め、名所が多く、所謂大和巡の中心をなし、東境の月瀨は梅花の名所である。

四 伊賀盆地の上野は地方の中心都邑で、附近から伊賀焼を出す。伊勢海に臨む四日市市は開港場として榮え、附近から萬古焼を出し、又桑名と共に紡績の工業地で、米穀の集散も頗盛である。津市は鐵道の要地で、紡績工業が行はれ、又松坂と共に綿織

大廟の中内宮は天照大神、外宮は豊受大神を祀る

正殿を側面から拝した光景でその森嚴は覺えず襟を正さしめる

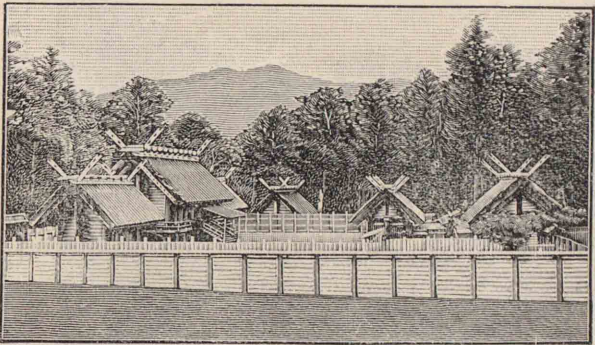
和歌山縣

郡邑人口 千人  
和歌山市 九四  
新宮町 二四  
田邊町 二二

新宮は本宮及び那智山と共に熊野三社のある處である

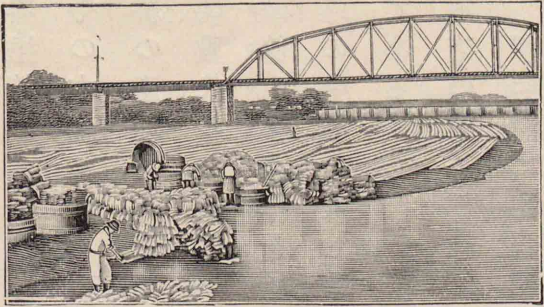
紀伊、川下流の木綿晒場  
綿ネルの原布を水で濯ぎ河原に乾かす光景

和歌山縣に於ける綿ネルの産額は全國第一である



の産がある。宇治山田市は大廟鎮座の靈地で、參拜者の絶える時なく、この附近に二見浦、朝熊山等の勝地がある。鳥羽は天然の良港で、造船所がある。

江は漆器の産地である。和歌山市は紀川の口に臨み、徳川氏の親藩を封じた地で、木材の取引が多く、且綿ネルの製造が盛に行はれ、附近に和



金剛峯寺は眞言宗の本山である

大阪府

郡邑人口 千人  
大阪市二一四  
堺市一〇五  
岸和田市 三三

工場地方の光景で林の如き煙突はその盛大を示し煙の都と呼ばれるも道理である

大阪は近時著しく市域を擴大し、舊來の東・西・南・北の外、此花・港・天王寺・浪速・西淀川・東淀川・住吉・東成・西成の諸區を設けて全市を十三區に分けた  
東北の吹田に麥酒の工場がある



歌浦の勝地がある。東方の高野山は、金剛峯寺があるのて名高い。

大阪市は淀川の三角洲に位し、溝渠、橋梁が多く、水の都と呼ばれる。古來商業上の要地であつたが、今はその人口東京を凌ぎ、南日本に於ける商工業、經濟、交通等の大中心となつた。市の内外には公私の大工場が甚だ多く、綿絲、綿織物、毛織物、タール、肥料、硝子器、金屬器、莫大小藥品、雜貨等を始め、各種の工業が極めて盛で、煙突林立の壯觀を呈し、その港は設備がよく整ひ、國內の取引が極めて盛な上に、又開港場として、支那との貿易も盛大である。豊臣秀吉が築いた舊城には、第四師團司令部を置き、その他各種の學

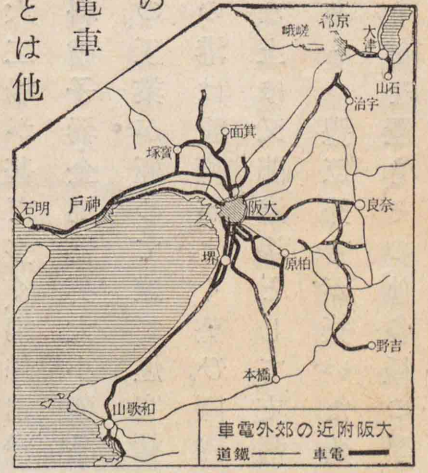
市内に府立醫科大學がある  
住吉神社 高津神社・生國魂神社・天滿天神・天王寺公園等も亦著名である

神戸港の展望  
市の後方講助山から港内を望んだ光景である

兵庫縣 郡邑人口 千人  
神戸市 六四  
姫路市 四五  
明石市 四四  
西宮市 三七  
洲本町 二五

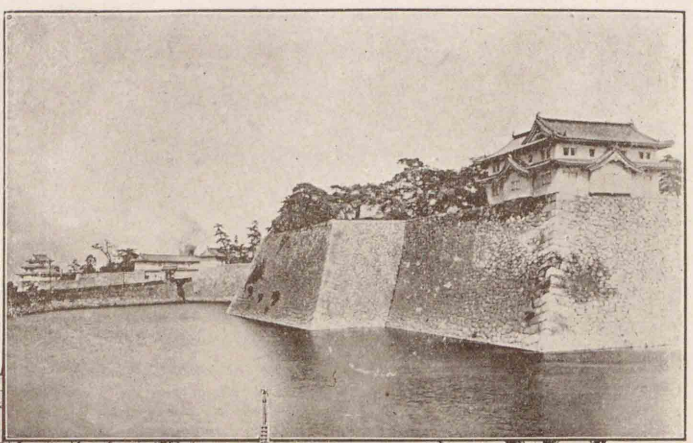


校が多く、名高い社寺公園等も少ない。近郊の濱寺や、稍、遠い箕面及び寶塚(庫兵)は、何れも市民の遊樂地となり、郊外電車の發達してゐることは他に比類がない。堺市はセルロイド製造の外、足袋、酒、刃物等を産し、岸和田市は綿絲、綿織等の工業が行はれる。



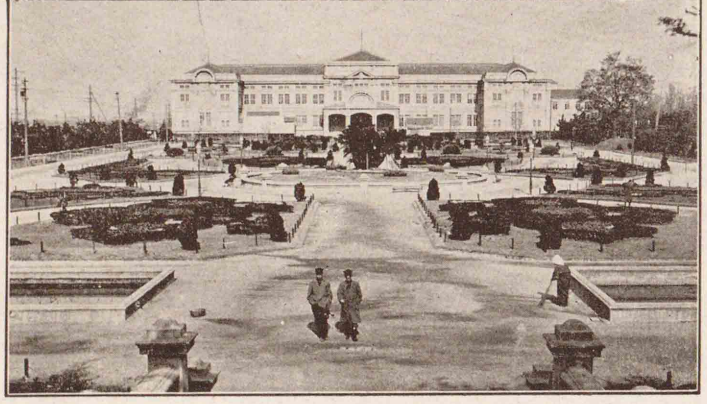
尼崎市には紡績、硝子、石鹼等の工業が行はれ、西宮市、御影等は、清酒で名高い灘地方の中心で、その背後に寶塚、有馬等の温泉場がある。神

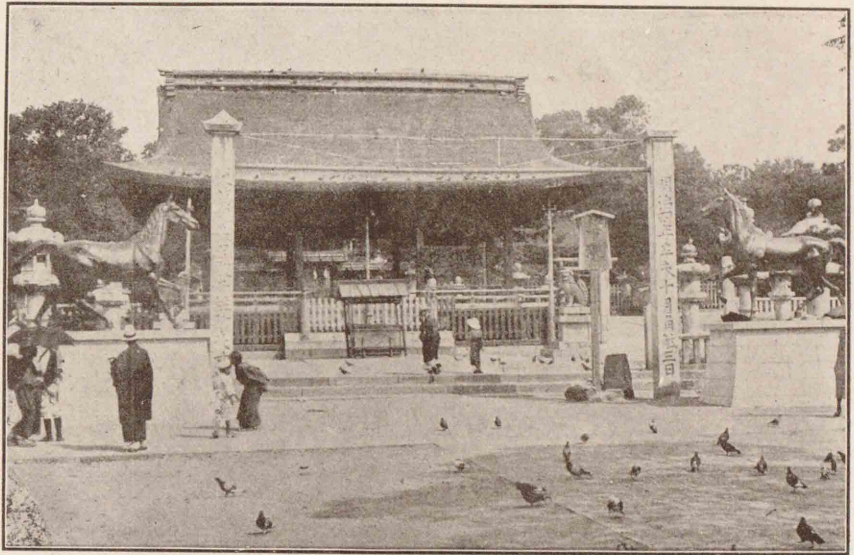
大阪城 城は豊太閤の遺業 今に第四師團司令部がある



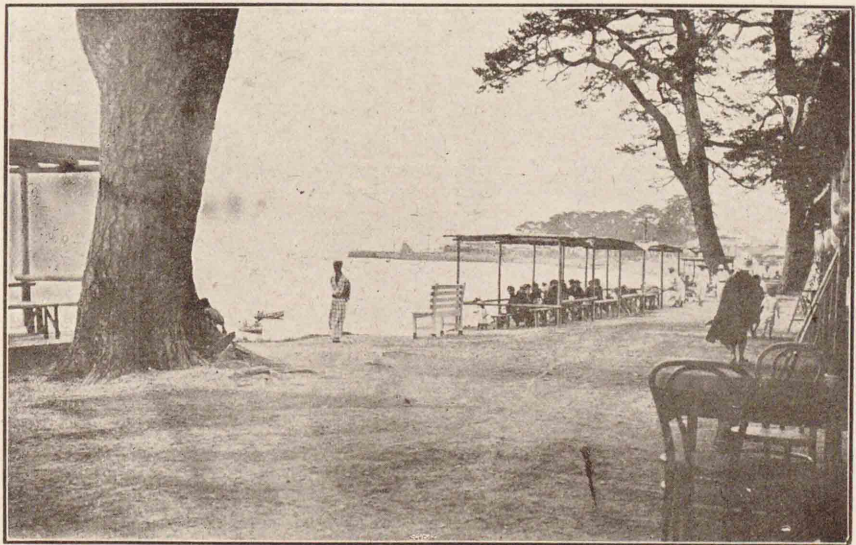
天王寺 聖德太子建立の古刹で現存の堂宇は後の造營

天王寺公園 公園内の大廣場で中央に見えるのは博物館





湊川神社の正面は、望だん景光で、呼忠臣、鳴折、子所、墓に、あに、る



明石の海岸、中崎公園、上海、眺を、ため、景光、涼、あ、る、あ、る、あ、る

有馬の附近に炭酸泉がある

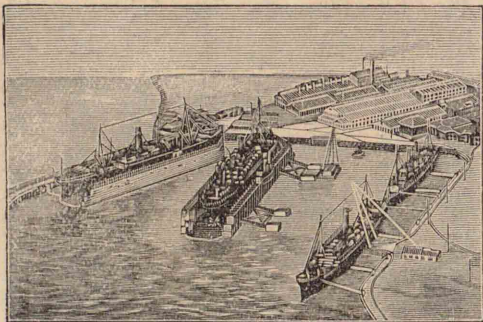
湊川神社は楠木正成を祀る

湊川神社の浮船渠、和野の北方にある三葉造船所の船渠である

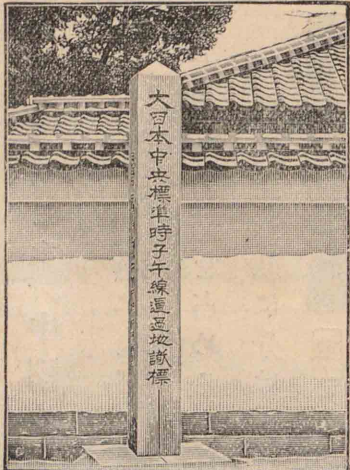
姫路には革細工の名産がある

中央標準時子午線通過地識標、明石市に設けられ、柱の背後に見える建物は、鑑別所である

戸市は、横濱と共に我が二大開港場で、線綿鐵等の輸入が甚だ多く、且大工業地で、紡績製粉造船及び燐寸の製造が盛に行はれ、市内の湊川神社、西境の一谷は、共に史上に名高い。市の一部である須磨から、舞子、明石市に至る一帯の海岸は、青松白砂と映じ、近く淡路島を望んで風光が甚だよい。姫路市は第十師團司令部の所在地で、米の取引が多く、赤穂は義士の事蹟で知られてゐる。北部の豊岡は柳行李の名産地である。



淡路島の洲本は淡路焼を産し、福良由良は共に海峽の要地である。



國名 美作 備前 備中 備後 安藝 周防 長門 因幡 伯耆 出雲 石見 隱岐

面積 約三二六〇〇方秭 (約二〇五〇方里)

人口 約五一四萬

密度 一方秭一五七人 (二方里二五二二人)

大山は伯耆富士の名がある

圖 關 中海から見た

大山 二艘の和船はソリコ船といひこの邊の特有船で尖端が著しくそり返り容易に翻覆しない

山脈・火山脈

中國山脈 氷山一五二〇

白山火山脈 大山一七二三

三瓶山 一二六

第五章 中國地方

通説

本州の西部を占める半島狀の地域で、政治上五縣に分ける。



地勢 高原性の中國山脈が、稍北部を東西に走つて、地形を山陰山陽に分け、丘陵が到る處に起伏してゐる。その北を竝走する白山火山脈には、大山・三瓶山等の名山が聳え、又温泉が多く、三朝・玉造等は殊に名高い。河は南北に分流し、その河谷は交通に便を與へることが多い。南斜面は幅が廣いから大河はこの方面に多く、吉井川・旭川・高梁川等は、下流

府縣名(廳所在地)	管轄國名	面積	人口
岡山縣(岡山市)	備前・備中・美作	七〇一九方秭	一三三八千人
廣島縣(廣島市)	備後・安藝	八四四七方秭	一六一七千人
山口縣(山口町)	周防・長門	六〇八六方秭	一〇九四千人
島根縣(松江市)	出雲・石見	六五八五方秭	七二二千人
鳥取縣(鳥取市)	因幡・伯耆	三五〇〇方秭	四七二千人

河 湖 (流長 周圍)

江川	二〇〇
旭川	一四六
吉井川	一三七
岩國川	一一八
高梁川	一一〇
斐伊川	九七
日野川	八二
中道湖	五〇
宍道湖	五〇

圖 瀨戸内海の風景

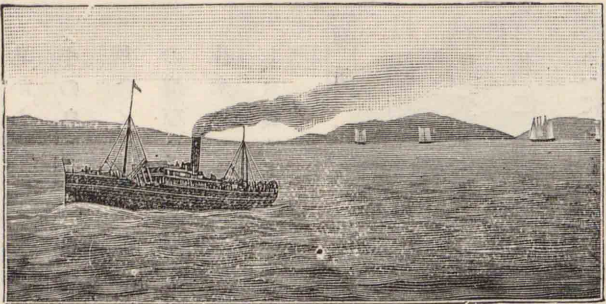
無數の小島が船の行く先を遮りその間に狭い瀨戸を作つてゐる

圖 瀬戸

瀨戸内海式港灣の好例で前には仙醉島が横つて狭い瀨戸を通じ人工の防波堤は更に碇泊を安全ならしめる

下關海峡・廣島灣等の附近は要塞地帯である

に岡山平野を開き、西部には大田川・岩國川等がある。北斜面の江川は、中國第一の長流であるが、沿岸に平野が乏しく、水運の便も少い。斐伊川・日野川等の下流は、宍道湖・中海の沿岸と共に、一帯の平野を開き、古代から既に文化の中心となつた處で、山陰に於ける重要な生産地である。



海岸 海岸は南北著しく趣を異にし、山陰は島根半島附近の外、一體に單調であるが、山陽は港灣・島嶼が複雑して、景趣の變化が多い。

瀨戸内海 近畿・中國・四國及び九州の間にある一大内海で、紀淡・鳴門の兩海峡は東に通じ、下關・豊豫の兩海峡は西に開き、兒島半島は



北から、讃岐半島、高繩半島は南から突出し、沿岸には長汀曲浦相交り、海上には大小の島嶼が散在して、數多の瀬戸(海峡)を造り、青螺白帆相送り相迎へて、變幻窮る所なく、山姿水態の妙趣は、宛も一幅の繪の如く、海上の公園と呼ばれてゐる。この海面は、播磨灘、水島灣、備後灘、安藝灘、廣島灣、周防灘、伊豫灘等に分れ、船舶の往來織るが如く、又鯛鮭等の漁利が多く、その沿岸には商港や漁港が各所に散在し、且食鹽の大産地として十州鹽田の名が高い。

**氣候** 山陰地方は、山陽に比して氣温が低く、且冬季は對馬暖流の上を吹き來る西北季節風の影響を受け、雨雪が頗る多く、天候が陰鬱である。山陽地方は、向背共に山脈が連つて、濕風を遮るから、年内を通じて割合に晴天が多く、本邦中極めて雨量の少い地方である。されば製鹽業は最盛で、三田尻(山)松永(島)味野(山)等はその中心地である。  
**産業** 開墾が能く行き届き、殊に山陽方面は、丘陵・山



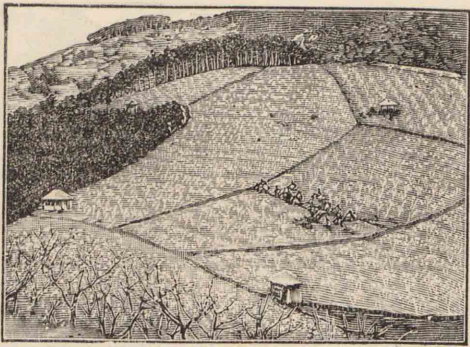
瀬戸内海の氣候は太平洋岸に比べると寒暑の差が、烈しい。製鹽に名高い三田尻は防府町の一部である。

防長米は良質の名がある

**桃畑** 岡山縣御津郡歌石村の桃畑を示す

廣島縣のネーブル産額は内地第一であるが、山口縣の夏蜜柑は産額が少くなつた

**岡山田の光景** 盛に生育しつゝある稲草へ水車で水を供給してゐる



も亦名高い。岡山・廣島の海岸地方では、蘭草を植ゑて疊表花筵の原料とする。是等の製造は大規模ではな



谷までも農耕に利用して、米・麥等の産が多く、下關は昔から米の大集散地である。麥は裸麥が最も多く、麥稈の利用も盛である。近年果樹の栽培が盛となり、岡山縣の桃・梨・葡萄、廣島縣の柑橘類等は最著はれ、山口縣の夏蜜柑



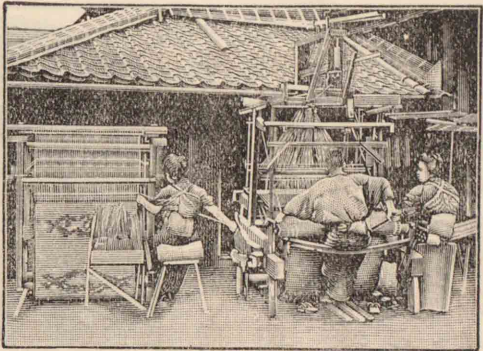
花筵は岡山縣が本邦第一の産地である

花筵製織

左方のは普通の花筵で、右方のは関係で模様がある。然に織り出され右方は花筵と呼び置をかい、た麗を織つて模様を出すのである

廣島市の鐘詰肉原料は他よりも多く輸入する

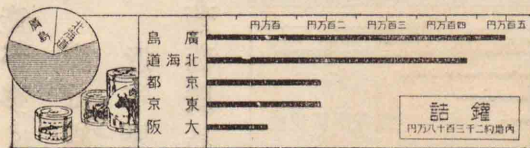
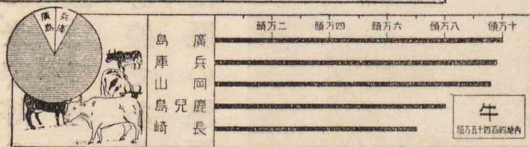
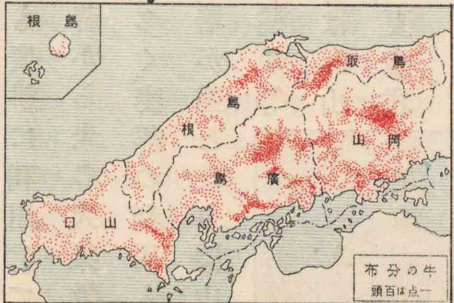
北部からは砂鐵が出る



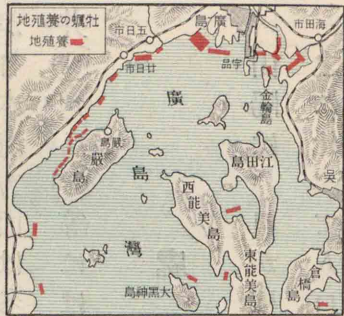
いがこの地方の特産で、岡山・玉島・笠岡・福山・尾道(廣)等を集散地とし、花筵は海外輸出も少くない。牛は廣く飼養せられ、廣島市は肉鐘詰の製出が日本一である。

嶺・宇部・(山)の石炭等が

主要なもの、大嶺炭は徳山にある海軍燃料廠の原料となる。水産は瀬戸内海の鯛、鱈、日本海の柔魚等が殊に著はれ、山口縣は水産額が最多



下關・絲崎・徳山・濱田・境は開港場である

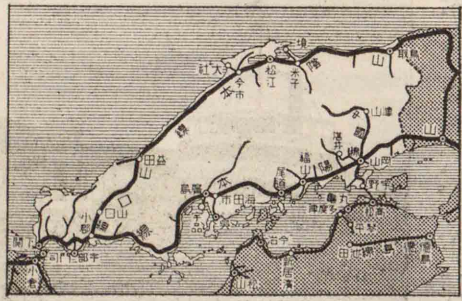


敷・玉島・笠岡・(岡)・福山・(廣)等にその工場がある。商業は産物・交通等の關係から、山陽方面に盛で、廣島・岡山の兩市はその中心をなし、又下關は朝鮮と取引の要衝に當つてゐる。外國貿易は下關で稍盛に行はれる外、一般に振はない。

交通

主要な道路は南北の海岸を通じ、又處々

く、その漁場は遠く朝鮮の近海にも及び、下關は西日本に於ける漁業の大中心である。又廣島灣の一部には、牡蠣の養殖が行はれる。この地方には、未だ大工業地帯は發達しないが、處々から綿織物を産し、又疊表・花筵の外、岡山縣には製帽眞田(高梁岡)の産も



1 小郡・戸田小濱間

關門連絡船  
關門丸は四隻共鐵型で甲板上に軌道一條を布き貨車七輛を積むことが出来る

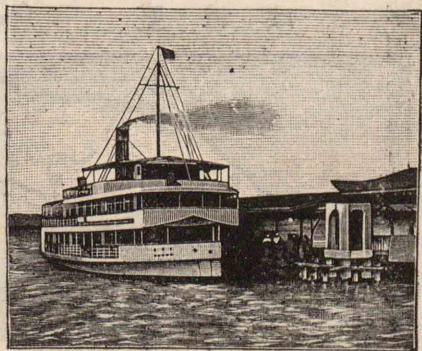
下關より門司へは約十五分を要し釜山へは約十時間を要する

米子  
備後  
線

に之を連ねる峠道がある。鐵道は山陽線山陰線があつて、東西に貫通し、山口線はこの兩線を南北に連ねてゐる。西端の下關は對岸の門司及び釜山との間に、宇野は四國との間に、何れも鐵道連絡船を通じてゐる。

瀬戸内海は、航通が便利で、沿岸の諸港及び阪神・四國等の諸地方と定期船を通じてゐる

が、日本海方面は、冬季風浪の妨害を受けることが少くない。下津井(阿)角島(山)等には無線電信局があつて、近海航路に便を與へる。



處誌

山陽は戸口が稠密で、都邑も多く、人文の發達は著しいが、山陰は之に比べて人口が少く、文物の進歩は、一步を譲つてゐる。

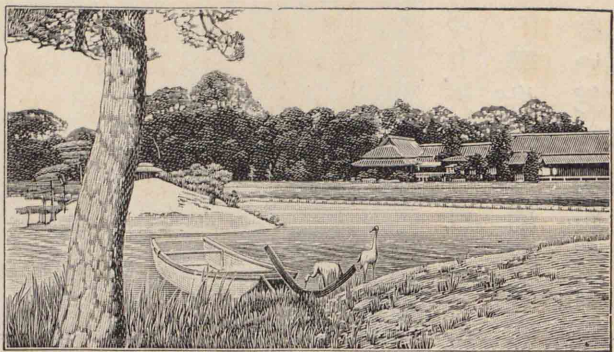
岡山縣  
都邑人口 千人  
岡山市 二二四  
玉島町 二二〇  
岡山市に醫科大學がある

後樂園の一部  
池を隔て、延喜亭を望んだ光景である

津山の西方に院庄の古蹟がある

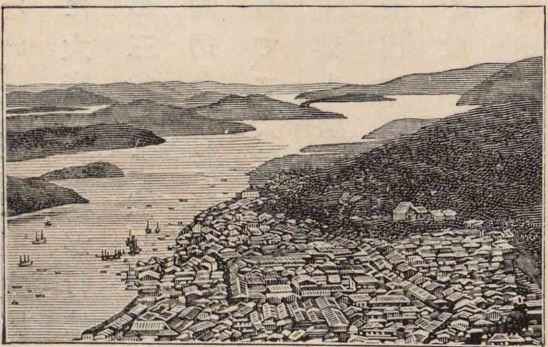
尾道市の遠望  
細く纏くのは尾道水道で左方は向島である

廣島縣  
都邑人口 千人  
廣島市 一九五  
尾道市 一三九  
福山市 二七



山陽線は、舟坂峠を過ぎ、蠟石耐火煉瓦等の産地として知られた三石を経て、備前燒の産に名高い伊部の北方を通る。岡山市は中國の大都會で、鐵道(山陽、中)の集點に當り、商工業も盛に行はれ、著名な後樂園及び各種の學校がある。北方の津山は盆地の中心都邑で、板紙を出す。西方の倉敷、玉島、笠岡、内部の高梁等

は、近年次第に工業が發達した。  
尾道市は内海の要津で、福山市、鞆と共に、疊表・花筵の重要な市場である。絲崎は開港

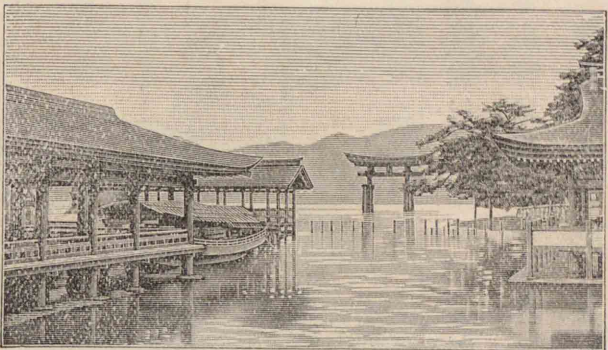


日清戦役の際には  
廣島に大本營を置  
かれた  
廣島市附近から縫  
針を出す

嚴島神社  
嚴島神社は市村島姫  
命を祀る。圖は神社から  
北面して大鳥居を望ん  
だ光景。干潮の時は鳥  
居は陸面に建つて見え  
る

嚴島は古來日本三  
景の一に數へられ  
る

山口縣  
都邑人口 千人  
山口市 二八  
下關市 九二  
宇部市 四八



あり、天然の風致と、社殿の美觀とによつて著名である。  
岩國は、綿縮紙等の集散が行はれ、此處を流れる岩國川には名  
高い錦帶橋が架つてゐる。徳山は開港場で、防府の附近には鹽田

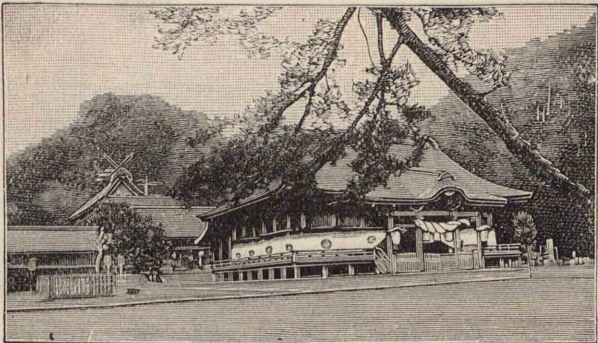
場であるが、市況は盛でない。北方の三次は  
盆地の中心都邑で、附近に大麻の栽培が行は  
れる。廣島市は大田川の三角洲に位し、中國  
第一の大都會で、第五師團司令部及び各種の  
學校がある。宇品港を控へて、二大戦役以來陸  
軍輸送の要地となり、商工業も盛である。北  
方の可部からは山繭織を出す。呉市は第二  
海軍區の軍港で、鎮守府や壯大な工廠があり、  
又萬年筆の製造が行はれ、港外の江田島には  
海軍兵學校がある。嚴島には嚴島神社が

萩防町 三三  
山府町 二二  
徳山町 〇三

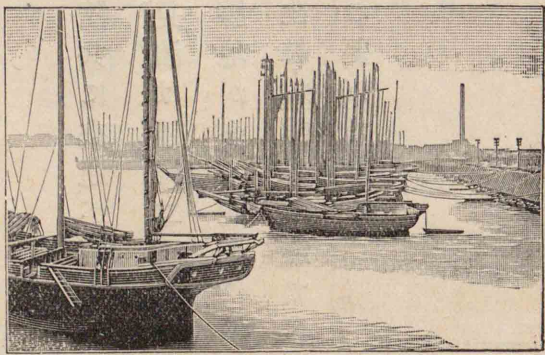
宇部部の海岸  
宇部部は陸上の外海  
底からも採掘し、數多の  
船舶はその積込の爲に  
集つてゐる

出雲大社  
出雲大社は天國主命を  
祀る。圖は西園から拜殿  
と本殿とを望んだ光景  
である

島根縣  
都邑人口 千人  
松江市 四一



が多い。山口は毛利氏居城の地で、各種の學  
校があり、宇部市は炭田を控へて工業が行は  
れ、小野田にはセメント等の工場がある。下  
關市は海峽の要地を占  
める開港場で、九州朝鮮  
と連絡の衝に當り、盛に  
米穀を積出し、附近に壇  
浦の史蹟がある。日本  
海岸の萩は、附近から夏  
蜜柑を産し、又萩焼の名産がある。



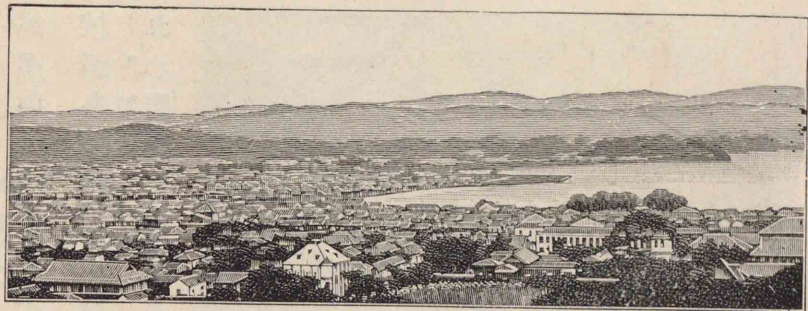
濱田は開港場で、紙木炭等を集散し、大社  
は建築の宏壯で名高い出雲大社の所在地で  
ある。松江市は山陰第一の大都會で、宍道湖

鳥取縣

都邑人口 千人  
鳥取市 三五  
米子町 二六

鳥取の東南に宇倍神社あり武内宿禰を祀る五圓紙幣に載せてあるのが是である

鳥取の東南に宇倍神社あり武内宿禰を祀る五圓紙幣に載せてあるのが是である



から中海に通ずる吐口にあつて、交通が便利な上に、風光が甚だ明媚である。この附近から出雲焼、瑠璃細工を出す。海上の隱岐は、島前と島後とに分れ、錫の産が多く、島後の西郷は良好な漁港である。

五 中海に臨む米子は、水陸共に交通が便利で、商業上の要地である。夜見濱は延長二十料に及ぶ大砂嘴で、白砂青松の勝地が多く、北端に境の開港場がある。倉吉は生絲、木綿、絹の産で名高く、鳥取市は千代川下流の要市である。

第六章 四國地方

通説

國名

阿波 讃岐 伊豫 土佐

面積

約一六〇〇方料 (約二二〇〇方里)

人口

三一七萬

密度

一方料一六九人 (一方里二六〇八人)

山脈・火山脈

四國山脈 米 劔山 一九五五 石鎚山 一九二四

讃岐山脈

阿蘇火山脈 飯野山 四三二

吉野川

臨町附近に於ける光景である

大歩危

吉野川の上流にある峽谷の難達で風景がよい

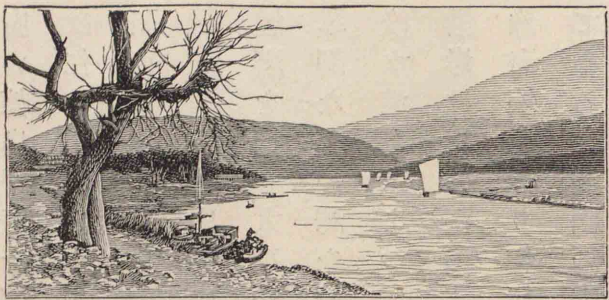
河

吉野川 二二六  
四萬十川 一七六  
仁洗川 一三〇  
阿波川 八二

四國島とその附屬の島嶼とを含み、政治上四縣に分ける。紀伊山脈から延びた四國山脈は、略中央を東西に走つて、高峻な劔山、石鎚山等を起し、この東北には、丘陵性の讃岐山脈が連つてゐる。瀬戸内海の沿岸には阿蘇火山脈が通じて、飯野山、興居島及び屋島の熔岩臺地を作つてゐる。

地勢

紀伊山脈から延びた四國山脈



河は吉野川が最も大きく、その四國山脈を横ぎる處は、大歩危、小歩危等の峽谷を作り、下流には

府縣名(廳所在地)	管轄國名	面積・人口
德島縣(德島市)	阿波	四一三五方料 六八九千人
香川縣(高松市)	讃岐	一八四五方料 七〇〇千人
愛媛縣(松山市)	伊豫	五六九方料 一〇九六千人
高知縣(高知市)	土佐	七〇八方料 六八七千人

吉野川上流の祖谷地方は交通が不便で處々に蔓橋があるのて有名であつたが近年悉く之を撤去して針金橋に代へた

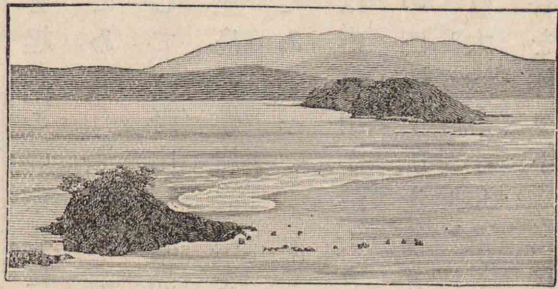
**鳴門海峡**  
鳴門公園から見た光景で近景の島は櫻島である

土佐灣の一部は上古地震の爲に陥没したものである  
鳴門の潮流は一時間二十軒に及ぶ  
鳴門海峡・豊後海峡の附近は要塞地帯である

廣い徳島平野を開いてゐる。この他、南斜面には仁淀川、四萬十川、西斜面には肱川があるが、北斜面には著しい河川がない。

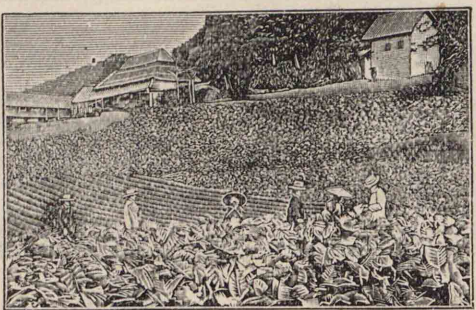
**海岸** 瀬戸内海には讃岐・高繩の兩半島が出て、燧灘を抱き、太平洋面には室戸・足摺の兩岬が、單調な土佐灣を擁し、東と西とは紀伊水道と豊後水道とによつて限られてゐる。豊後水道の沿岸は、屈曲が多く、佐田岬は著しく突出して、豊後海峡を作り、紀伊水道には蒲生田岬が突出してゐる。周圍の海峡中には、潮汐の干満に當り、激しい潮流を起す處が多く、鳴門海峡・來島海峡はその最著しい例である。

**氣候** 瀬戸内海に臨む方面の氣候は、對岸の山陽地方に類し、溫暖で晴天が多く、雨量が少い。従つて灌漑には人工的の溜池が必要



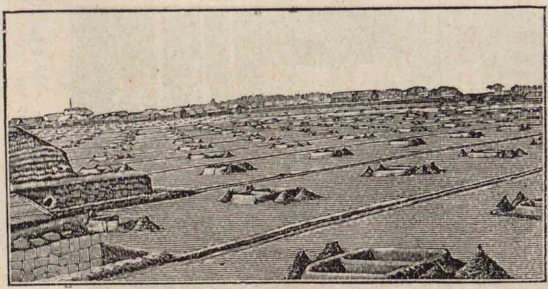
**坂出の鹽田**  
並行しゐるのは海水を引入れる瀝漚で箱のやうなのは砂に附いてゐる鹽分を濃縮する溜井といふものである

**煙草畑**  
三好郡池田附近の煙草畑を示したものである

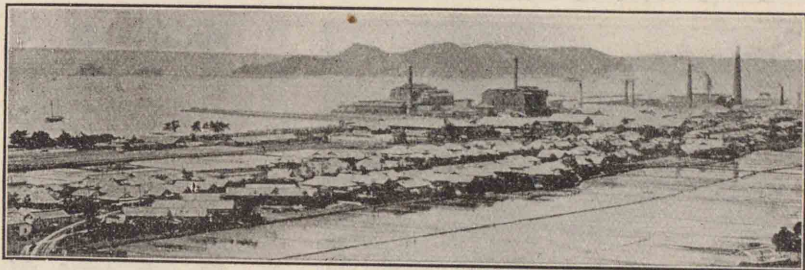


で、到る處に池沼が散在し、又沿海には鹽田が廣く開け、波止濱、今治、坂出、香撫、養鳥等は、その中心である。太平洋斜面は殊に溫暖で、夏季には降雨が多く、内地では最も雨量に富む地方である。されば樟榕樹の如き植物も繁茂し、米は年二回の收穫を見る處がある。

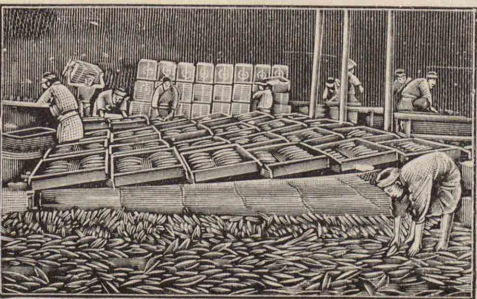
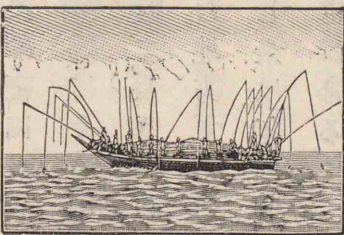
**産業** 地域は狭いが、米・麥等の農産が多く、吉野川の流域には藍・煙草等の特産があり、脇町(藍)、池田(草煙)は各その中心である。香川縣では甘蔗を植ゑて粗糖を作り、愛媛縣では檀を植ゑて木蠟を採り、愛媛・高知の兩縣に互つては、三桎楮を栽培して紙を抄き、伊野(高)、大洲(愛)は製紙



新居濱の海岸  
近景に煙突の多く立つてゐるは肥料製造所で海上の島は御代島である



鯉釣舟と鯉節の製造  
上圖は群集せる鯉を釣る有様で下圖は鯉節製造場(徳多郡清松村)の光景である



の中心地である。果樹の培養も愛媛(柑類、梨、橘)、香川(果、華)の諸縣に盛に行はれ、高知縣には森林が廣く、木材、薪炭等を産する。鑛産の著しいのは別子(愛)の銅で、その鑛石を新居濱から四坂島に送つて精鍊する。新居濱には鑛物肥料の製造が行はれ、直島(香)にも銅の精鍊所がある。

水産は一體に豊富で、外洋の鯉鱒と内海の鯛、鱈とは、その漁獲が殊に多く、室戸(高)、三津濱(愛)、觀音寺(香)等は、主要な漁港である。高

知縣は古來鯉節の産地として著はれ、西南部の沖島附近には紅珊瑚の特産があり、宿毛はその漁獲船の集る處である。

大工業は未だ著しく發達しないが、綿絲、綿織物は主要な工産で、今治、松山、宇和島、愛媛、徳島等にはその産額が多く、又香川縣には燐寸(高)、花筵(龜)、製帽眞田(坂)等の産がある。

商業は未だ大中心がなく、大阪と神戸とを主な取引先としてゐる。今治は唯一の開港場であるが、貿易は盛でない。

交通 山地が多い上に、鐵道は讚豫線、高德線が北海岸を走る外、徳島線、高知線等があるが、各、孤立して連絡がないから、陸上の交通は、一部を除く、外尙不便を免れない。然し近海には、普く航路が環つてその缺點を補ひ、殊に内海方面は良港も多く、山陽地方と相對して、船舶の來往が頻繁に行はれ、高



- 1 高松・北條間
- 2 高松・津田間
- 3 徳島・池田間
- 4 須崎・山田間

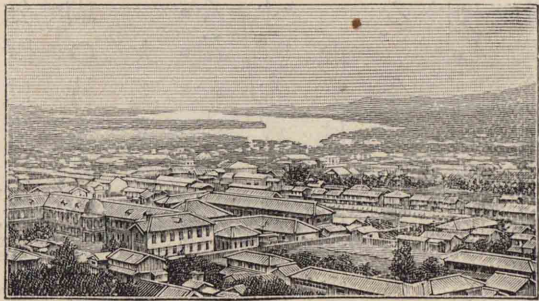
松は中國と鐵道連絡船を通じてゐる。

處誌

南部は人口が少いが、北部は密で都邑も多い。然し、市邑相互の連絡が不十分で、未だ大中心の發達を見るに至らない。

吉野川の口に臨む徳島市は、四國第一の都會で、小松島を外港として縣内の産物を集散し、又緞織の名産を出す。吉野川流域の勝町、池田、鳴門海峡に臨む撫養は、地方の要地である。

高松市は鐵道(高徳線)の接續點に當り、四國第一の商港で、又風致に名高い栗林公園があり、近傍に屋島、五劍山等の勝地がある。海上の小



徳島縣

都邑人口 千人  
徳島市 八四

徳島市

徳島城址から展望した  
光景で前方に白く見え  
るは吉野川の下流津田  
港である

香川縣

都邑人口 千人  
高松市 七一  
丸龜市 二七

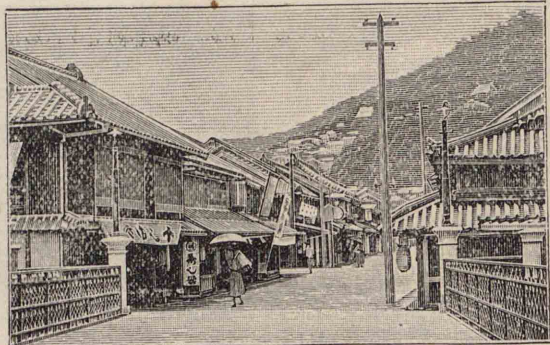
高松の西方に白峯の御陵(崇徳天皇)があり、屋島は著名な源平の古戦場である

金刀比羅宮  
琴平市中から見上げた  
所で中腹の樹間に見え  
るのが社殿である

愛媛縣

都邑人口 千人  
松山市 五八  
宇和島市 三八  
今治市 三七

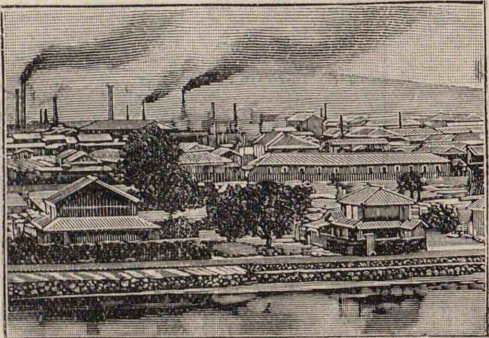
今治市の展望  
近年綿織工業が著しく  
勃興した都市で林立す  
る煙突はその盛況を示  
すものである



重信川流域の松山市は伊豫緋綿絲等を集散し、附近から砥部焼を出す。道後は著名な温泉場で、三津濱及び高濱は松山の外港である。豊後水道に臨む宇和島市は、罐詰の製

豆島は、寒霞溪の奇勝で名高く、又醤油、素麵、石材等を出す。丸龜市は商業上の要地で、多度津は内海航路の一要地である。琴平には名高い金刀比羅宮があつて、參詣者で賑ひ、善通寺は第十一師團司令部の所在地である。

西條には綿織工業が行はれ、今治市は四國第一の工業地で、綿ネル、綿絲等の産出が甚だ多

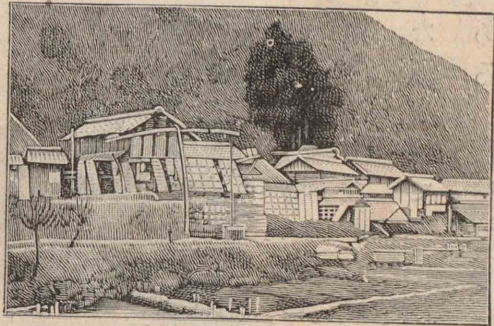




◎高知縣  
 郡邑人口 千人  
 高知市 六五  
 浦戸の附近にはセメントの工業が行はれる

和紙の製造  
 伊野地方の光景で軒端に立かけた板は湯き上げた紙を張って乾かすのである

國名  
 筑前 筑後 豊前 豊後 肥前 肥後 日向 大隅 薩摩 壹岐 對馬 琉球  
 面積 約四〇〇方軒 (約二八五〇方里)  
 人口 九〇八萬  
 密度 一方軒二六三人 (一方里三二八二人)



造及び綿織物の集散が行はれ、又北方の八幡濱と共に舟泊の要地である。  
 四高知市は、風光の明媚な吸江に臨む港市で、浦戸はその門戸に當り、和紙の積出が多いが、港が浅いので大船の出入に適しない。伊野は抄紙業の中心地で、須崎は天然の良港をなし、東部の甲浦は、舟泊の要地である。

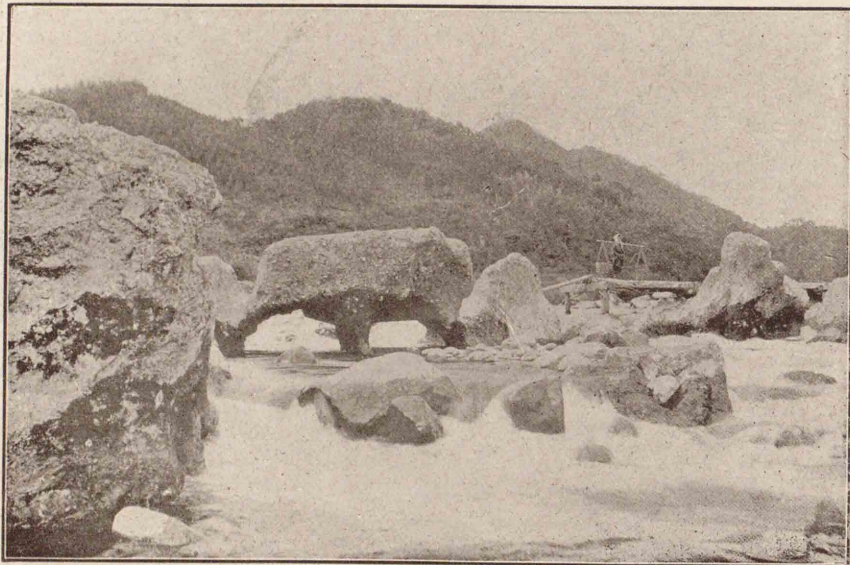
第七章 九州地方 通説

九州島及びその屬島と、琉球諸島とを含む地域で、政治上八縣に分ける。

府縣名(廳所在地)	管轄國名	面積人口
福岡縣(福岡市)	筑前・筑後 豊前・西半部	四九二万軒 二三〇一万人
佐賀縣(佐賀市)	肥前東半部	二四四万軒 一六八四千人
長崎縣(長崎市)	肥前西半部 壹岐・對馬	四一六万軒 一六四四千人
熊本縣(熊本市)	肥後	七四三万軒 二九六六千人
大分縣(大分市)	豊前東半部 豊後	六二二万軒 九一五千人
宮崎縣(宮崎市)	日向	七三三万軒 六九一八千人
鹿児島縣(鹿児島市)	大隅・薩摩	九〇二万軒 一四七二千人
沖縄縣(那覇市)	琉球	二一五万軒 五五七千人



太宰府神社正面の太鼓橋から社殿を望んだ光景に附  
 近の榎寺は菅公幽居の址と傳へられる



耶馬溪天際に聳えたる奇巖に激流奔るに眞勝  
 我が自然の美代表は「犬走り」の奇勝



虹の松原 松浦灣頭一の帯白砂青松が夕陽に映る海面  
と共長虹の如く見え方前るに浮ぶ高島

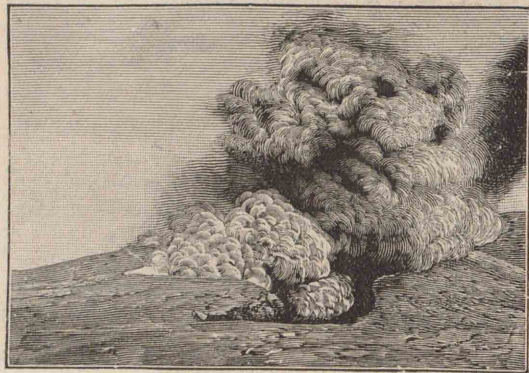


鹿兒島の海岸 附近の特産あてる大島根が  
堆に積まされてる

山脈・火山脈

- 九州山脈  
 祖母山 一七五八  
 市房山 一七三二  
 米
- 筑紫山脈  
 九重山 一七六四  
 阿蘇山 一五九二  
 由布岳 一五八四  
 温泉岳 一三六〇  
 英彦山 一三〇〇  
 多良岳 九八三
- 霧島火山脈  
 霧島山 一〇〇〇  
 櫻島 一一一八  
 開聞岳 九二四

阿蘇山の噴煙  
 中岳の噴煙を示したもので、噴出せる灰砂(ヨナ)は農牧に影響することが多い



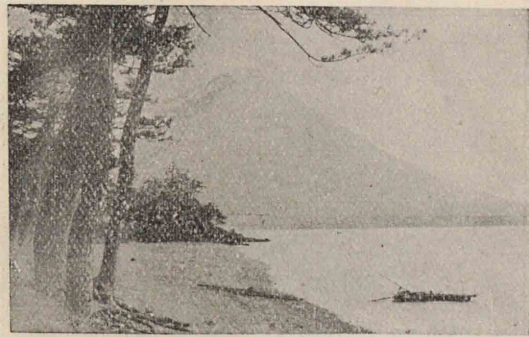
地勢

南部には高峻な九州山脈が連り、祖母山・市房山等の高山を起して琉球列島の外側に延び、北部には筑紫山脈が斷續して、丘陵が處々に起伏してゐる。阿蘇火山脈は、この兩山脈の間を通り、著名な活火山阿蘇山を中心として、西方に温泉岳・多良岳、東北に九重山・由布岳・英彦山等を起してゐる。この一帯の地方には温泉が多く、中にも別府は廣い範圍に互り、湧出量が多い上に、氣候も快適であるから、此處に我が國第一の温泉市が發達した。温泉岳の中腹にある温泉場は、避暑地として名高い。霧島火山脈は霧島山を主峰とし、西南に延びて櫻島・開聞岳等を起し、更に琉球列島の内側を通じ、海上に幾多の火山島を作つてゐる。櫻島は最

河	湖	流長
筑後川	内海	一四一
大淀川	後内	一三五
五箇瀬川	大淀	一〇〇
緑野川	大野	九〇
菊池川	池野	七五
白賀川	遠賀	六三
遠賀川	遠賀	五八

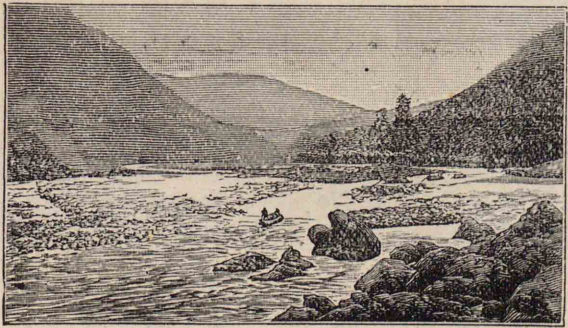
山容が富士山に似てゐるので薩摩富士の名がある

球磨川は三急流の一に数へられ活潑の風景がよい



大淀川・五箇瀬川・大野川等があるが、白川が菊池川・緑川等と共に、その下流に熊本平野を伴ふ外には、著しい平野がなく、流が概急で、水運の便は多くない。

近の噴火によつて半島状となり、開聞岳は山容が秀麗である。  
河川は諸方面に分流する。北部には遠賀川・筑後川があり、筑後川は九州第一の大川で流域に豊沃な筑紫平野を開き、遠賀川と共に水運の便が多い。この他、西部には白川・球磨川・内川等があり、東部には



佐世保灣・長崎灣・平戸島附近・壹岐・下關海峡等の附近對馬の大部及び大島は要塞地帯である

**海岸** 海灣や島嶼が極めて多く、海岸線の發達は、五大島中の第一位を占め、殊に西北部は良港灣に富み、古くから通商の開けた地方で、商港も夙に發達し、又近く大陸と對する關係から、佐世保には軍港がある。玄界灘に臨む方面には、博多・唐津等の彎入が多く、西北の肥前半島は、更に數多の小半島に分れて、大村灣・有明海等を抱き、其等の海上には五島列島・平戸島・壹岐對馬の島嶼が遠近に散在してゐる。西岸の天草諸島は、八代海と天草灘とを分け、吹上濱には砂丘の發達が著しい。  
東方には國東半島・佐賀關半島があつて、別府灣を擁し、豊後水道は鋸齒状の出入が多いが、海岸に近く山地の連つてゐるのが不便である。日向灘は單調で殆ど一直線をなし、背後には段丘に富む海岸平野がある。南部には薩摩大隅の兩半島があつて、鹿兒島灣を抱き、薩南諸島・琉球列島等が、その西南に羅列してゐる。

青島 官崎市の南方十六軒の海岸にある小島で島内には圖の如く菜油が繁茂してゐる



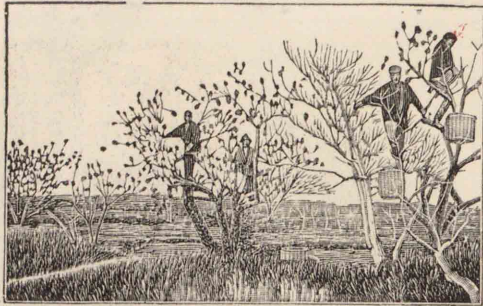
く、雨量も多くない。

〔産業〕 筑紫・熊本の兩平野は、米・麥・菜種等の産に富み、殊に福岡縣は屈指の米産地で、久留米・大川等をその集散地とし、又熊本を中心とする肥後米は、良質で名高い。その他各地に粟の産出が多く、鹿兒島縣では煙草の栽培が盛で、國分・指宿等はその中心である。國東

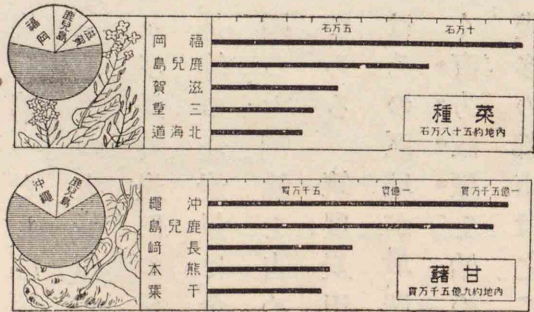
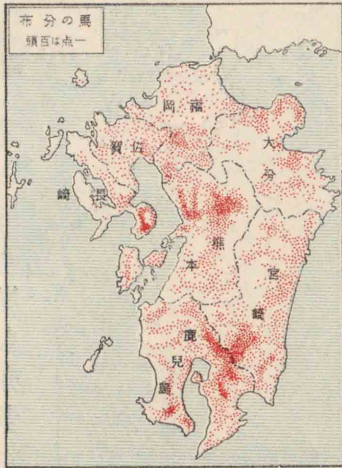
熊本縣は粟の産が内地第一である

植實の採集 樹に攀ちて熟した實を採つてゐる光景でこの實を搾つて蠟を採るのである

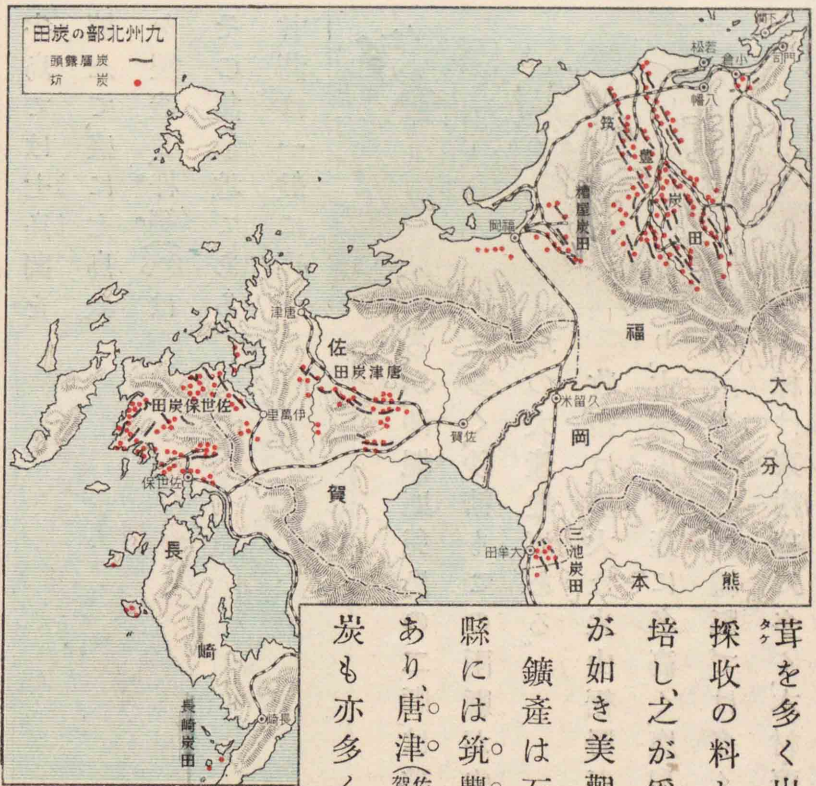
沖繩縣は豚の頭数が内地第一である



半島では七島蘭を植ゑて、盛に七島表を製造し、杵築分はその集散地である。甘藷は一般に産す



るが、沖繩・鹿兒島の二縣は殊に多く、砂糖もこの兩縣が内地の大産地である。牧畜は、廣大な火山裾野があつて、良牧場となり、古來馬の産に名高く、鹿兒島・熊本の二縣は、その主産地で、沖繩縣では多くの豚を飼つてゐる。森林は東南部に多く、木材・薪炭・樟腦等の外に椎

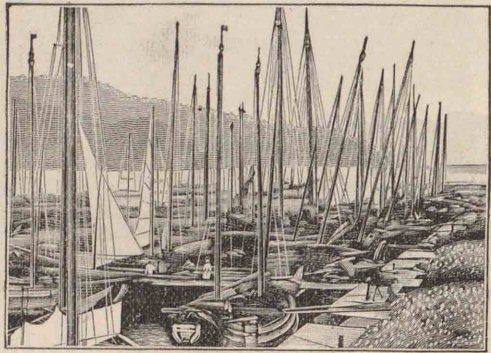


茸を多く出し、福岡縣では木臘採收の料として多く櫨樹を栽培し、之が爲に晩秋には燃ゆるが如き美觀を呈する。

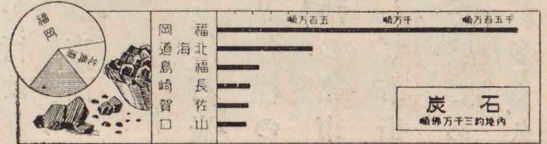
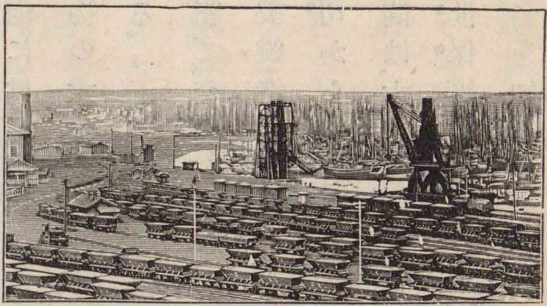
鑛産は石炭を第一とし、福岡縣には筑豊三池等の大炭田があり、唐津(賀)及び長崎炭田の採炭も亦多く、是等の産炭量は、全國の七割餘を占めてゐる。筑豊炭田はその區域が最も廣く、直方飯塚を始め、幾多の都市は之に

圖 石炭の積出  
若松港の半島で船を積み込む炭車運搬の運搬を知らぬといふ盛況が現はれてゐる

圖 佐賀關の海岸  
久原精錬所があつて、石を盛に運んで來る圖の小船は、漕ぎあはせてある。鯛生は外國人の經營である

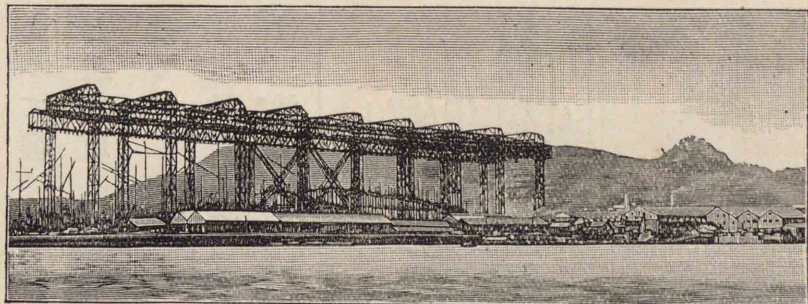


よつて發達し、石炭は蛛網の如き鐵道と、遠賀川の水運によつて、門司若松等から積出され、又この沿海地方に大工業地帯を發達せしめた。三池炭田は三池港から積出される外、大牟田の工業を盛ならしめ、唐津炭田は唐津、江を、長崎炭田は長崎を積出港としてゐる。その他、串木野、芹野(鹿兒)、鯛生(大分)、馬場(大分)等の金、槓峯(宮崎)の銅等も亦多く、佐賀關には大精錬所があつて、金、銀、銅の精錬が盛に行はれ、又谷山(鹿兒)には名高い錫山があるが、



鯉節は薩摩半島から薩摩諸島へかけて製出せられ近年沖繩縣にも製節が盛である  
紅珊瑚は五島の南西方及び甌島邊を特産地とし多く五島民によつて採集される

三菱造船所  
三菱造船所は職工八千人を有し設備が整ひ東洋屈指のものである。圖はそのガントリークレーンを示したものである



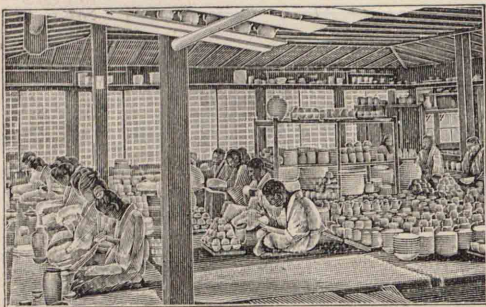
産額は多くない。  
水産は一般に豊富であるが、長崎縣の柔魚・鯖、鹿兒島縣の鯉・鰯等はその漁獲が殊に多く、鰯と鯉節とは屈指の産物で、西部の海上には紅珊瑚の特産があり、有明海には貝類の養殖が行はれる。長崎市は水産物の大集散地で、支那方面への輸出も頗る盛である。

北部は人口が稠密で、交通が便利な上に、石炭の産出が多いから、製鐵・造船・製糖・製紙等、各種の工業が盛に興り、門司から小倉・戸畑・八幡の諸市を経て、折尾に至る間は、大工場が相列んで市街が殆ど連続し、長崎・佐世保等には造船業が盛である。織物には夙に名を知られたものが多く、久

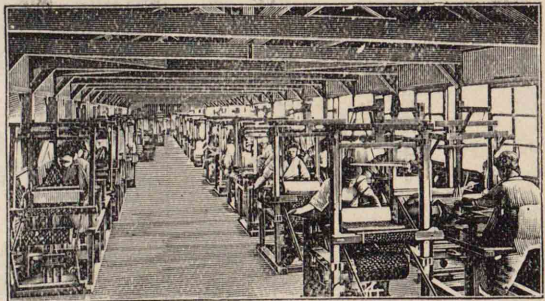
開港場

久留米市の於ける製織工場の内面を示したものである。久留米は地質染色の堅牢なため名高い

有田町にある香蘭社工場の一部を示したもので多数の男女工は書き付けをしてゐる  
門司・若松・博多・三池・唐津・住ノ江・長崎・口之津・三角・鹿兒島・那覇・佐須奈・鹿見・嚴原は開港場である  
門司・鹿兒島間



留米・博多・織・薩摩・大島・琉球・上布は、最著名である。陶磁器の産地も少くないが、中でも有田・佐賀はその産額が殊に多く、薩摩焼も亦名高い。醸造は清酒を主とし、筑後川の下流地方に盛で、福岡縣の産額は兵庫縣に次いでゐる。



この地方は、近く大陸を控へ、古來通商上の要地を占めて、開港場の數が極めて多い。殊に石炭の輸出港は、概商況が繁盛を極め、中でも門司は九州の關門として新に勃興し、今や長崎を凌ぐに至つた。

交通 交通機關はよく發達し、殊に西北部は鐵道網が極めて密である。鹿兒島線は、南北に貫

肥薩線、豊肥線

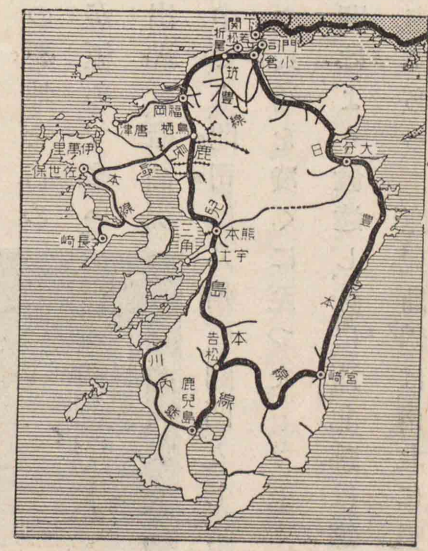
- 2 若松・上山田間
- 3 鳥栖・長崎間
- 4 鹿兒島・米ノ津間
- 5 小倉・吉松間

カミヤマダ  
線  
大岳のループ線

西北部からは大連・上海・ワラヂボストックへも海底電線を通じてゐる



通して、筑豊線・長崎線・川内線等と連絡し、九州山脈を横ぎる處は、ループ線になつてゐる。日豊線は東部を海岸に沿うて走り、鹿兒島線と共に本島を一周してゐる。良港が多く、且亞細亞大陸に近い關係から海運は著しく發達し、沿岸航路の外、門司・長崎等は、外國航路の寄港地として著名である。大瀬崎・那覇・鹿兒島及びラサ島等には、無線電信局の設がある。



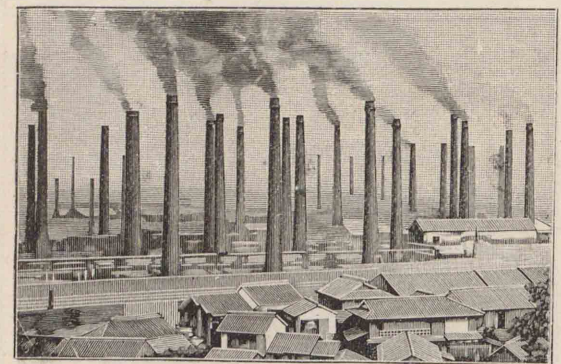
處誌

北部・西部は、古くから外國との交通が開けて、文物輸入の門戸に當り、且近年産業が盛に勃興して、戸口が著しく密となり、重要な都市が多い。東南部は古史に名高い地方であるが、その發達は他の地方に遅れてゐる。

福岡縣 都市人口

福岡市	一四六
門司市	一八六
久留米市	九八
小倉市	七二
若松市	五九
飯塚市	四九
後藤市	三七
伊田町	二六
田原町	二三

圖解 八幡の製鐵所 製鐵業の盛況を示したもので林立せる煙突は凡てその工場である



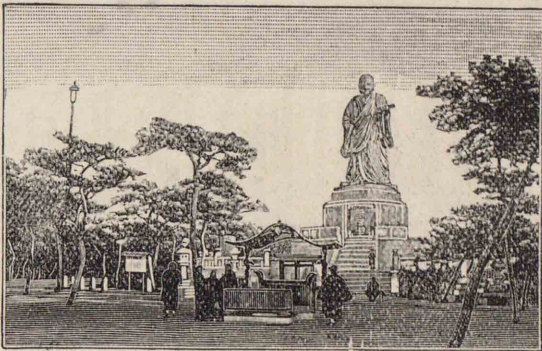
下關海峡に臨む門司市は、九州の北門に當る開港場で、盛に石炭を積出し、小倉市・戸畑市は共に各種の工場が多い。八幡市には官設の製鐵所があつて、規模の宏大なことは、東洋第一と稱せられ、若松市はその鐵鑛の輸入港で、又石炭の積出が盛である。折尾は鐵道(鹿兒島)の交叉地で、筑豊線の一方は若松市に、他方は筑豊炭田に通じてゐる。博多灣に臨む福岡市は商工業の中心で、九州帝國大學が

博多灣は元寇の史上に名高い  
香椎宮は仲哀天皇神功皇后を祀り太宰府神社は菅原道真を祀る

福岡市の東に接し千代の松原といひ面積八萬二千坪。銅像は元寇の豫言者日蓮上人である

三池港は開門式船渠を以て名高い

久留米市の製造工場の一部を示す

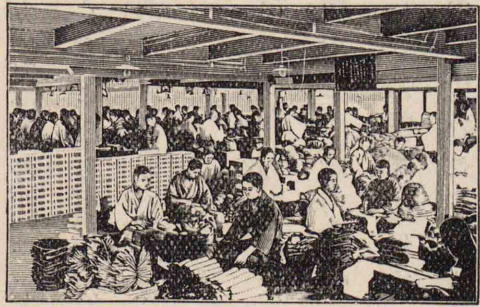


あり、市の一部をなす博多は、古來の名邑で、現に開港場である。この附近には宮崎宮香椎宮を始め、著名な史蹟が多く、又東南に太宰府神社がある。久留米市は、第十二師團司令部の所在地で、緋木綿、足袋等の産がある。大牟田市は、三池炭坑を控へて、各種の工業が次第に起り、その港(三池)は開港場で、石炭の積出が多い。

唐津の附近に虹ノ松原の勝地がある

佐賀市 千人

佐賀市は米穀の集散が多く、長崎線の鐵道が鳥栖から來て此處を通る。武雄は著名な温泉場で、有田は製陶地として名高く、伊萬里はその門戸である。北方の唐津は開港場で、石炭の



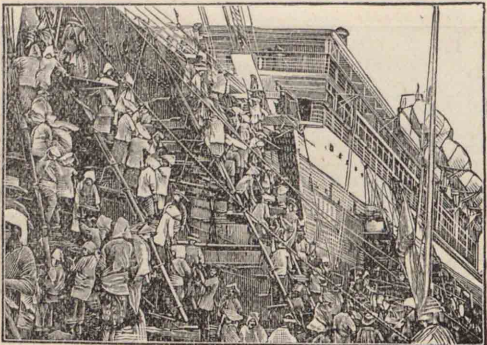
長崎縣

郡邑人口 千人  
長崎市 一八九  
佐世保市 九五  
佐世保及び大村に海軍飛行場がある  
長崎に醫科大學がある

長崎に艦甲細工の名産がある

石炭の積込み  
長崎港に於ける石炭積込みの盛況である。石炭を入れた箱を次ぎ次ぎに手渡しするの注意せよ

熊本縣  
郡邑人口 千人  
熊本市 一四七  
水俣町 二三



積出が多く、南方の住、江も亦開港場である。

佐世保市は、近く大陸と對して樞要の位置を占め、第三海軍區の軍港で、鎮守府海軍工廠等がある。長崎市は、我が鎖國時代に西洋文明を輸入する唯一の門戸であつた古い開港場で、石炭水産物等の積出が多く、又各種の學校がある。灣内の三菱造船所は、規模が甚だ壯大で、灣口の高島は石炭を出す。島原は内海航路の要地で、口之津は開港場であるが、貿易取引は盛でない。五島列島の福江は、漁業の要地で、平戸島は昔時の貿易地である。この他、對馬には佐須奈、嚴原、鹿見、壹岐には勝本、郷浦等の要津がある。

熊本市は白河の下流に跨り、九州屈指の





熊本に醫科大學がある

熊本の北方には田原坂・植木等の古戦場がある

隈府に菊池神社(祭神菊池武時一族)がある

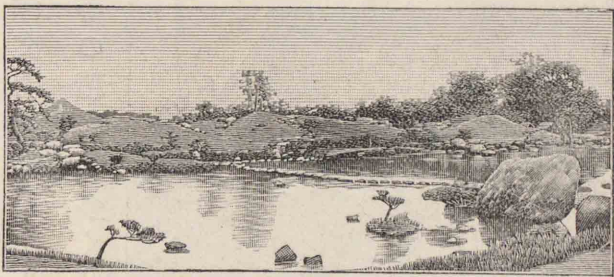
水前寺の一部藩祖を祀った出水神社の神苑で風景の美しいことは九州第一といはれる

八代に八代宮(祭神懷良親王)がある

大分縣

都邑人口 千人  
大分市 五三  
別府市 三七  
中津町 二四

宇佐神宮は應神天皇・神功皇后等を祀る



行はれ、この上流にある耶馬溪は、奇景を以て著はれ、宇佐には名高い宇佐神宮がある。別府市は著名な温泉場で、市の内外には温泉の湧出が多く、大分市は水陸交通の便がよく、近年紡績その他の工

大都會で、米穀の集散が多く、第六師團司令部や、各種の學校が設けられ、又成趣園(水前寺)の勝地がある。菊池川流域の山鹿は温泉場で、隈府は吉野朝の史上に著はれ、宇土半島の三角は開港場である。八代は球磨川の口に臨んで木材の集散が行はれ、又セメント・洋紙等の工場がある。海上の天草諸島は漁業の根據地で、又無煙炭陶土を産出する。人吉は人吉盆地の中心で、この上流に五家莊がある。

中津は山國川の河口に臨んで、綿絲紡績が行はれる。

宮崎縣

都邑人口 千人  
宮崎市 四二  
都城市 三〇  
小林町 二五

別府海岸の砂湯

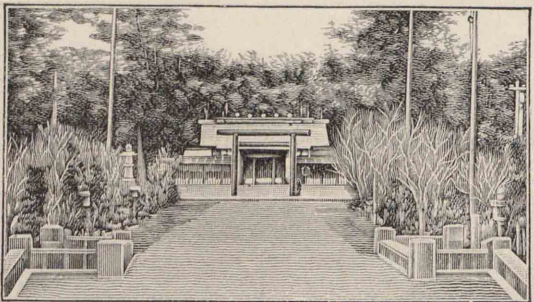
干潮の際白砂を掘って身その中に埋めると温泉水が湧出して快氣を覚える

宮崎神宮

養都高千穂宮址にあつて神武天皇を祀る、社殿は伊勢大廟を模したものである

鹿兒島縣

都邑人口 千人  
鹿兒島市 一三四  
谷山町 二六  
枕崎町 二四  
阿久根町 二一



業も勃興した。豊後水道に面して佐賀關・白杵・佐伯等の錨地がある。五箇瀬川の下流にある延岡は名邑で、細島は舟泊の要地である。大淀川の口に臨む宮崎市は地方の中心市で、市内に宮崎神宮がある。油津は南部の要津で、都城市は交通の要地に當り、附近から茶を産する。吉松は鐵道の要地で、この西方には名高い金産地が多い。鹿兒島市は島津氏の舊城市で、各種の學校がある。近年の噴火で名高い櫻島を前面に控へ、風光の明媚な開港場で、薩摩燒錫



鹿兒島港 市の西方城山の高地から見た所で前方の山は櫻島、船の碇泊してゐる所が港、海岸に黒く長く見えるが防波堤である

櫻島大根 島内に出来る大きな大根で箱に入れ頭に載せて運ぶ人と比べてその大きさがわかる

薩摩焼は伊集院の一部である苗代川から出る

種子島は鐵砲傳來の歴史に名高い

沖繩縣

那覇市 千五百四十人  
首里市 二五〇人  
平良町 三〇人



の採取が行はれる。

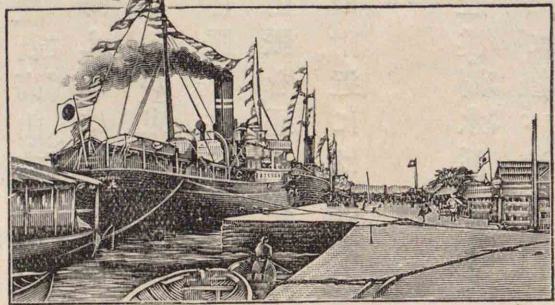
薩南諸島の種子島には甘蔗の栽培が行はれ、屋久島は杉の良材を出す。その西南には、霧島火山脈に屬する吐噶喇諸島が散在してゐる。大島は奄美諸島の主島で、鯉節粗糖大島紬等を産し、名瀬の錨地がある。琉球諸島は、沖繩諸島と先島諸島とからなり、後者は、宮古八重

琉球諸島にはハブといふ毒蛇が棲んでゐる  
先島は臺灣と共に西部標準時を用ひる

那覇の埠頭 埠頭に汽船を横着にした光景で明治四十年から十二年間の工事によつて出来上つたものである

新パナマ帽は阿丹葉から製する極めて最近に勃興した産業であるが本縣の工業中優位を占めてゐる

山の二諸島に分れる。氣候が溫暖で、熱帶植物が繁茂し、海岸には珊瑚礁の發達した處もある。住民は、甘蔗を耕作して多く之を常食とし、甘蔗を栽培して粗糖を造り、又豚の飼養が盛で、每户殆ど之を見ない處はない。那覇市は開港場で、粗糖を産し、又縣の名産たる琉球紺、芭蕉布、漆器、泡盛、新パナマ帽(阿丹)等を集散する。首里市は舊王城の地で、中城及び運天は、共に良好な碇泊地である。西南の八重山諸島は、上布の名産を出し、東方のラサ島(沖大東島)は、磷礦を産するので名高い。



第八章 臺灣

通説

面積 約三〇〇方里  
 (約二二〇方里)  
 人口 約三九九萬人  
 密度 一方里一一人  
 (一方里一七三人)

圖新高山の遠望  
 明治天皇の御命名によるもので洋人はモリソン山支那人は玉山と呼んでゐる

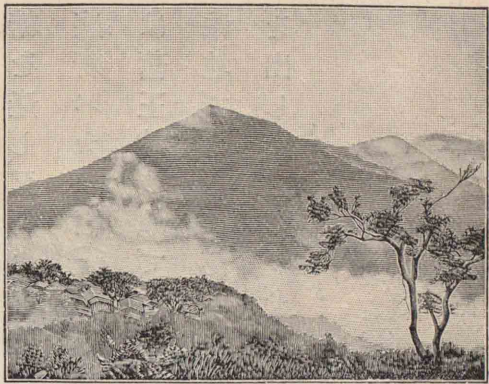
山脈・火山脈

臺灣山脈  
 新高山 三九五〇  
 次高山 三九三二

大屯火山脈  
 大屯山 一〇四五

河

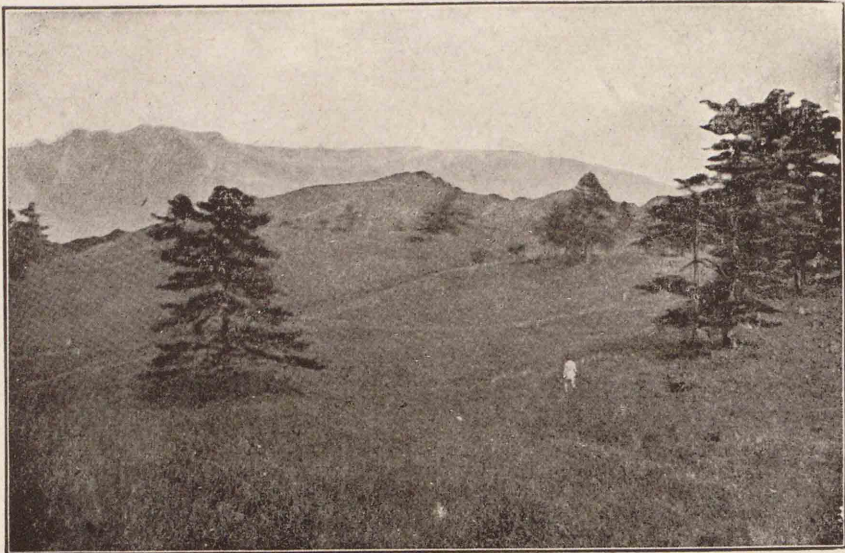
濁水溪 一六五  
 淡水溪 一五〇  
 大甲溪 一三〇  
 大肚溪 一一八  
 秀姑巒溪 一一二  
 卑南大溪 八四  
 日月潭 一五



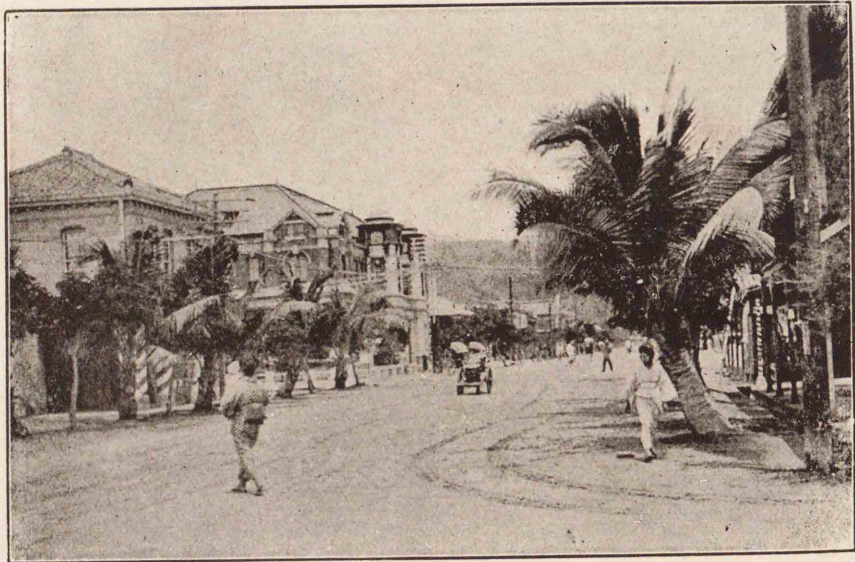
海に迫つてゐる處が多い。西北部には大屯火山脈を通じ、山地の山を起して西方の澎湖諸島に及んでゐる。この附近には温泉が湧出し、その中北投は最も著名である。河は東西に分流する。西斜面には淡水河、大肚溪、濁水溪、淡水溪等の大河があるが、山地から急に平地に移るので、概下流に廣い

本邦の最南に位し、南はバシー海峡を隔て、フィリピン諸島に向ひ、西は臺灣海峡を挟んで、支那と對してゐる。

地勢 臺灣山脈は、本島の主軸となつて南北に縦貫し、山勢が峻峻で、新高山、次高山を始め、多くの高山が並び聳え、西は緩斜して廣い臺灣平野となつてゐるが、東は傾斜が急で、之に竝走せる臺東山脈と共に、山地の



次高山 多數の峰群を下を透して白雲の間、時々の海抜三九三米の次高山



高雄市の街路も熱帯植物のなをの見るれば、情調が熱帯植物のなをの見るれば、情調が熱帯植物のなをの見るれば、情調が



樟林 工人に植栽するに年約二三年を経過した若木の下に

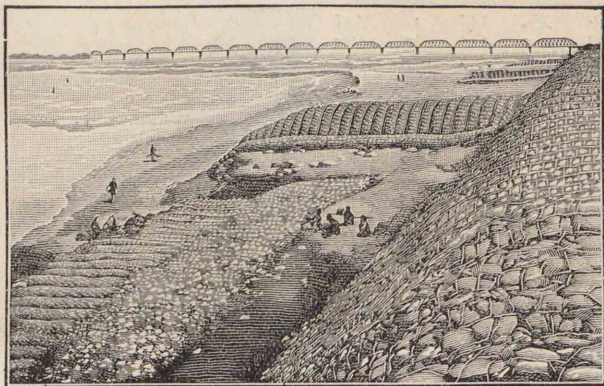


蕃人の子供に如く野に遊ぶ凡ての神

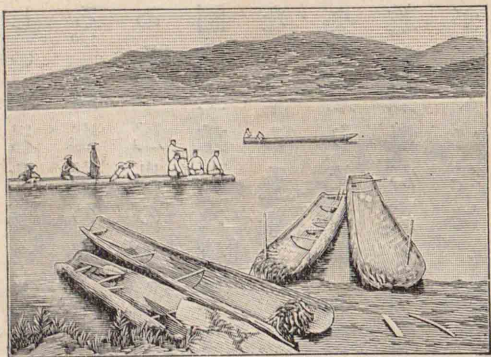
**濁水溪**  
臺灣の最長流で水が濁つてゐるのこの名がある出水氾濫することが多いので圖の様な大防壁工事が施された

**日月潭**  
南投の東方にある湖水で近頃の丸木舟は附近に住む土人の使用するものであつて太古の感が得る先年の附近に發電の大工事を起したのが今は中止してゐる

屬島は澎湖諸島の外に琉球嶼・紅頭嶼・火烧嶼等がある



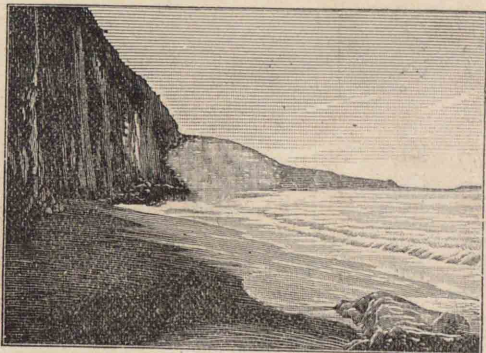
砂礫地を作つて、多くの分流を出し、氾濫常なく、架橋も困難な爲、交通を妨げることが多く、淡水河・下淡水溪の外は、殆ど舟楫の便はないが、上流は多く發電に利用せられ、山中の日月潭は、風景が佳いので名高い。東部には濁水溪(蘭宜)の下流に宜蘭平野を開き、臺東平野には卑南大溪、秀姑巒溪、花蓮溪等が流れてゐる。



**海岸** 海岸の屈曲は一般に單調で、屬島も亦少い。西海岸は遠浅で、砂嘴や潟湖が多く連り、東海岸は山脚が海岸に迫つて絶壁となる

基隆灣附近及び澎湖諸島は要塞地帯である

巨瀾が崖壁に打寄せて水煙をあげてゐる光景で東海岸は斯様な峻険な處が長く續いてゐる



處が多く、共に港灣に乏しいが、只北部の基隆のみは天然の良港である。西海岸の瀉は多く養魚に利用せられてゐる。屬島の主要なものは澎湖諸島で、我が國防上重要な位置を占め、馬公は海軍要港となつてゐる。

〔氣候〕 北回歸線が略中央を走り、その半は熱帯に屬してゐるから、一般に氣温が高く、平地では霜雪を見ない。夏が長く冬は

短く、且夏冬に於ける氣温の差は少いが、北部は南部に比し、西部は東部に比して、稍著しい。

雨量は概して多く、基隆附近は、全國最多雨の地といはれる。北部は冬に多いが、一般の降雨は夏に多く、恒春の如きは冬季

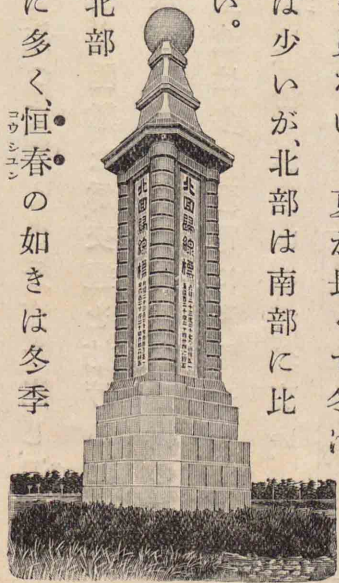
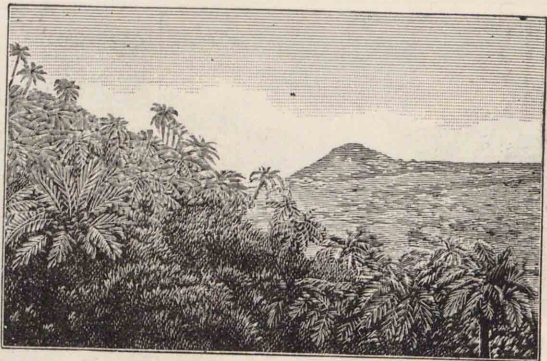


圖 北回歸線標  
嘉義縣と水上縣との中間で鐵道線の近傍にある

圖 檳榔樹の繁茂  
恒春附近の光景で土人はこの葉を椰草のやうに嚼む習慣がある果實は健胃利尿劑となる

熱帶樹林には竹籐等を混生してゐる



殆、無雨の状態である。西南部は灌漑に不便な爲屢旱害を受け、自然の沃野が空しく不毛の荒地となつてゐたが、近年運河溜池等を作つて、その缺を補ふに至つた。

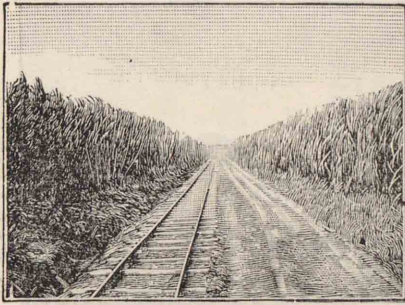
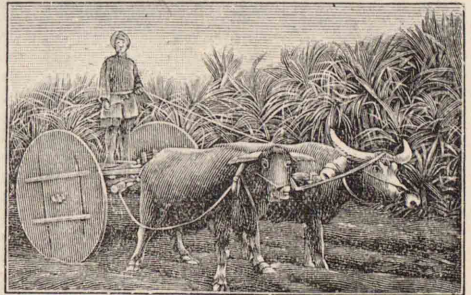
氣候が高温多濕であるから、低地には杪羅、藤、榕樹、檳榔樹、林投樹等の熱帶植物が繁茂し、海岸には處々に珊瑚礁が發達してゐる。又丘陵地には樟が繁茂し、高地には針葉樹の密林がある。マラリヤ病、赤痢等は、この地の風土病であつたが、衛生設備の進歩に伴れて、今は著しく減少した。

〔産業〕 西部の平野は農業が大いに進み、米、茶、甘蔗、甘藷は、この地の四大農産物である。米は年に二回の收穫があり、臺中地方に最も多く、内地への移出も少くない。茶は北部の丘陵を主産地として、臺

茶園と蔗園  
右は茶園みて左は甘蔗の茂つてゐる光景

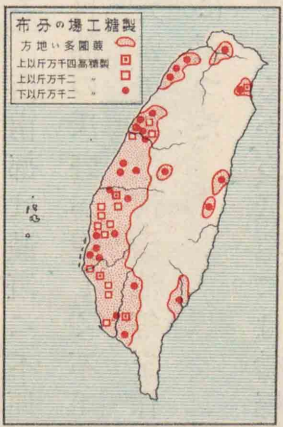
水牛

性質が温順で粗食に堪へ水に浴することを好み多く水田のある地方で飼育する背後の植物は林投樹である

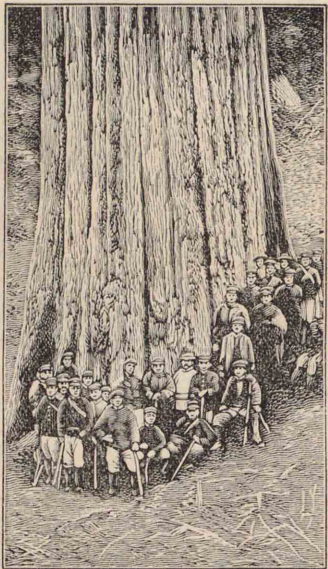


北・桃・園等に集り、臺北では輸出の烏龍茶包種茶等の精製が盛である。甘蔗は中部以南に多く栽培せられ、嘉義・臺南・鳳山・屏東等は製糖業の大中心である。もとは多く粗製の儘で移出したが、今は精糖の産出が大いに増加し

た。甘藷は殆ど到る處に植ゑられて、島民の食用となり、その他落花生を始め、香蕉、鳳梨、柑橘等の果實や、麻類

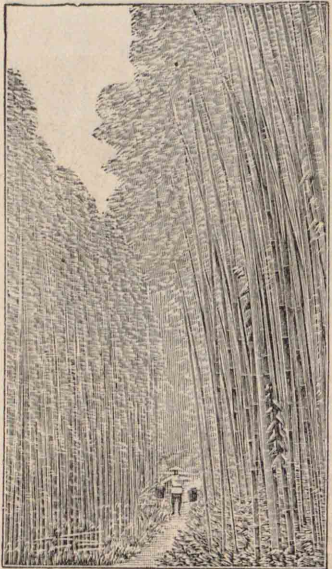


阿里山の巨木  
阿里山の巨木で樹齡は二千年に達し周囲が二十米もある



竹林

交力坪附近の竹林で高さ十米に及ぶものが十数軒も建ててゐる



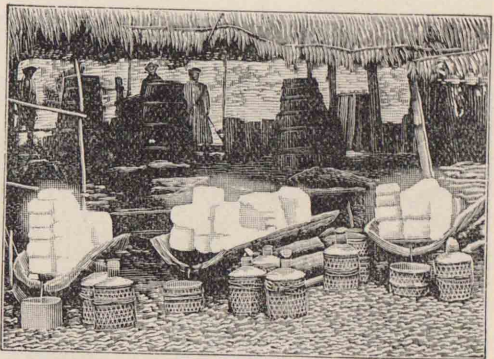
樟腦阿片煙草酒鹽は總督府の專賣に屬してゐる

煙草等の産出が多い。水牛・黄牛・豚は何れも重要な家畜で、水牛・黄牛は、廣く農耕運搬に使役される。

山地は扁柏・紅檜等の良材に富み、中でも阿里山の大森林は最著はれ、山麓の嘉義には大製材所がある。又竹林が多く、製紙器具の原料とし、林投樹からは林投帽の原料を採る。樟樹から製す

糖砂	斤一 斤二 斤三 斤四 斤五 斤六 斤七
糖砂	斤力百三千九約總全
豚	頭万十五 頭万百
豚	頭万八千三百三約總全

**樟腦の製造**  
黒い圓筒形のは樟  
樹片を蒸す器、白い塊  
は結晶した樟腦、下の  
滴板から滴り落ちるは  
樟腦油である

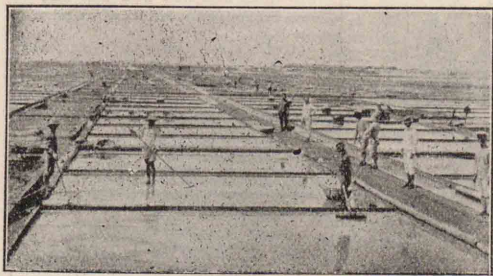


樟腦は本島の特産で、各地で小規模に製造されたものが、臺北に集つて内地及び歐米に輸出され、實に世界需要額の大半を供給する。苗栗・斗六は地方に於けるその重要な集散地である。

鑛産は北部の瑞芳・金瓜石等から金・銅を出し、大屯山は硫黄を出し、基隆附近は石炭

**天日製鹽**  
天日製鹽は海水を蒸發池に入れ、鹹度が濃くなると結晶池に移して作るもので、圖は蒸發池の海水をかきまはしてゐる處である

の産が頗る多く、苗栗附近の石油も亦有望である。水産業は近年次第に發達し、基隆の鯉節製造は益々盛となり、又附近で珊瑚の採取が行はれる。西部には廣い鹽田があつて、天日製鹽が盛である。工業は筵帽子等の特産物の外に見るべきもの

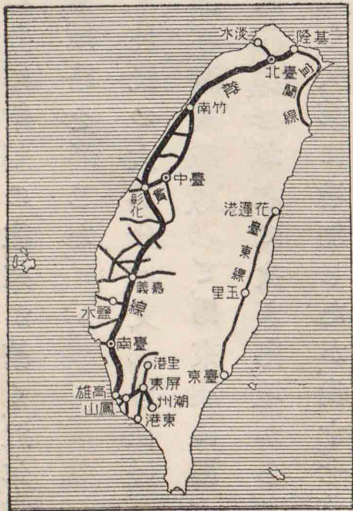


舊港後龍・梧棲・鹿港・東石・馬公は特別貿易港である

- 1 基隆・高雄間
  - 2 臺北・淡水間
  - 3 嘉義・沼ノ平間
  - 4 高雄・潮州間
- 臺灣には臺車と稱する軌道が發達してゐる

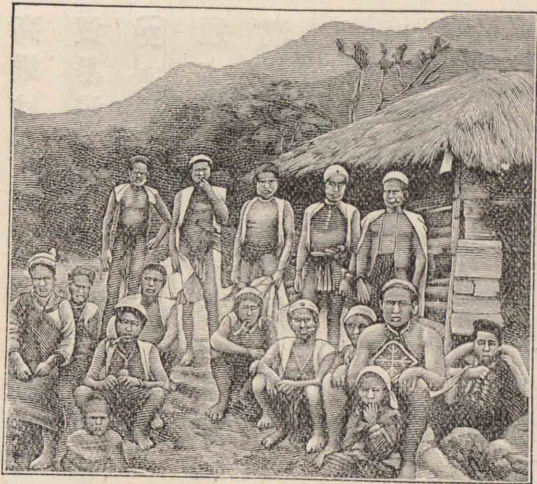
はなかつたが、近年農産加工等の事業が漸次に勃興し、商業は内地との取引が最も盛で、砂糖・米・果實等を移出して、織物・酒・機械等を入する。外國貿易も次第に盛となり、石炭・茶・樟腦等を輸出し、豆粕・粗糖・阿片等を輸入する。開港場には基隆・淡水・安平・高雄がある、基隆・高雄は築港の設備も整つて、貿易が最も盛である。尙この外に特別貿易港として、支那形船のみに取引を許す港が六つある。

**交通** 道路は未だ完備してゐないが、鐵道は西部平野を南北に貫通する縦貫線があり、淡水・阿里山・潮州等の諸線を始め、多數の私設線路が之と連絡して交通が頗る便利となり、東部には臺東線が通じてゐる。海運は沿岸航路の外、基隆・高雄等を中心として、内地及び支



淡水から九州及び支那の福州に海底電線を通じてゐる

圖 臺灣の土人  
タイヤル族を示したもので背後の家は丸木を組合せた上に葺を蔽うてある



那との間に船舶の往來が繁く、近年南洋とも航路を通じた。

〔住民〕 住民の大部分は支那移住民の子孫、即ち臺灣人（本島人と）で、馬來族に屬する土人（高砂族と）が之に次ぎ、内地からの移住民も次第に増加したが、尙十七萬に過ぎない。臺灣人は主に西部の平野に住んで、専ら農商を營み、その風習は對岸の漢族によく似てゐる。土人は東部の山地に住んでゐて、今尙野蠻の風習が残つてゐる。その中臺灣人の感化を受けて農耕に従ひ、本島人と殆ど區別の出來ないもの（蕃）もあるが、山間に在つて遊獵を事とするもの（生蕃）も多い。後者は性質が兇暴で、身體に入墨を施し、首狩の蠻風を有したが、近年殆ど

生蕃には時々首狩をなし之を首棚に陳列して數の多いのを誇りとする弊習があつた

總督府には官房の外内務・財務・殖産・警務の四局がある

主要都邑 人口千人

臺北市 一九五  
臺南市 八四五  
高雄 四三三  
嘉義 四一四  
新竹 三三七  
鹿港 三三三  
屏東 三三三  
斗六 三三三  
麻豆 三三三  
員林 三三三  
埔里 三三三  
南港 三三三  
宜蘭 三三三  
淡水 三三三  
基隆 三三三  
基隆の棧橋

全島第一の良港で六千噸の汽船を一時に七隻繋留することが出来る

全く教化に服して來た。

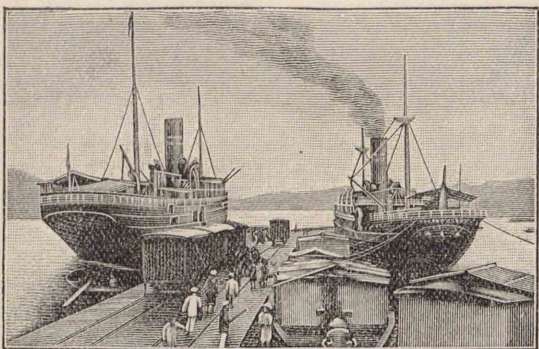
〔政治〕 政治は臺灣總督の掌る所で、總督府の下に五州三廳を置き、又臺灣軍司令部があつて、軍事を統べてゐる。

處誌

東部の大半は山地に屬し、未だ開拓が十分でないが、西部には産業が發達して、重要な都邑も多く、殊に近年市區改正の結果、堂々たる歐風の新市街を見るやうになつた。

基隆市は臺灣の北門に當り、内地と交通の要地に位し、島内第一の開港場である。茶樟

州廳名	治所	面積・人口
臺北州	臺北	四一六五平方千米 八一五千人
新竹州	新竹	四五九八平方千米 五九七千人
臺中州	臺中	七三八三平方千米 八六六千人
臺南州	臺南	五〇二九平方千米 一〇二九千人
高雄州	高雄	五七八〇平方千米 五二七千人
臺東廳	臺東	三四六七平方千米 四二千人
花蓮港廳	花蓮港	四六二八平方千米 五九千人
澎湖廳	馬公	一二七平方千米 五七千人

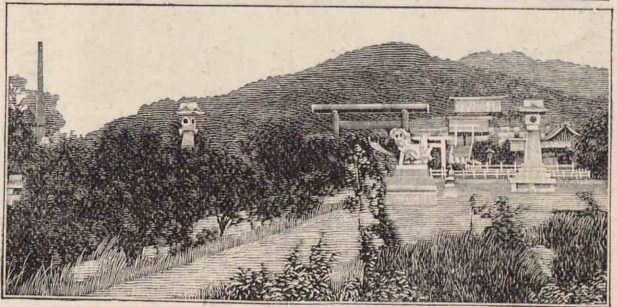




圖解臺北の市街  
府前街の光景で洋風の高層が都比して支那風の家屋は見ることが出来なくなつた



圖解臺灣神社  
臺北市の北部劍潭山麓にあつて大日貴命・大國主命・少彥名命を祀り北白川宮能久親王を合祀してある



淡水は又滬尾とも稱し主に支那との間に貿易が行はれる

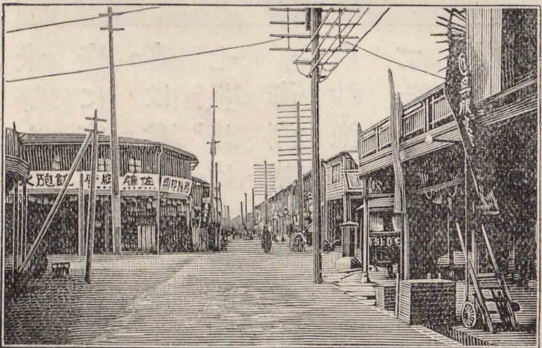
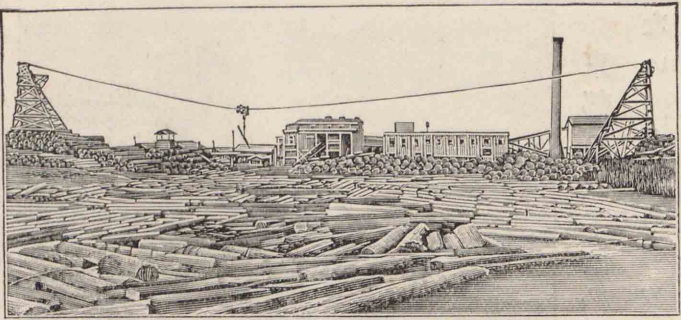
取引上、主要な位置を占めるが、港の浅いのが缺點である。東部の宜蘭は宜蘭平野の中心地で、附近から麻類を産し、蘇澳はこの地方の門戸である。新竹の附近には柑橘の栽培が行はれる。

腦等の輸出が多く、縦貫鐵道は此處から起る。臺北市は淡水河に臨み、本島の首府で、總督府を始め、臺灣神社及び各種の學校がある。近年市街を一新して甚だ莊麗となり、商業も亦盛大で、製茶及びその集散が盛に行はれる。河口の淡水は開港場で、支那との

臺南に臺南神社  
(祭神 北白川宮能久親王)・開山神社(祭神 鄭成功)がある

圖解嘉義の營林廠  
阿里山の伐木列車輸送によつて此處に集め製材されるのである

圖解臺南の市街  
島内最古の都會で全島の首府であつたが市區改正以來圖の如く昔を偲ぶ建物はなくなつた



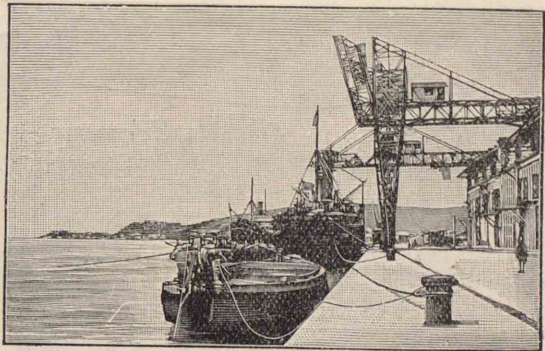
大甲は蓆帽子等の名産地で、臺中市は彰化と共に農産物集散の中心をなし、附近には米、落花生等の農産が多い。海岸の鹿港は支那形船の出入が多く、東部の埔里は山間の要市である。

嘉義は阿里山を控へて製材が盛に行はれ、臺南市は南部臺灣の中心都會で、製糖業の重要な中心をなし、その港安平は開港場であるが、港が浅く、この附近には鹽田が多い。高雄市は開港場で、築港以來著しく市況が繁盛となり、砂糖

屏東に陸軍飛行場がある

澎湖諸島は風が強く植物の發育が十分でない従て島内には喬木がない

澎湖諸島は風が強く植物の發育が十分でない従て島内には喬木がない



米等を多く輸出する。鳳山の附近は鳳梨の産に富み屏東には製糖の大工場がある。恒春は我が國最南の都會といはれ南岬に近い七星岩は我が版圖の南端に當つてゐる。澎湖諸島は大小數十の島嶼から成り澎湖白沙漁翁の三大島が相對して澎湖灣を作つてゐる。灣内の馬公は海水の深い良錨地で特別開港場である。西南の花嶼は我が版圖の西端に當つてゐる。

東部の大半は殆ど山地で、その間に狭長な臺東平野を挟むに過ぎない。土人の部落が處々に散在してゐて、産業は未だ著しく進まないが、近年臺東花蓮港の兩地を中心として、次第に開拓されつゝある。

國名

渡島 後志 石狩  
天鹽 北見 膽振  
日高 十勝 釧路  
根室 千島

面積

約九四九〇方軒  
(約六一五〇方里)

人口

約二五〇萬  
一方軒二六人  
(一方里四百十七人)

密度

山脈・火山脈

北見山脈  
日高山脈  
天鹽山脈  
夕張山脈  
千島火山脈  
旭岳 一三四五  
石狩岳 二〇三五  
十勝岳 一八一七  
雄阿寒岳 一六一七  
雄阿寒岳 一五〇九  
那須火山脈  
マツカリ岳 一八九三  
駒前岳 一四〇四  
樽前岳 一〇三四  
有珠岳 七二五  
恵山 六〇二

第九章 北海道

通説

北海道本島と千島諸島とから成り、津輕海峽・宗谷海峽によつて本州及び樺太と離れ、千島の東北端は千島海峽を隔て、ロシア領のカムチャッカ半島と對してゐる。

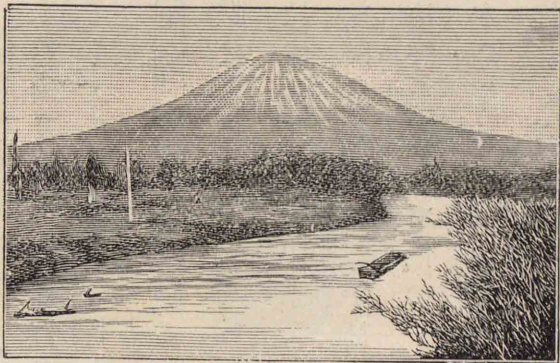
地勢

本島は菱形の胴部と、半島部とから成る。北見山脈・日高山脈は、本島の主軸となつて殆ど南北に連り、天鹽・夕張の兩山脈が之と並び、共に蝦夷山系をなして菱形の一対角線を作り、中に上川盆地を挟んでゐる。千島火山脈は、千島諸島から通じ、雄阿寒岳・雌阿寒岳等を起して、他の一対角線を作り、その主軸山脈と會する處には、本島第一の高山なる旭岳(マタツカ)を始め、石狩岳・十勝岳等の高峰を起してゐる。半島部には那須火山脈に屬する恵山・駒岳・有珠岳・樽

遠望  
六合目から上には樹木がなく頂上に直徑一軒に達する火口がある

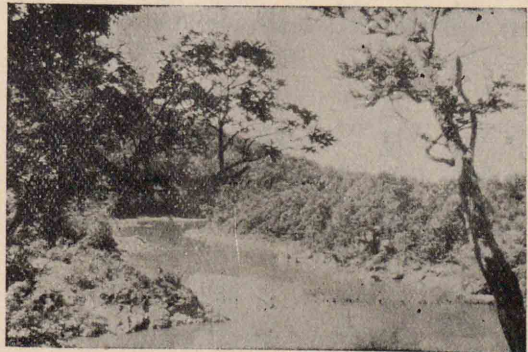
流  
石狩川が上川盆地から石狩平野に出る處で兩岸が迫り岩が多く藍碧の淵をなした處である

石狩平野は平坦であるが十勝平野には多少の高地がある



流れる。石狩川は本邦屈指の大河で、その上流は、上川盆地の衆水を集めて神居古潭の峽流を作り、下流は廣い石狩平野を貫流してゐる。この他北部に天鹽川、東南部に十勝川、鉏

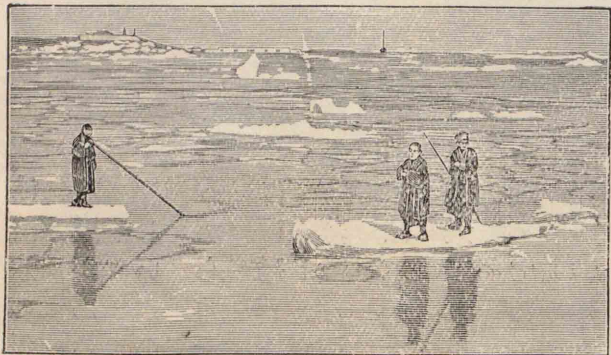
前岳・マッカリ岳(山羊蹄)等の火山がある。マッカリ岳は、山容が秀美で、蝦夷富士といはれ、有珠岳・樽前岳は十勝岳と共に近年の活動で名高い。火山地方には洞爺・支笏・阿寒等の深い湖水が多く、又温泉に富み、中でも登別は最も著名である。



河	石狩川	十勝川	釧路川	天鹽川	洞爺湖	阿寒湖
湖	神居古潭	十勝湖	釧路湖	天鹽湖	洞爺湖	阿寒湖
流長	三六五	三〇六	一九六	一三三	七〇	四三
周囲	三六五	三〇六	一九六	一三三	七〇	四三
水量	二四一	二四一	二四一	二四一	二四一	二四一

内浦灣は周圍に數多の火山が群集するのて噴火灣の名がある  
函館灣の附近は要塞地帯である

根室灣の流水  
北方から瀧流して来る水塊は海面を封鎖して一面の水田となり夫が三四月になると分離して流れる。人が乗つてゐる白塊は流水である



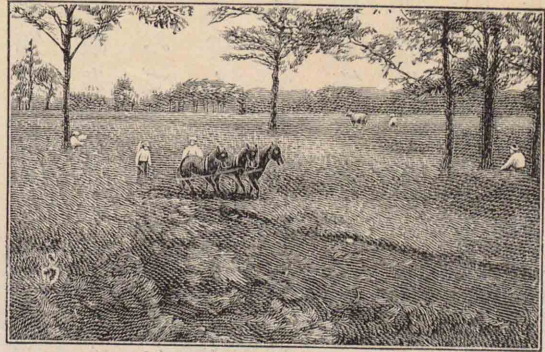
路川等がある。是等の流域には、天鹽・十勝・釧路等の廣い沃野を開き、下流は流勢が緩で、木材の流下を助けることが多い。  
海岸 沿岸は出入に乏しい。主軸山脈の南北兩端は、著しく突出して襟裳岬・宗谷岬を作り、又西部には渡島半島、東部には知床・花咲の兩半島があるも、灣の稍廣いのは渡島半島が内浦灣を抱く外、小樽灣・根室灣のみである。半島部には山地が海に迫る處も少くないが、他は低平な砂濱が多く、殊にオホーツク海岸は、砂嘴が著しく發達して、猿澗・網走等の潟湖を抱いてゐる。

氣候 土地が北に偏する爲、寒冷で、雨量が少い。海流の影響で、太平洋岸は日本海岸よりも氣温が低く、オホーツク海岸には冬季海面

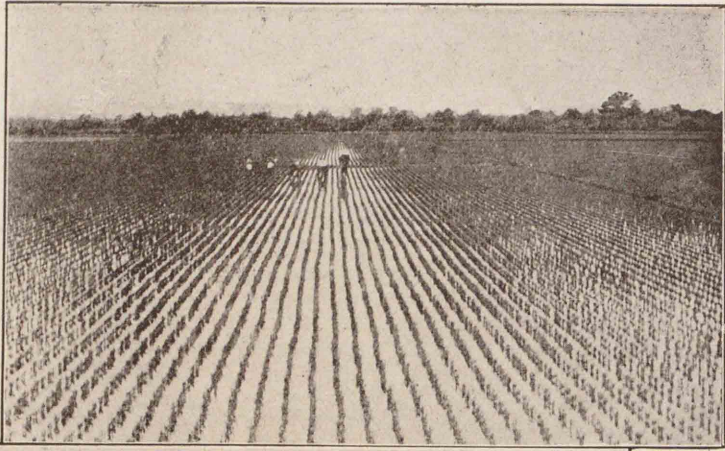
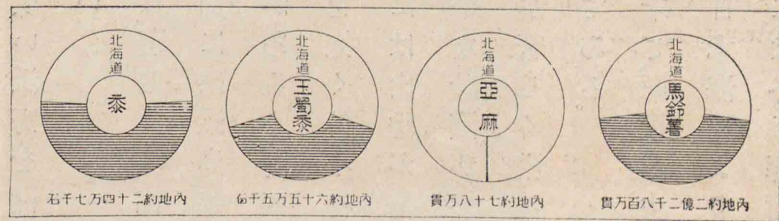
南部の海上には濃霧が多い  
上川地方は嘗て氷點下四十一度に達したことがあり内地に於ける温度の最低記録である

【圖】新開地の馬耕  
耕地の規模が大きいから農業には動物及び機械を用ひることが多い  
圖は三頭の馬に鋤を牽かせてある光景で近頃はトラクターをも使用する

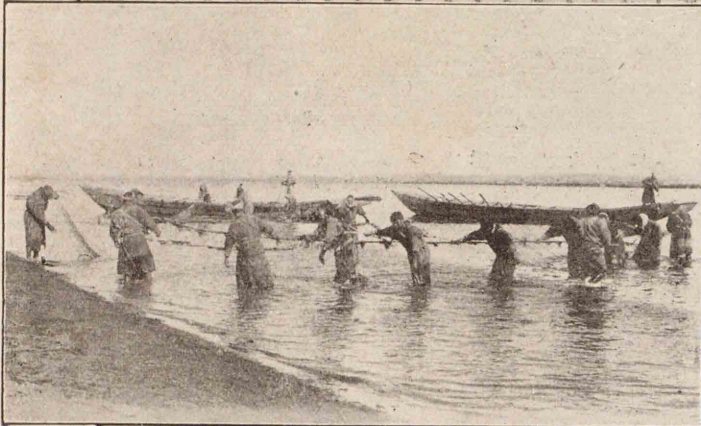
が凍り、或は流水の爲に交通を妨げられる處がある。内部は冬寒が最も烈しいが、夏は割合に高温であるから、植物が能く繁茂し、山地には鬱蒼たる針葉樹林がある。蒸散作用が盛でない爲、低地には不毛の泥炭地が多く、近年排水工事を施してその開拓を進めてゐる。



【産業】開墾の進歩と共に、各種の産業が著しく發達した。農業は豆類・麥類・馬鈴薯・玉蜀黍・菜種・亞麻・蔬菜等の耕作が盛で、米の産額も亦大いに増加した。石狩平野には苹果(余市附近)・櫻桃(札幌附近)等の果實を産し、十勝



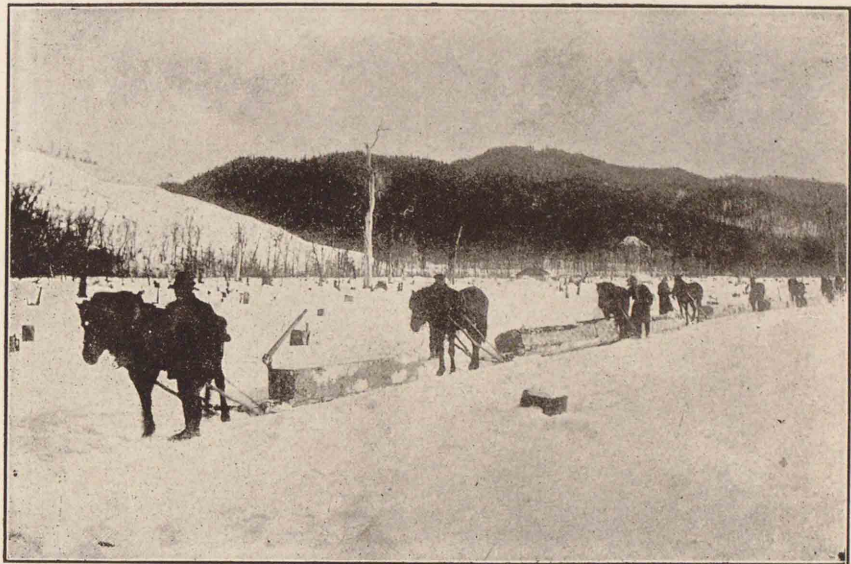
水田 正條植にした水田の中を除草器で農夫が雑草を取つてゐる



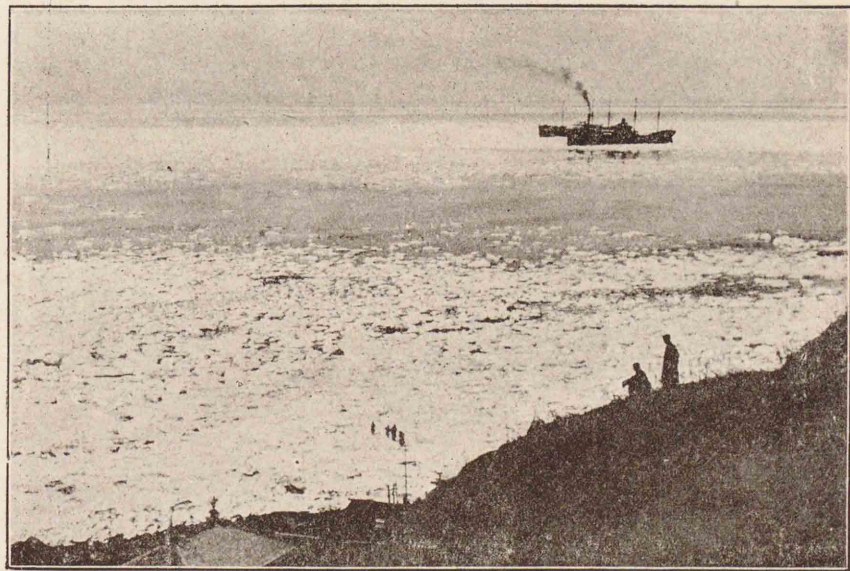
石狩川鮭漁 八九人の漁夫が地曳網で川に溯つて來る鮭を取つてゐる



昆布の乾燥 砂上一面に擴げたのは磯の香高い昆布で場所は根室の海岸



木 材 運 搬 降 積 雪 上 の 櫓 を 材 木 に 引 玉 の 景 光  
馬 に て 載 せ 曳 かせ 玉 引 の 光 景



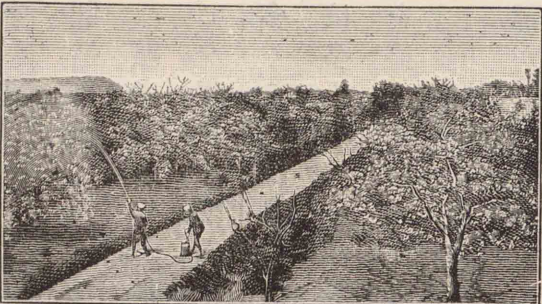
氷 流 の 岸 海 路 釧 路  
凍 結 し た 海 面 が 春 風 に 遭 っ て 解 け 割 れ た 氷 塊 を 海 に 打 ち 寄 せ て 氷 水 流 を 作 る

【圖解】亞麻の刈取  
刈り取った亞麻を背に  
して歸る光景である

【圖解】萃果園  
主産地は余市郡で札幌  
空知等の地方からも出  
る。圖は香島縣の爲  
藥を注いでゐる

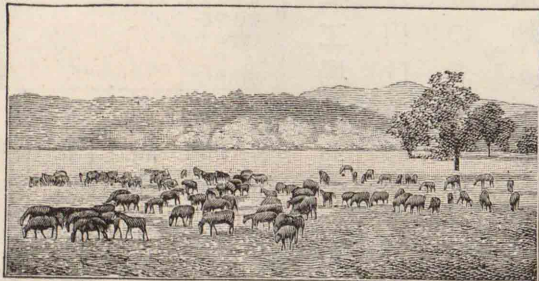
牧場では日高の種  
馬牧場、新冠の宮  
内省牧場、釧路の  
軍馬補充部支部等  
が最も名高い

【圖解】牧場  
北海道帝國大學附屬牧  
場の光景である

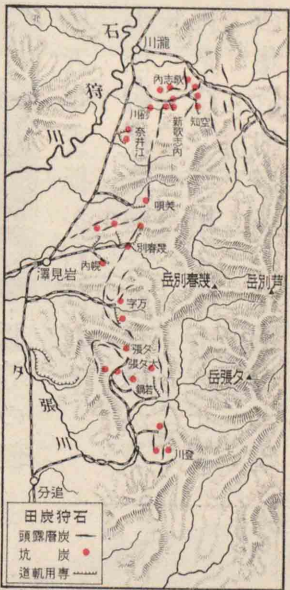


平野には甜菜を植ゑてゐる  
處もある。牧畜は馬を第一  
とし、南斜面の原野はその主  
産地で、新冠には規模の大き  
な牧場（宮内省管）があ  
る。西南  
部には牛  
豚等の飼

養が頗る盛で、千島には近年養狐が行はれる。  
山地には白楊・蝦夷松・榎松・栓櫨等の森林が茂  
り、冬季に伐採し、融雪を待つて川を流下させる  
から、河口には木材の集散地が多く、鐵道枕木建



集積 江別川は石狩川の支流  
て圖は水面が見えない  
程多くの木材が集まっ  
てゐる光景である



製造も盛に行はれ、各地に製紙工場がある。

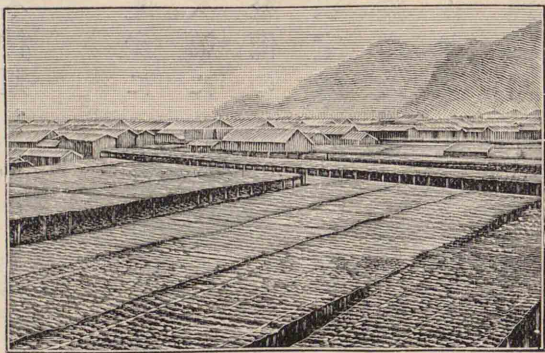
鑛産は石炭が最も多く、石狩炭田はその主産地  
で、夕張、萬字、幌内、空知、歌志内等の名高い炭坑が  
多く、その他釧路方面にも産炭地がある。石炭  
は多く小樽、室蘭等から積出され、又附近の工業  
を盛ならしめてゐる。火山地方には硫黄を出  
し、奥尻島、岩雄、登千島等はその産額が多く、半島  
部からは満俺を出す。その他鴻舞の金銀、國富

築材等として内地に送り、尙燐寸軸木(網走)・バル(江別)の

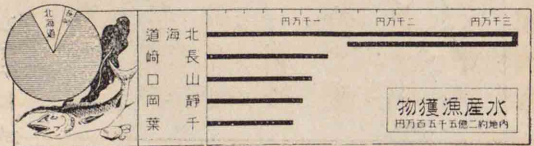
の銀銅等も亦名高い。

魚身乾燥の乾場  
生鱈の鱈を去り腸を  
出して二十尾づゝ連ね  
一、二日乾し更に三枚に  
下して二十日許り圖の  
如き棚で乾して作る

近海は海流の影響を受けて各  
種の魚族に富み、世界有数の好漁  
場に數へられ、水産額の多いこと  
は、全國第一である。水産物は鱈、  
鮭、鱒、柔魚、鰻、帆立貝及び昆布等を  
主とし、西海岸と根室灣附近とに  
は、漁獲が最も多く、冷凍乾魚、鹽藏、罐  
詰等として内外に輸送する。西  
岸の岩内、増毛、留萌、東岸の釧路、厚岸、根室、網走等は、何れも主要な漁  
港で、函館、小樽は海産物の二大集散地である。

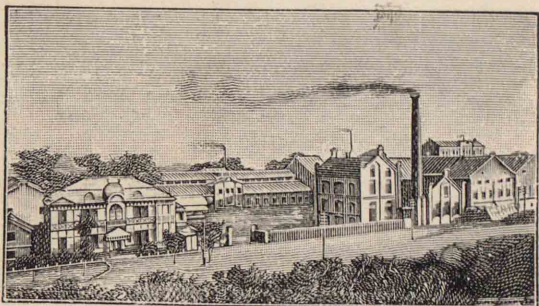


原料に富む上に、石炭の産も多いから、近年各種の工業が次第に  
盛大となり、麥酒(札幌)、酒精(旭)等の醸造を初め、製紙(江別)、製粉(札幌)、製材



函館・小樽・室蘭・釧路・根室は開港場である

大日本麥酒會社の札幌工場は光景で洋風の建物に凡て同會社の工場である

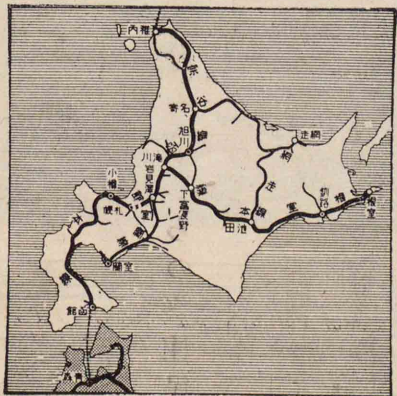


- 1 函館・旭川間
  - 2 釧路・根室間
  - 3 旭川・稚内間
  - 4 室蘭・岩見澤間
  - 5 池田・網走間
  - 6 名寄・野付牛間
- 北見及び根室以東の海岸は冬季凍結の爲數月間全く航行が絶える

域には達しない。鐵道は函館線<sup>1</sup>・根室線<sup>2</sup>・宗谷線等が連つて、本島に於ける縦横の幹線となり、その他室蘭線<sup>4</sup>・網走線<sup>5</sup>・名寄線等を始め、重要な線路が多い。海運は沿

釧路等の工場が處々に起り、室蘭には壯大な製鋼所がある。内外の商業も次第に發達し、函館・小樽はその二大中心である。國內の取引は水産物が最も多く、海外輸出は木材類を主とし、水産物が之に次いでゐる。

交通 開拓の進歩に伴れて、道路も次第に開けたが、未だ整備の



アイヌ人とその住居

男子の着てゐるのはアツシで女子の口邊に飾した様も見える後方の家屋は室長の獨立小屋である

成年に達した女子は口邊に飾する習慣であつたが、今は廳令によつて之を禁じた



海航路の外、本州樺太とは鐵道連絡船を通じ、又ウラチポストクへも航路を通じてゐる。

住民 住民の大部は内地からの移住民で、活動の精神に富んでゐる。土人をアイヌといひ、その數は僅に一萬五六千に過ぎない。日高山脈以西に多く住み、平取にはその大部落がある。體格は偉大であるが、性質が魯鈍で、單純な農業、又は漁獵を業としてゐる。

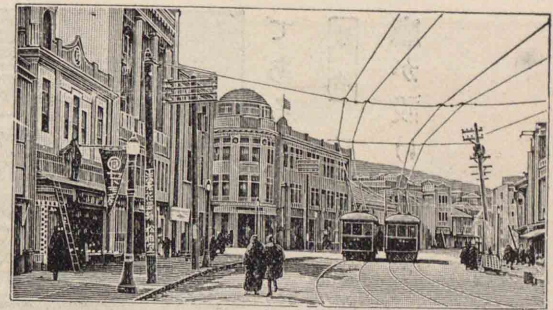
政治 政治は北海道廳長官の掌る所で、北海道廳の下に十四の支廳が設けてある。

處誌

支	廳
渡島	檜山
後志	膽振
浦河	石狩
空知	上川
留萌	網走
宗谷	河西
釧路	國
根室	

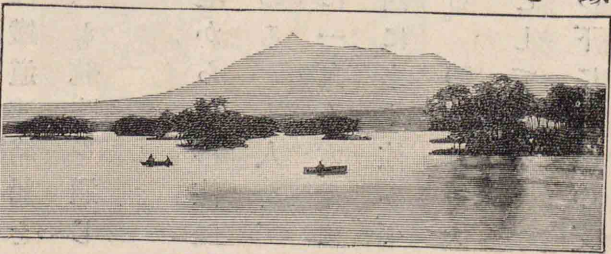
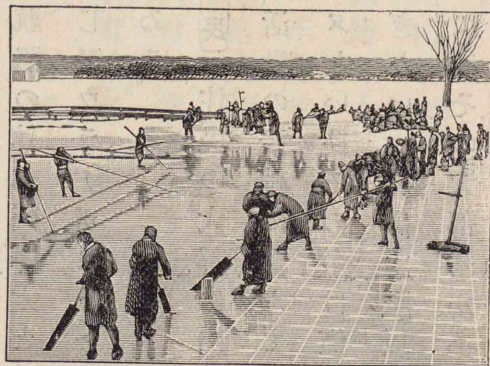
主要都邑	人口千人
札幌市	一四五
函館市	一四三
小樽市	一三三
旭川市	一〇七
室蘭市	一〇五
釧路市	四八二
夕張市	四四〇
沼津市	三三二
岩見沢市	二四二
網走市	二二四
野付町	二〇三
砂川町	二〇〇
帯広市	二〇〇
廣川町	二〇〇

函館の市街 壯麗な新市街の大観である



土地は広いが、人口は極めて疎で、都會の數も多くない。然しその發達したものは、整然たる街衢を備へてゐる。

渡島半島の函館市は、青森と鐵道連絡船を通じて、本道の南門をなし、重要な開港場で、水産物の集散が多い。近郊にある五稜廓の外濠には採氷が盛に行はれ、大沼は近く駒岳を望んで、風景がよい。福山は古の松前



五稜廓

五稜廓は維新の際幕軍の死守した處で、圖はこの濠の水を採取してゐる處

大沼公園

大沼は駒岳の下にある火山爆發による堰止湖で、附近は公園となつてゐる。圖は湖水の南岸から駒岳を望んだ光景

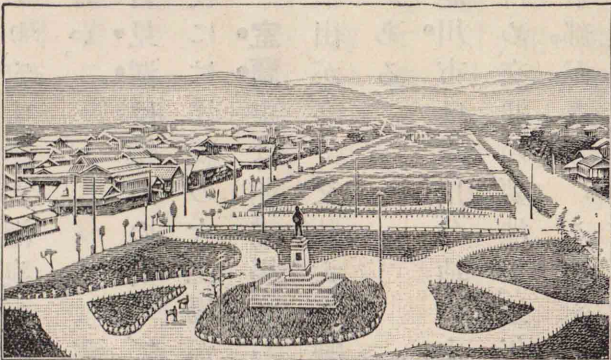
小樽港

市の背後から港内を展望した光景で、左方に高架橋の一部が見える

札幌の大通

市の中央を東西に貫く大通で、銅像は黒田清隆の立像。中央には公園のやうに花卉が植ゑ込んである

札幌神社は大國魂神・大己貴神・少彥名神を祀つた官幣大社である



て、本島最古の都會である。森は室蘭へ渡る要津で、倶知安は農業地の中心である。

小樽市は石狩平野の門戸に當る開港場で、港灣の設備も良く、整ひ、石炭水産物等の積出が多く、内外の取引が盛で、製材も亦行はれる。

札幌市は豊平川に沿ひ、政治開拓の中心で、道廳北海道帝國大學等があり、又農産物を集めて、之に加工する大工場が多い。近郊に札幌神社

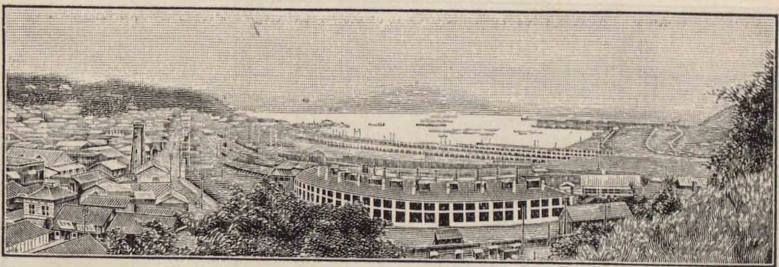


製紙工場  
王子製紙會社の工場は  
近景に山積した材木は  
總て製紙原料である

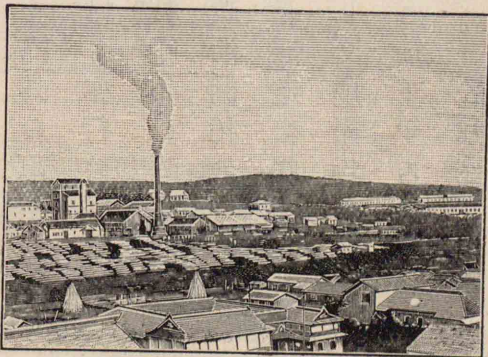
室蘭の製鋼會社は  
日英兩國人の共同  
經營である

室蘭港の展望  
海中に種々のやうに見え  
るのは石炭積込の高架  
橋である

石狩・十勝の國境  
に狩勝の勝地があ  
る



があり、定山溪の温泉も亦遠くない。  
岩見澤は鐵道の要地で、苦小牧には洋紙の大工場がある。室蘭市は開港場で、石炭の積出が多く、又壯大な製鋼所がある。

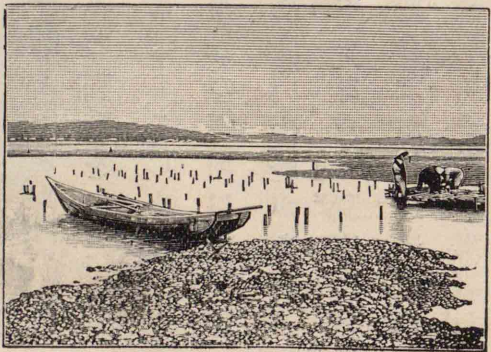


旭川市は上川盆地の中心を占め、交通の要地で、近年著しく發達し、第七師團司令部がある。この附近には米田が多い。鐵道は此處から十勝平野と天鹽平野とに通ずる。帯廣池田は十勝平野の新興市街で、附近は開墾が大いに進んだ。釧路川口の釧路市は開港場で、

厚岸灣内の牡蠣の養殖

灣内厚岸沼の中にある五十餘の島で養殖される、近景の島が知られてゐるのは牡蠣のからである

林産・水産等の積出が多く、厚岸の附近には昆布を産し、その灣内には牡蠣の養殖が行はれる。花咲半島の根室は、東部漁業の大中心で、罐詰を多く出し、又開港場であるが、冬は海面が凍結する爲、背面の花咲から出入する。この西北を流れる西別川は、石狩川・十勝川と共に、名高い鮭・鱒の産地である。  
網走はオホーツク海岸の要地で、野付牛と共に、燐寸軸木の製造が行はれ、稚内は樺太との間に鐵道連絡船を通じてゐる。



千島は世界一周飛行の着水場となつた處で、將來航空交通上重要な位置を占めるであらう

千島は三十餘の島々から成る火山列島で、國後島・擇捉島等は殊に大きい。土地は農耕に適しないが、近海には鱒・鮭等の水産が多く、擇捉島の紗那は列島の主邑である。占守島は、本邦の最東端

面積 約三六〇〇方料  
(約三四〇方里)

人口 約二十萬三千  
密度 一方料三人  
(二方里八七人)

日露境界の標石

天淵に設けられた標石で斯の如きものは四ヶ處にあるが圖は第四天淵點即ち安別附近にあるものである

間宮海峡は凡百年前間宮林蔵によつて探検せられた

山脈・火山脈

樺太山脈  
東北山脈  
鈴谷山脈

河(湖) (流長)

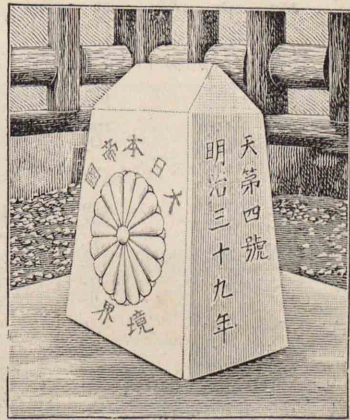
幌内川 一三七  
内淵川 二二七  
鈴谷川 八〇〇  
多来加湖 八〇〇  
富内湖 九〇〇

に當り、阿頼度島は最北端にある。

第十章 樺太(南部)

附 北樺太

樺太は、オホーツク海の西部に位し、間宮海峡を隔て、シベリヤと對してゐる。北緯五十度以南は、日露戦役の結果我が國の領土となり、北部でも最近に種々の利權を得た。

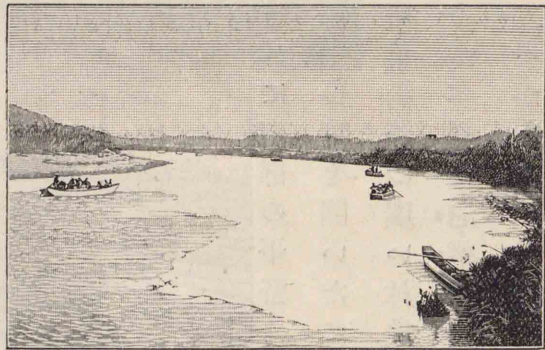
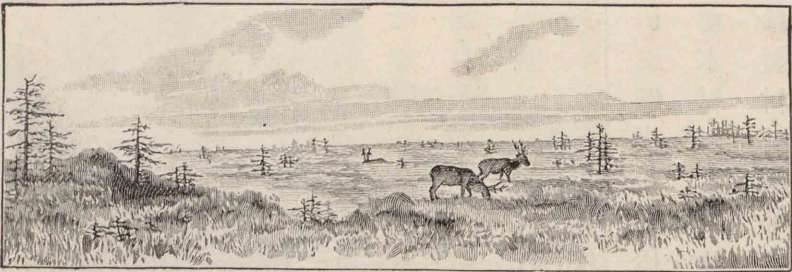


地勢 樺太山脈は、本島の主軸となつて南北に連り、その東に之と竝走せる東北・鈴谷等の小山脈があつて、幌内・鈴谷の兩河谷を開いてゐる。幌内川は本島の最大河で、その流域に廣い平野があるが、概蘇苔の厚層に被はれた不毛地で、所謂ツンドラをなし、馴鹿の放牧地たるに過ぎない。南部の鈴谷川・内淵川・留多加川等の流域は、本島主要の生産地である。

ツンドラ 低濕の泥炭地で地上には厚く蘇苔の類が密生するこの蘇苔は馴鹿の好飼料である

幌内川 樺太屈指の長流で圖のやうな舟は河口から國境近くまで溯り得る

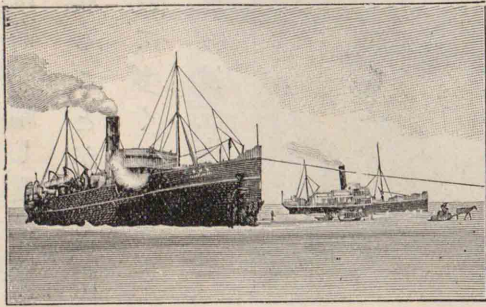
氷上に於ける橇の荷揚 冬季沿海が凍結するので沖合に碇泊する船の荷物を圖に示すやうな橇で陸上げる



來加湖・富内湖等の大きな瀉湖を抱へてゐる。氣候 土地が北に偏してゐるから、寒氣が強く、冬は西南部の

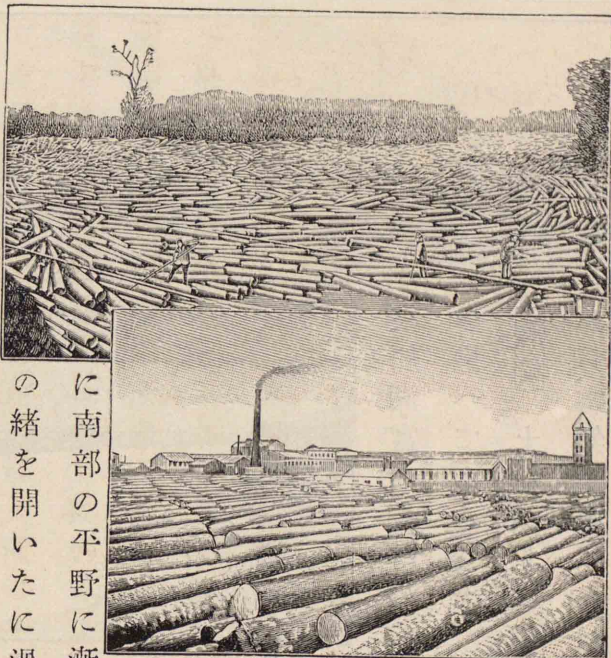
海岸 海岸は單調で、東に北知床岬が出て、多来加灣を擁し、南に中知床岬と西能登呂岬とが相對して、亞庭灣を抱いてゐるに過ぎない。沿岸

には段丘が多く、又砂嘴が發達して、多



【解説】バルブ原料の輸送とバルブ工場  
凍結した河中に根柢、蝦夷松を橋出した光景、下の建物はその製造工場である。

【解説】海豹島の臙脂獸群  
數萬の臙脂獸が海岸に群集する光景、國際條約で海上獵業を禁じてからその數が著しくふえた。

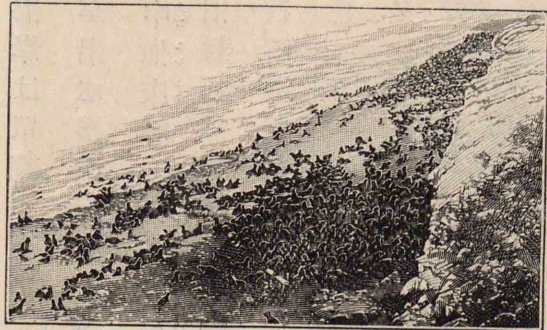


い。蝦夷松、楡、松、落葉松等の廣い林地があつて、木材・バルブの産が多く、大泊、落合、眞岡等には製材、製紙等の工場がある。北部には貂、狐

に南部の平野に漸くその緒を開いたに過ぎない。

外沿岸は概し凍結し、夏は屢濃霧の起ることがある、雨量は一般に多くない。

【産業】生物は北海道と略

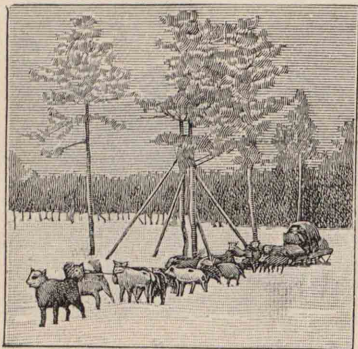


海豹島は臙脂獸・獵虎の繁殖に當てられ、夏季には臙脂獸が群棲しその一部を獵獲する。

【解説】鐵道の蓄積  
鐵道製造場の一部で手押車により軌道で運搬するやうになつてゐる。兩側にあるは鐵道の堆積

大泊・榮濱間及び本斗・野田間等に廳營の鐵道を通じた。

【解説】犬樵の光景  
雪中數匹の犬に樵を引かせて行く光景、先頭の犬が案内者として衆犬を指揮しながら行くのである。

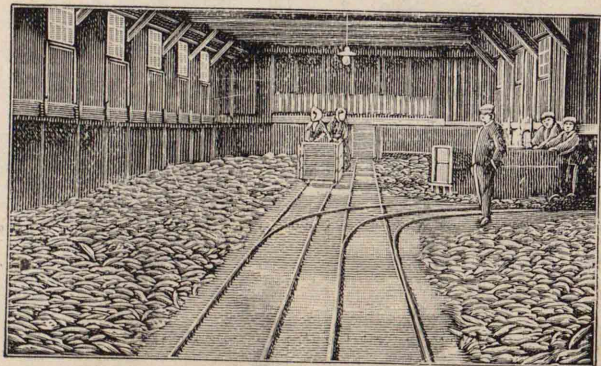


等の毛皮獸が棲み、麝香は毛皮の集散地である。多來加灣の海豹島は、臙脂獸の繁殖保護地で、西南の海馬島には海驢が多く棲んでゐる。この地の最、主要な産業は水産で、夏季には沿岸到る處が好漁場となり、鯨、鱈、蟹等の漁利が甚だ多く、又昆布の採取が盛で、漁港が各地に散在してゐる。

【交通】交通は未だ發

達しない。鐵道も一部に開通したのみで

あるから、冬は一般に橇を利用する。夏季は海運が便利であるが、冬季は海面の大部が凍結し、晩春になつても尙流水の障害が多く、僅



○ギリヤク人  
髪は辮髪とし魚皮・海豹皮で造つた靴をはいてゐる中央にゐるのは馴鹿である



○オロチョン人  
後に見る如き居所を構へ永久的の家屋を造らない屋根は樹皮・獸皮等を用ひたものと布を用ひたもの等がある



に眞岡が不凍港として賑ふのみである。

〔住民〕 本島の土民は僅に二千内外で、アイヌを主として、その他大陸から渡來した小數のオロチョン・ギリヤク等がある。共に性質は温良であるが、蒙昧の域を脱しない。内地からの移住民は年々に増加するが、漁獲の爲に一時の出稼が尙多く、人口の密度は極めて小さい。

〔政治〕 この地は樺太廳長官の管治する處で、樺太廳の下に七支廳がある。

〔都邑〕 亞庭灣に臨む大泊は、冬季凍結の憾はあるが、鐵道の起

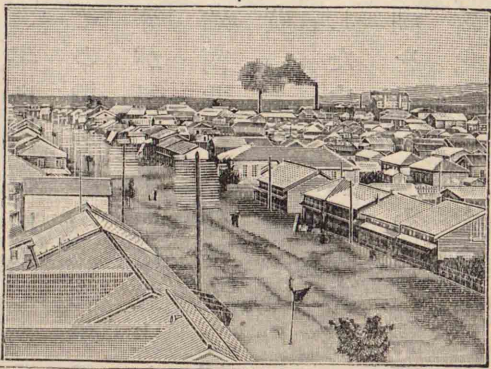
點で、北海道と連絡船を通じ、重要な開港場で、水産・林産の集散が多い。豊原は樺太廳の所在地

支	豊原	大泊
廳	元泊	敷香
	泊居	眞岡
	本斗	

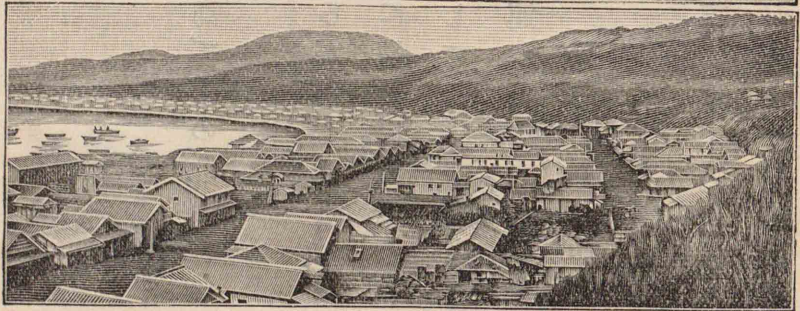
樺太神社は、國魂命・大己貴命・少彥名命を祀つた官幣大社である

○豊原と眞岡  
上圖は豊原の市街を示したもので元小村であつたが市街の區劃後圖に見るやうな整然たる町となり下圖は眞岡の海邊を示したもので發展の様子が察せられる

て樺太神社がある。この附近の平野は、近年開拓の歩を進めて、農業も稍行はれる。西岸の眞岡は開港場で、漁業の大中心をなし、その發達が著しく、棒鱈・鱈詰等を産し、鐵道も此處から南北に通じてゐる。



北樺太 面積は南樺太と略等しい。氣候が一層寒くて人口密度は著しく小である。近年我が國で占領してゐた處で、アレキサンドロフスクなどには我が商人も行つてゐる。海には水産が豊で、陸には森林・毛皮獸の外、鑛物の埋藏が多く、ドウエの石炭、オハの石油等は、我が國で採掘權を得、已に事業を始めてゐる。



第十一章 朝鮮

通説

朝鮮は日本海と黄海との間に突出した大半島で、その北部は満洲及びシベリヤと境を接してゐる。

**地勢** 半島は概山山地であるが、南と北とは大いにその趣が違ふ。北部には長白山脈、妙香山脈等が斜に東西に竝走してゐる。狼林山脈が殆ど南北に延びて之を連れ、その東西に互つて廣い蓋馬高臺がある。長白山脈の中に噴出した白頭山は、半島第一の高山で、頂上に火口湖を湛へてゐる。南部には、東方に偏して殆ど南北に走る大白山脈があり、小白山脈、そ



**面積** 約30万平方  
(約一四三〇方里)  
**人口** 約一九五一萬  
**密度** 一方軒八八人  
(一方里一三六三〇人)

**白頭山上の火口湖**  
龍王潭又は天池湖と呼ばれ、火口周囲十一軒餘ある鮮人はその始祖降臨の地として神聖視してゐる。

**山脈・火山脈**

長白山脈 米  
白頭山 二七四四  
妙香山脈  
大白山脈  
金剛山 一六三八  
小白山脈

金剛山は朝鮮人が神聖なりとして崇拜する山である

**河湖** (流長)

鴨綠江 七九〇 軒  
洛東江 五二五  
大同江 五二一  
漢江 四三九  
錦江 四〇一  
清江 一九九  
榮山江 一一六

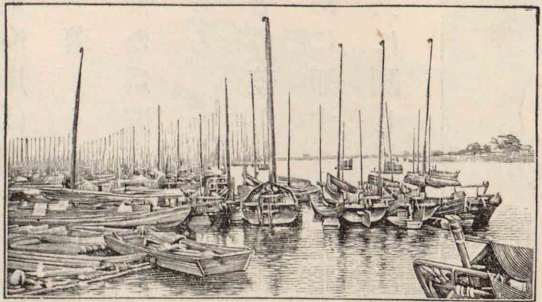
**鴨綠江の觀望**  
鴨綠江は流域鮮滿に互に灌溉・交通の便が多い。圖は河口に近い新義州を上流から見た光景である。

鎮海灣・永興灣附近は要塞地である

他の小支脈を西南に分け、到る處に丘陵が起伏してゐる。大白山脈に屬する金剛山は、風景の奇絶な爲に著名である。

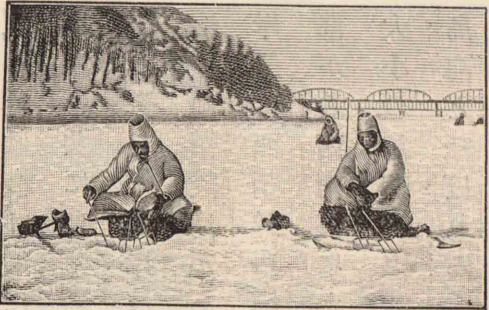
分水界が東に偏してゐる爲、日本海斜面には豆滿江の外に大河がないが、黄海斜面には我が國第一の長流たる鴨綠江を始め、清江、江・大同江、漢江、錦江、榮山江等の河川が多く、鴨綠江の外は、概流域に廣い平野を開き、南斜面の洛東江と共に、舟運灌漑の便が多い。

**海岸** 日本海岸は單調で、永興、迎日の二灣の外、海上に鬱陵島があるに過ぎないが、西岸及び南岸には西朝鮮灣、鎮海灣等の出入が多く、殊に南部から西南部にかけては濟州島、巨濟島を始め、大小の島嶼が多數に散在し、その一部は朝鮮多島海と呼ばれる。この方面には良港も亦多く、



元山の干満の差は約〇・五米に過ぎない

【圖】水上の釣魚  
凍った河の上に坐して穴を穿ち魚を釣つてゐる光景である



元山の高極は三十九度六分、中江鎮の低極は零下四十一度一分で共に日本のレコードである

車馬がその上を往來してゐる。雨量は一般に少いが、夏秋の交には往々豪雨がある。又西南の海上は夏季に濃霧が多く、航海を妨げる。  
【産業】 産業は農を主とし、殊に我が國

鎮海灣は海軍要港である。東海岸は潮汐干満の差が少いが、西海岸は極めて著しく、仁川では十米に達し、船舶の出入に不便な爲、閘門式船渠を設けて、その缺點を補つてゐる。  
【氣候】 氣候は概大陸的で、寒暑の差が頗著しい、南部の海岸には九州の西北部に類する處もあるが、北上するに伴れて寒暑共に烈しく、冬季は河川が悉く凍つて、

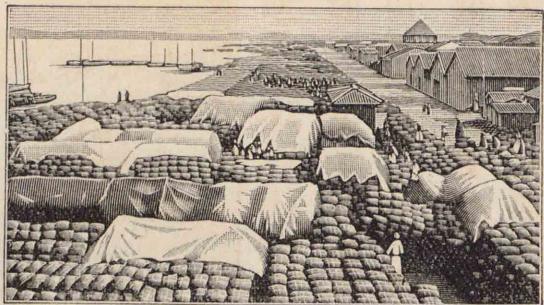


田水  
畑綿と  
方地い多の田水  
方地い多の畑綿

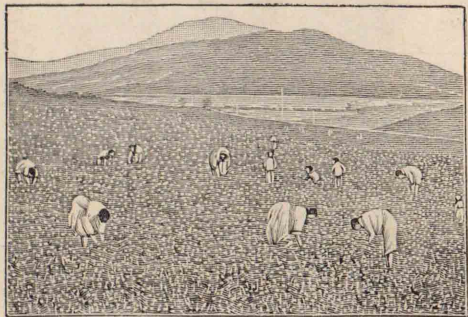
【圖】群山に於ける米の積出

税關支廳附近に於ける米積出の光景で、山の積は悉く米左の水面は錦江である

【圖】綿の摘採  
近年は米國綿を栽培して成績頗る良好である



南部に最も盛で、光州はその主要集散地、木浦はその積出港である。中部の地方には人蔘の特産があつて、開城は殊に名高い。牧畜は古來牛の飼養が廣く行はれ、従つて牛



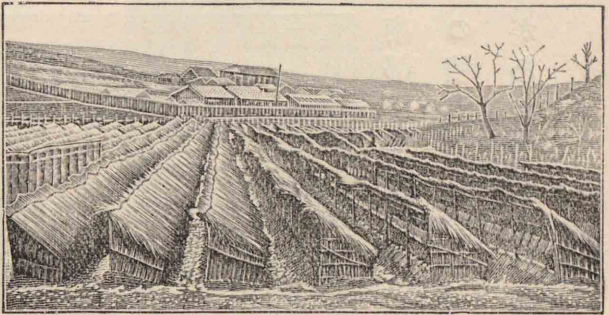
に併合以來、その保護獎勵によつて著しく發達し、米・麥・粟・大豆・綿・煙草等の産額が多い。米は西部・南部の平野に最も多く、大邱・全州等は、その集散地で、群山・木浦・釜山等から、内地へ移出される額も頗多い。麥・粟・大豆は殆ど到る處から産して、大豆は内地への輸送も少くない。綿作は近年著しく改善せられ、その栽培は東岸地方の外殆ど各地に行はれ、就中、西部の主要集散地、木浦はその積出港である。中部の地方には人蔘の特産があつて、開城は殊に名高い。牧畜は古來牛の飼養が廣く行はれ、従つて牛

北部は毎戸一頭乃至四十頭の牛を養ふといふ

人蔘の栽培  
人蔘は強い日光も風雨も厭ふから圃の如き日覆を作つて保護を加へるのである

鴨綠江の流筏  
流筏は通常五月から九月に至る間が盛で大部分は新義州の製材工場に送られる

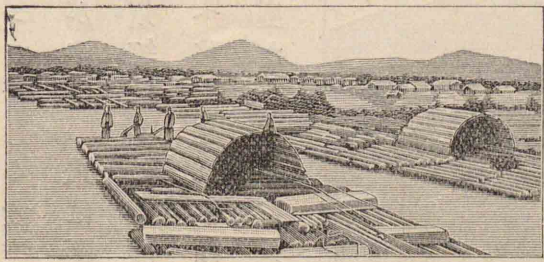
雲山の採金は遼安と共に米人の經營に屬してゐる



皮の産が多く、肉用・駄用として内地に移出せられるものも多い。

林野は廣いが、多年濫伐の爲に概荒廢し、南部では殆、林地を見なかつたが、政府の保護獎勵によつて、漸く挽回に向ひ、今は殆、到る處に殖林が行はれるやうになつた。長白山脈には松・樅等の美林があつて、その伐採が盛に行はれ、鴨綠江・豆滿江を利用して之を流下するが、殊に鴨綠江は流筏で名高く、新義州はその集散地で、營林署・製紙工場等がある。

鑛物の分布は甚だ廣く、雲山・遼安・稷山等の金、載

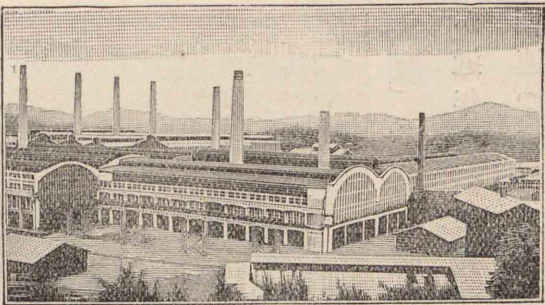


金は我が金貨の地金となる  
平安北道には處々に黒鉛の産地がある

二浦製鐵所  
三菱の經營に屬するもので附近一帯に産する鑛石炭を利用してゐる

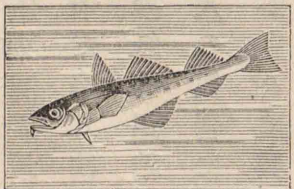
明太魚  
内地のスケトウダラで下圖はその夥しい漁獲を示したものである

蔚山は加藤清正の籠城で名高い

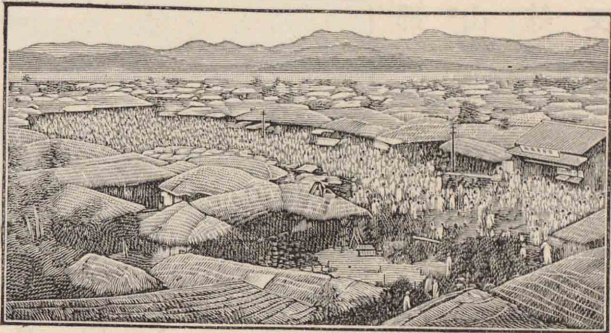


部の石首魚等は殊に著はれ、元蔚山・灣釜山・馬山・木浦・濟州島等は漁業の主要な中心である。又西海岸の一部には、天日製鹽

寧安・岳・栗等の鐵・平壤附近の石炭、甲山の銅等は何れも名高く、中にも鐵・金及び石炭は産額が殊に多い。載寧・殷栗の鐵鑛は、多く内地の八幡製鐵所に送られ、又兼二浦にも製鐵所があり、鎮南浦には製鍊所の設がある。平壤の石炭は多く徳山の燃料廠に送られて、その原料となる。水産も亦豊富で、日本の明太魚・鯨、南部・西部の鯛・鱒・鯖、西



大邱の市場  
定期市の光景で街路に  
白く見えるは白衣の鮮  
人が群集してゐるので  
ある



が行はれ、廣梁灣が最著名である。  
工業は未だ盛ではない。鮮人の事業とし  
ては、織物抄紙等が稍行はれるに過ぎないが、  
近年内地人の經營になる煙草皮革製鐵製紙  
等の工場が處々に興つた。

貿易は、内地から多くの加工品を移入して  
原料品を移出する外、支那との取引が頗る多く、  
釜山・仁川はその二大門戸である。國內の商  
業は、處々に定期市を開いて行ふを特色とし、  
大邱の市場は殊に名高い。

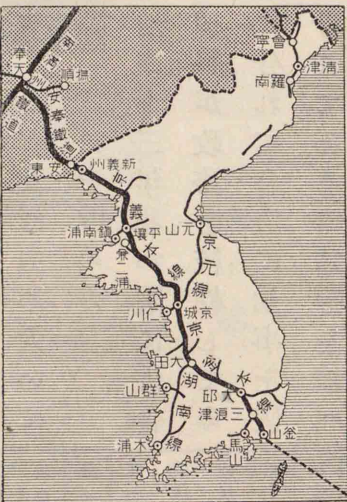
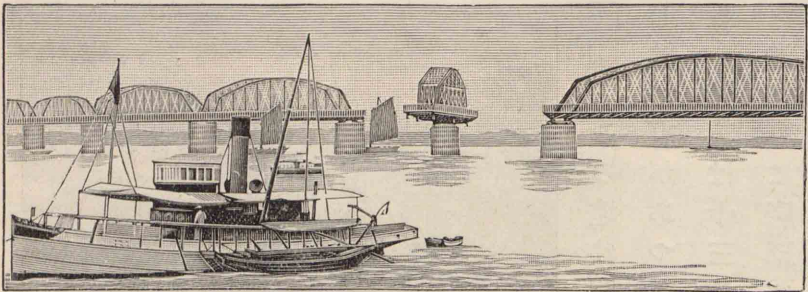
1 釜山・京城間  
2 京城・新義州間

交通 往時は道路の荒廢が甚しく、專馬又は轎によつて往來した  
が、近年大いに交通上の面目を改めた。鐵道は京釜京義の二線が  
相連つて半島を縦貫し、更に鐵橋によつて滿洲の鐵道に連接し、世

三浪津・馬山間  
4 大田・木浦間  
5 永登浦・仁川間  
6 平壤・鎮南浦間  
7 京城・元山間  
咸鏡線は南部中部  
北部に分れ未成部  
は自動車で連結し  
又その支線に清津  
線がある

鴨綠江の開閉  
橋  
全長九四〇米鋼桁が十  
二連ある朝鮮側から第  
九連が開閉式となり之  
を今開いてゐる光景で  
ある

内地人の在住約三  
十五萬に及ぶ



界交通の幹線と  
なつてゐる。そ  
の他馬山湖南京  
仁平南京元等の  
諸線がある。海  
運は鐵道連絡船

の外、普く近海航路が通じ、殊に西部と南部とに  
は良港が多く、水陸共に交通の便が甚だよい

住民 住民の大部分は朝鮮族で、密度は奥羽地  
方よりも小さい。從來嚴格な階級制度があり、  
且惡政の爲に稍遊惰の風があつたが、近頃は大  
いに改善された。庶民は生活の程度が低く、概  
藁葺の陋屋に住み、温突を設けて冬の寒氣を凌



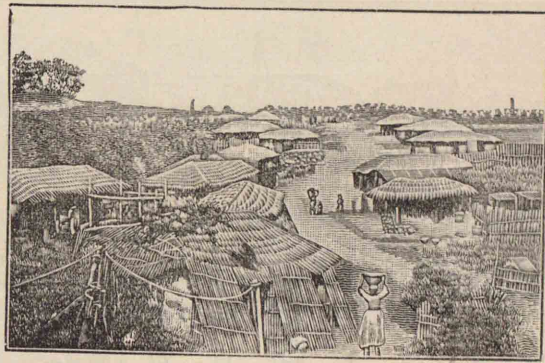
庶民の家屋  
下流住民の家には園の如き矮小な草屋が多く通常の家は居間と物置と煙場と三室しかない

庶民の家屋

子音と母音とを結合して一種の發音をなすものでその例を左に示す

PU = 早  
SAN = 山  
TUN = 田  
HAN = 漢  
PU = 浦  
SAN = 山  
TUN = 田  
HAN = 漢

總督府には官房及び内務・財務・殖産・法務・學務・警務の六局がある  
道・郡は内地の府縣・郡に、府は市に、道は町村に相當し、道に知事、府



子 フレロ己口日人  
音 ス〇オヲニス豆  
母 トトイキト止下  
音 卍一  
綴 早 山 (釜山)  
音 汗 江 (漢江)

用ひてゐるが、近年各種の學校を設けてその普及に力め、大いなる面目を改めた。

政治 この地は明治四十三年我が國に併合し、總督府があつて、總督が政務を統轄してゐる。地方は十三道に分れて各道に知事を置き、道は更に府郡に分れてゐる。軍事を總べ

いでゐる。教育は尙幼稚で、普通は諺文を

道名	治所	面積・人口
慶尙南道	釜山	一、二〇三、〇七方
慶尙北道	大邱	一、八九八、五方
全羅南道	光州	一、三三三、二方
全羅北道	全州	一、三〇八、七方
忠清南道	公州	一、八五二、八方
忠清北道	清州	一、三六八、八方
京畿道	京城	七、四一八、七方
黄海道	海州	一、二八一、六方
江原道	春川	一、四七三、四方
咸鏡南道	咸興	一、六六五、五方
咸鏡北道	羅南	一、三三三、一方
平安南道	平壤	二、〇三三、二方
平安北道	新義州	一、四九二、九方
		一、二四一、一方
		二、八四四、〇方
		一、四一六、千

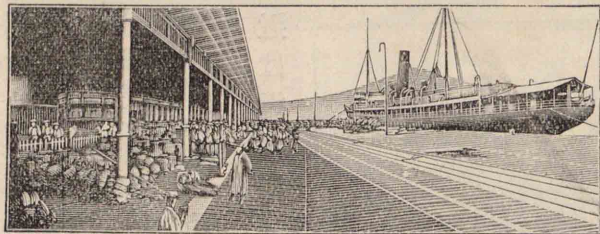
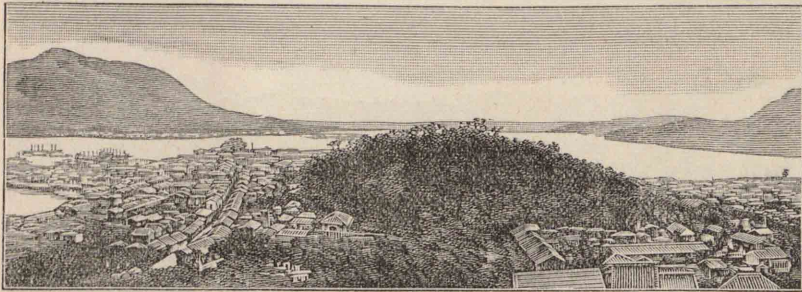
に府尹、郡に郡守、面に面長を置く

主要都邑人口千人

京城府	一、〇〇六
釜山府	三、四四二
大邱府	八、九〇六
仁川府	七、六〇九
開城府	五、六〇六
元興府	三、三七一
咸興府	三、三七一
木浦府	二、二七〇
尙州府	二、二七〇
光州府	二、二七〇
全州府	二、二七〇
馬山府	二、二七〇
群山府	二、二七〇
清津府	二、二七〇
晉州府	二、二七〇

釜山の展望  
中央の森は龍頭山公園で左方に見える遠景の山は絶影島である

船車の連絡  
釜山第一大橋で右に開釜連絡船が横付けにされ左に北行の列車が待つてゐる光景である



る爲には朝鮮軍司令部がある。

處誌

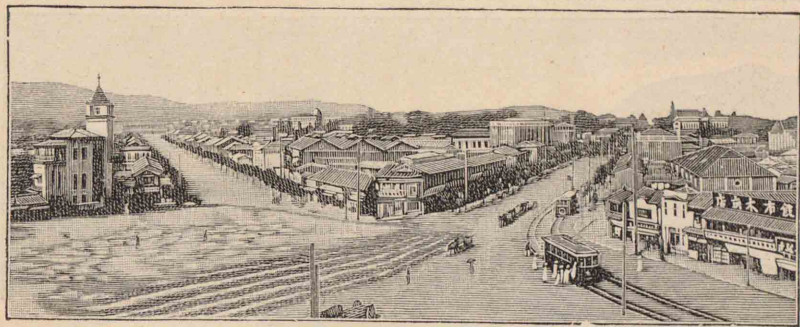
産業・交通等の關係で、主要都邑の多くは南部・西部に集り、又この方面には、内地人移住の爲に興つた新市街も少くない。  
釜山は半島の南門に當る開港場で、港灣の設備も能く整ひ、下關と鐵道連絡船を通じて、内地と交通の衝に當り、貿易額の多いことは半島第一である。この附近に東萊温泉がある。鎮海灣に臨む

大邱に覆審法院も  
ある

【圖解】京城の市街  
南大門通の光景で内地  
風の建物が揃比してあ  
る長観を示したもので  
ある

公州は百済の都で  
あつた

【圖解】總督府  
舊總督は南山の中腹に  
あつたが光化門内の新  
總督舎が出来て移轉した  
圖はその新總督舎を示し  
たものである



馬山は、海峽の要地を占め、洛東江流域の大邱は  
農産物の集散が多く、定期の大市が開かれ、慶州  
は新羅の舊都で、附近に史蹟が多い。

秋風嶺を西に越えると大田がある。この附  
近は近年農業が大いに發展した。全州は米産

地方の中心地で、光州の附  
近には綿の耕作が盛であ  
る。西海岸の群山、木浦は、  
この地方の門戸に當る開  
港場で、農産物を積出すこ  
とが多い。

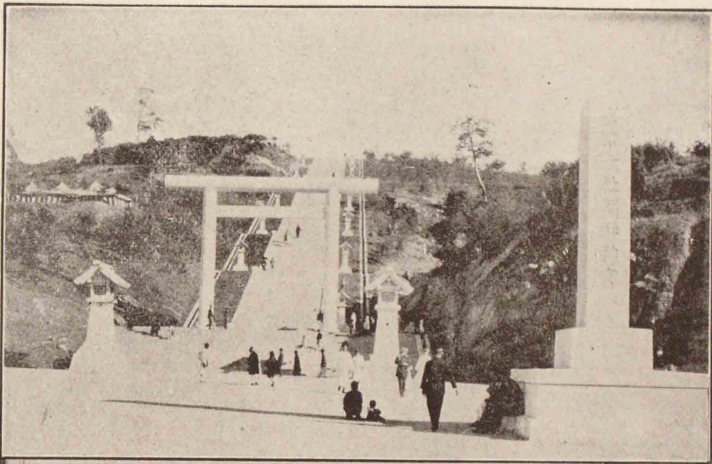
漢江に沿ふ京城は、半島  
第一の都會で、西南の一部



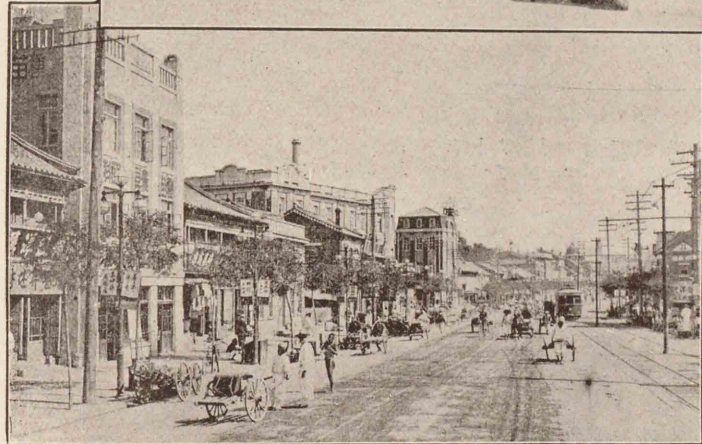
大邱の市街 街衢を整然とした上町通の景観挿繪の  
大邱市と比べて白面対照あて



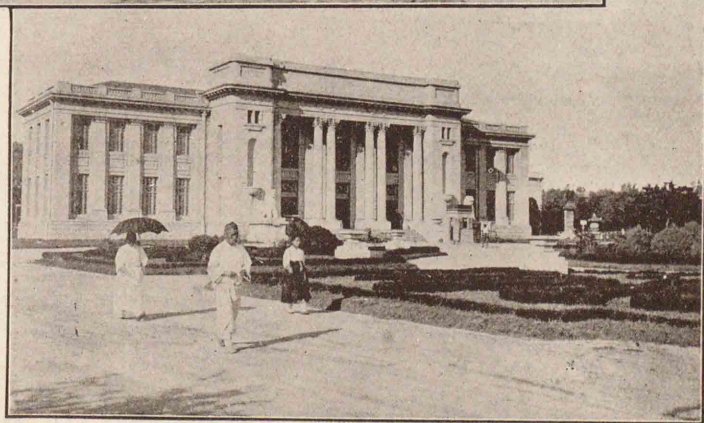
大田停車場 湖南線の分岐驛で前  
は鮮人の露店も見える



朝鮮神宮 天照大神明治天皇を祀る官幣大社で圖に表參道の石階



京城の市街 南大門通の景觀で鋪道市風である

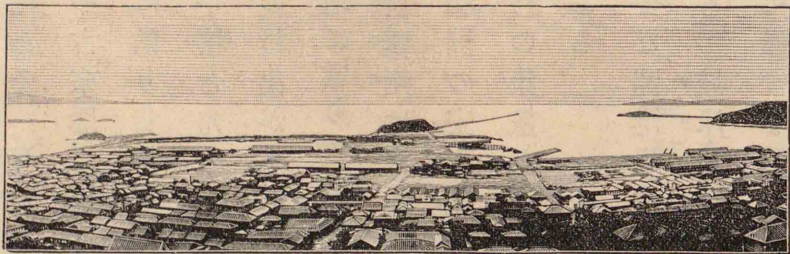
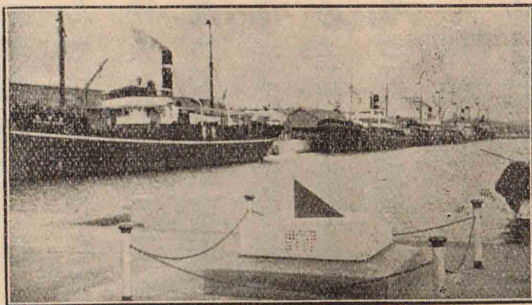


博物館 景福宮内にある總督府博物館で構造壯麗を極めてゐる

朝鮮神宮は天照大神・明治天皇を祀る官幣大社である。京城は東京から約二晝夜で達し又京城から新義州へ約十二時間釜山へは約十時間を要する。

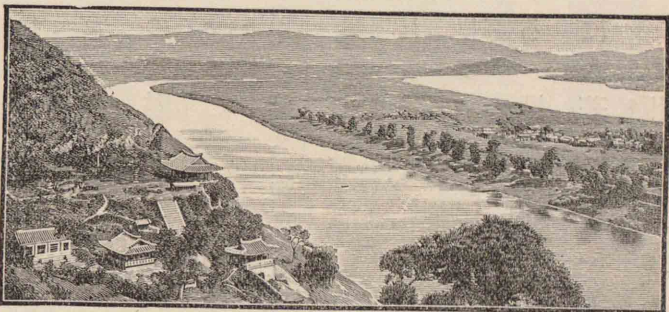
仁川港 圖は市後の高地から内港を望んだ光景で右方に大小の月尾島を連結した瀟灑が見え中央に沙島から出た瀟灑が見える上圖は船渠を示したものである。

を除く外は、概々丘陵に圍まれ、且四邊に城壁を廻らしてゐたが、近頃市區を改修して全く舊觀を一變した。總督府を始め、昌德宮、京城帝國大學、朝鮮神宮等が此處にある。府の一部の龍山は、鐵道(京釜、京義)の集點で、第二十師團司令部が置いてある。仁川は京城の門戸に當る重要な開港場で、築港も既に成り、米、人蔘、牛皮等の積出が多く、東南の水原は農事改良の中心地で、勸業模範場がある。開城は高麗の舊都で、附近に人蔘の特産がある。黄州は農産物の集散地で、大



平壤に覆審法院がある  
平壤は古樂浪の都があつた址である

平壤の牡丹臺  
市の西北にある小丘で眺望がよい臺下に浮屠樓といふ古い建物がある園中の近く手前に見えるのがそれである



豆牛等の積出が多く、この北方に咸興の名邑がある。城津、清津は共に開港場で、清津は會寧を経て、支那の間島地方に通ずる門戸に

同江岸の兼二浦へ鐵道を通じてゐる。平壤は大同江に臨んで形勝の地を占め、古來屢戰場となつたが、今は水陸運輸の要衝に當り、貨物集散の大中心となつた。鎮南浦は平壤と舟車を通じ、主要な開港場で、農産鑛産等の積出が多い。鴨綠江畔の義州は、街道の要地に當り、古來屢交戰の衢となつた處である。新義州は京義線の終點に位し、開閉橋によつて滿洲の安東縣と連絡し、半島の北門に當つて、木材の集散が甚だ多く、又龍巖浦と共に開港場である。

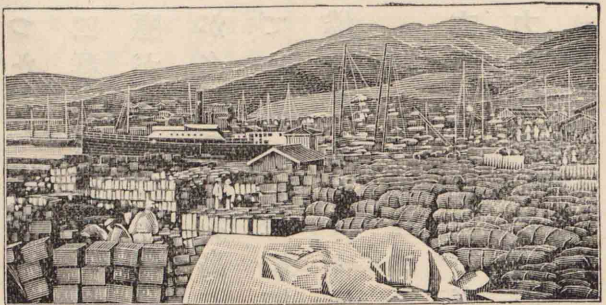
東海岸の元山は、裏朝鮮の主要な開港場で、大

當り、近年著しく發展した、附近の羅南は軍事上の一中心で、第十九師團司令部がある。國境に近い慶興はシベリヤに對する要地で、雄基はその門戸に當る開港場である。

### 第十二章 關東州 南洋諸島

面積 約三千三百八十方軒  
(約二百二十方里)  
人口 約七十萬

關東清津の埠頭  
北鮮地方の重要な門戸で圖に示すやうに貨物の集散が盛であるが又漁業の中心でもある

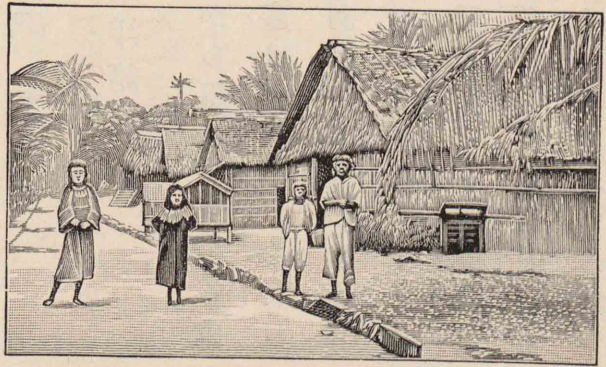


旅順市は日清・日露の激戰地で、附近に名高い戰蹟が多い。大連市は我が南滿洲鐵道の起點に當り、滿洲に入る門戸をなし、世界交通の要地で、港灣の設備も能く整ひ、貿易が甚だ盛である。

面積 約二千五百方軒  
 (約百六十方里)  
 人口 約五萬  
 (邦人約三千七百)

南洋土人の風俗  
 マーシャル諸島のヤ  
 ルト島にある村落を  
 示したものである

南洋諸島は、小笠原諸島の南方に散在せる  
 數多の島嶼でもと獨逸の領土であつたが、世  
 界大戰の後、我が國で之を統治することにな  
 つた。マリヤナ、カロリン、マーシャル、パラオの  
 四群島に分れ、パラオ諸島のコロールに南洋  
 廳が置いてある。アングウル島は、燐礦の産  
 が多いので名高く、ヤップ島は海底電線の要地  
 である。一帯に椰子樹が多く、茂り、コプラは  
 燐礦と共にこの地の重要な産物である。



斯く我が國は、近く關東州を租借して、滿洲  
 方面にも各種の事業を營み、遠く南洋諸島をも統治して、海上に權  
 力を振ふなど、國威が隆々として東亞の天地に輝き渡つてゐる。

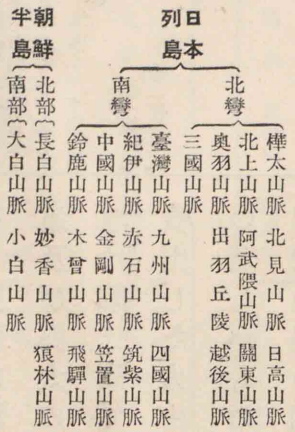
後篇 總說

第一章 地勢

山系

日本列島を構成する主要な山脈は、北彎・南彎の二山系に屬  
 する。南彎山系は、西南部の地帯をなすもので、赤  
 石・紀伊・四國・九州の諸山脈から、琉球を経て臺灣に  
 至る外帶と、飛驒・木曾の兩山脈から近畿の地壘を  
 經て、中國山脈・筑紫山脈に連る内帶との二列に分  
 れる。外帶は地貌が概して高峻であるが、内帶は  
 著しく浸蝕を受け、地盤の變動も亦烈しかつた處

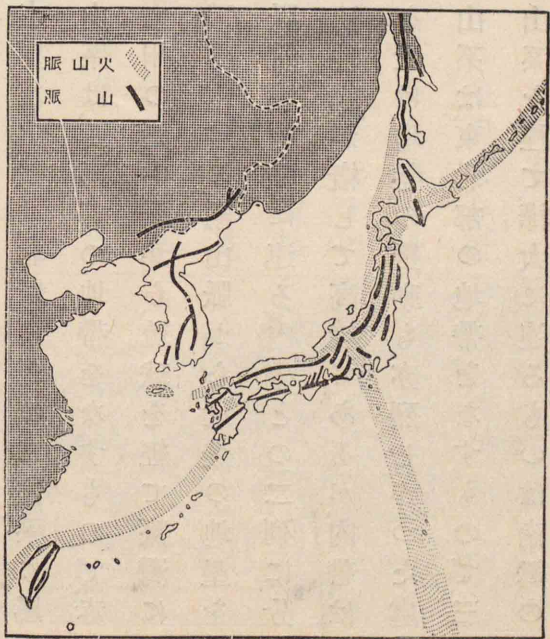
で、地壘・盆地等が多い。北彎山系は、東北部の地帯をなすもので、三  
 列に分れ、關東山脈から、蝦夷山系を経て、樺太に連るものは、南彎の



北彎山系の連る地域を北日本・南彎山系の連る地域を南日本と呼び、又彎形の外側を表日本、内側を裏日本と呼ぶことがある

外帯に相當し、阿武隈北上の兩山脈は、その内帯に相當する。奥羽山脈・出羽丘陵・北海道及び樺太の西部に互る山地は第三列であつて、此處に噴出した火山の外には、高度の著しいものはない。南北兩彎山系の相會する所は、本州中で幅が最廣く、富士火山帯が此處を通じてゐる。

富士火山脈は列島を北日本と南日本とに分ける。富士火山脈以北には那須・千島・鳥海等の火山脈があり、以南には阿蘇・霧島・白山及び大屯等の火山脈があつて、多くは山脈の内側を走つてゐる。



風景	妙義山	嵐山
社寺	多武峯	高野山
史蹟	笠置山	船上山
産物	阿里山	金峰山
温泉	箱根山	温泉岳

朝鮮半島の構造は、日本列島と大いに趣を異にし、その脊梁となるのは、主に火成岩から成る高原狀の山地で、南部には丘陵の起伏が多い。火山は一體に少く、活火山は全くない。

山岳中には海拔が著しくなくも、風景・社寺・史蹟・産物等の爲に、著名なものもある。又火山地方には温泉湧出の爲に、旅客を招き、温泉市街の發達するものも少くない。

**平野河流**

我が國は山地が多いから、廣大な平野や、長大な河は極めて少い。平野の最廣いのは關東平野で、越後・濃尾・大阪・筑紫・石狩等の平野が之に次ぎ、臺灣の西部、朝鮮の西南部等も亦主要なもので、何れも産業が開け、人口が稠密である。

朝鮮半島には大河が割合に多いが、日本列島は數多の斜面に分れるから、河は概、短小な急流

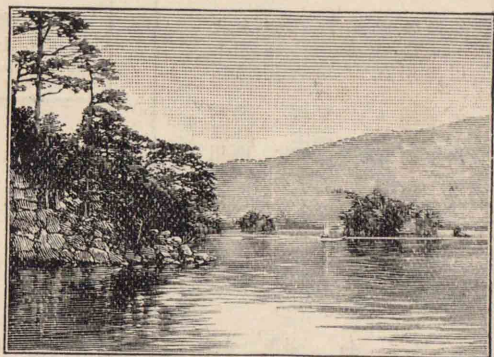
太平洋斜面	北上川	利根川	天龍川
オホーツク海斜面	木曾川	熊野川	
日本海斜面	幌内川	最上川	信濃川
朝鮮海峽斜面	石狩川	豆満江	
黄海斜面	江川	洛東江	
東支那海斜面	鴨綠江	大同江	漢江
臺灣海峽斜面	筑後川	球磨川	下淡水溪
臺南海峽斜面	淡水河	濁水溪	大田川
瀬戸内海斜面	淀川	旭川	

(斜面)

(主要河川)

藤原島附近の光景で同湖は風光の美天下に冠絶すと傳へられ又鱒の養殖が行はれる

琵琶湖の海面の海拔を示す



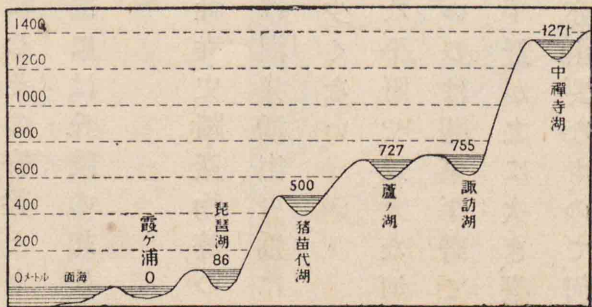
水河等である。

である。従つて舟運の便が少く、河口に良港がなく、且時々洪水氾濫の害を及ぼすことがあるが、上流は水力の利用に適し、又廣く灌漑に用ひられる。河川の中で、利用の割合に多いのは、利根・信濃・北上・木曾・淀・筑後等の諸川及び、朝鮮の鴨綠江・大同江・洛東江・臺灣の淡

水湖要主

湖名	周囲
琵琶湖	約三三〇里
霞浦湖	約三〇〇里
濱名湖	約二六〇里
八郎湖	約二〇〇里
印旛湖	約一七〇里
風連湖	約一五〇里
猪苗代湖	約一四〇里

湖水は琵琶湖を最大とし、その他は霞浦・濱名湖等の外に著しいものはないが、小湖は到る處に散在して、發電・灌漑・養魚・運輸等に利用せられ、又山間の湖水には



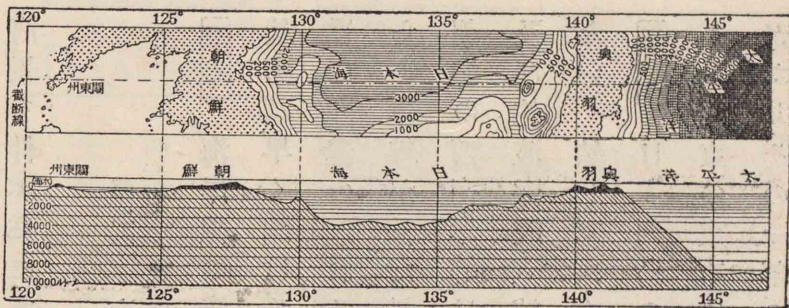
勝景を伴ふ爲に、遊覽地として名高いものも少くない。

第二章 海洋

**海岸** 海岸線の發達は、その地の文化に影響を及ぼし、出入の多い地方は、早く開けるが、山地が海に迫る處は、背後との交通が不便な爲に、開發の遅れるのが常である。我が國は、海灣や島嶼が多いから、海岸線が甚だ長く、九州の西岸、瀬戸内海の沿岸、本州の太平洋岸、朝鮮の西南岸等は殊に著しい。島嶼の數は四千に餘るが、六大島及び佐渡・隱岐・壹岐・對馬・淡路・沖繩等を除けば、産業上著しいものはない。然し、軍事・交通等の上には、小島でも重要な場合がある。

**近海** 日本列島の外側に當る太平洋は、世界最大の大洋で、千島沖から關東の東方に亘る海底には、日本海溝と呼ぶ世界屈指の深處があり、その一部のタスカロラ海淵は、八千五百米に餘り、又房總半

朝鮮日本の近海とその断面



鳴門の潮流は一時  
間二十軒に及ぶ

島の南方には、九千五百米に餘る處が発見された。之が今日までに知られた、世界最深の部分である。内側の海は一般に浅く、日本海の中部の外には、三千米を超える處はない。

**潮汐** 海岸には一日に二回づつ、潮汐干満の變化が起る。干満の差は、地形、海底の状態等によつて大いに異なる。朝鮮の西岸では十米に近い處があるが、日本海岸は全體に少く、佐渡では三十糎に過ぎない。狭い海峡では、潮汐の干満に伴ひ、潮流を起すことがある。瀬戸内海の入口はその現象が殊に著しい。

**海流** 近海には、寒暖二種の海流がある。暖流の主要なものは日本海流で、概、列島の外側に沿

日本海流の一部を  
黒潮ともいひ千島  
海流は一に親潮と  
もいふ  
海流の水溫(夏季)  
黒潮 二七度  
親潮 一八度

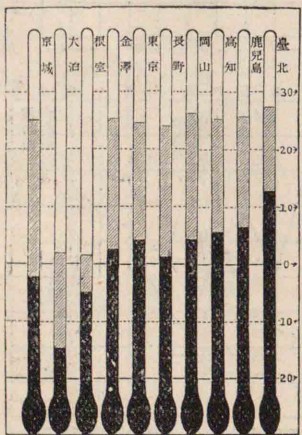
圖 各地の平均最  
高低氣溫  
緯線を加へたのは最高  
氣溫で黒きは最低氣溫  
である

年平均氣溫 度  
恒 春 二・四・三  
敷 香 一〇・四  
氣溫の高極  
元 山 三九・六  
新 潟 三九・一  
氣溫の低極  
中 江 鎮 四一・六  
旭 川 四一・〇

つて西南から東北に向つて流れその分派の對馬海流は、日本海を流れる。寒流の著しいのは千島海流で、千島近海から奥羽の東岸に流れる。その他、樺太の東岸に沿ふ樺太海流、朝鮮の東岸を洗ふリマン海流等がある。海流は著しく氣候に影響し、又漁業と密接な關係がある。暖流には鰹、鰯の如き魚族が集り、寒流には鯨、鱈等の魚族及び各種の海獸が好んで棲息する。

第三章 氣候及び天產物

**氣溫** 我が國の大部は溫帯にあるから、概、溫和であるが、地形が南北に長く、且地勢、海流及び季節風等の影響を受けるので、處によつて著しく異なり、臺灣、小笠原島等は年平均氣溫二十度以





太平洋岸は概して  
氣温の變化が少い

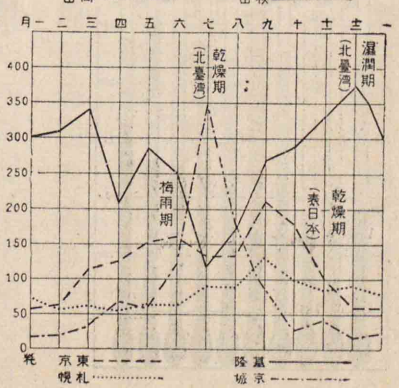
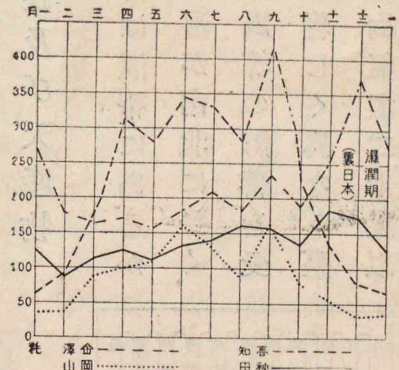
【圖】季節による各  
地の雨量

樺太の一部は年平均  
均零度以下に降る  
年二十度以上を熱  
帶零度以下を寒帯  
その間を温帯とす  
ることもある

上で、各種の熱帶性植  
物が茂り、夏季と冬季  
との氣温の差は割合  
に少い。北海道樺太  
は年平均氣温が九度  
以下で、沿岸には冬季  
凍結する處がある。

夏冬の差も稍、烈しく、針葉樹は到る處の山野を彩つてゐるが、常緑  
潤葉樹を見ない。朝鮮は著しく大陸的で、南部を除けば、氣温の差  
が極めて大きく、植物は北海道に類してゐる。

【風雨】 我が國の夏は東南風が多く吹き、冬は西北風が多いから、雨  
量も之に伴つて變じ、夏は九州・四國・本州の太平洋面に多量の雨を  
降らし、冬は本州の日本海岸地方に降雪が多い。北海道樺太は雨

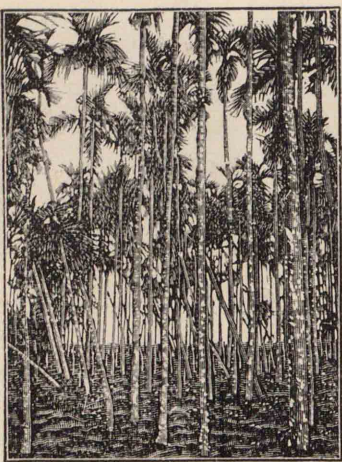


夏秋の交我が國に  
襲來する颱風は多  
くマリヤナ群島附  
近から來る低氣壓  
で初め北西の方向  
に進み臺灣の東に  
至つて漸く北東に  
方向を變じて進行  
し來るもので所謂  
二百十日の頃は荒  
れ時として一般の  
警戒する處である



量が少いが、臺灣は全體に多雨で、概して夏季に多  
く降るが、北部では冬に多い。朝鮮は東南部  
の外、概して降雨が少い。風向の變る夏秋の  
交には、往々颱風が西南部の地方に襲來して、  
暴雨が之に伴ひ、又初夏の頃には、全國の大部  
に互り、梅雨と呼ぶ雨期があつて、長い間陰鬱  
な天氣が続く。

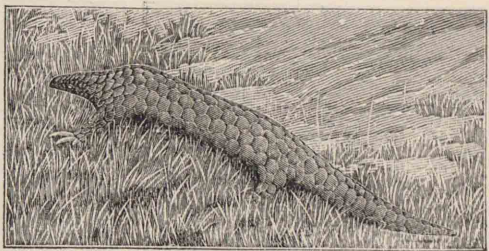
【圖】熱地の植物  
臺灣恒春附近に於ける  
檳榔椰子の狀を示し  
たもので高さ十米に達  
するものがある



【生物】 植物は風土の關係によつて種  
類が甚だ多い。臺灣では樟樹・杉・檜・松  
樹・檳榔樹・蒲葵・芭蕉等の熱帶性植物が  
茂り、中部では松・檜・杉等が美林をなし、  
北地に進むに従つて、蝦夷松・楡・松・落葉  
松・白楊等の密林が多い。

津輕海峡は生物分布上著しい境界をなしブラッキストン線と名けられる。長く函館にあつて鳥類の分布につき研究した英人である最近の研究によれば宗谷海峡は更に著しい分布境界をなすといふことである。

穿山甲  
臺灣産地附近に棲むもので全身角質の鱗に蔽はれ大きいのは全長一米に及ぶものがある。

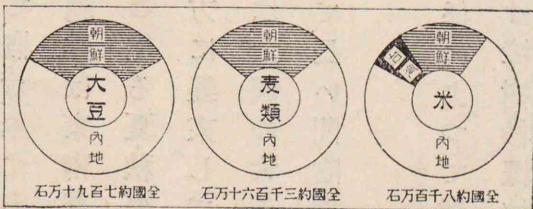


動物は植物の如くに多様ではないが、特種のものには、臺灣に穿山甲、琉球にハブ、北海道に熊樺太に馴鹿、朝鮮に虎等がある。海棲動物も南部の暖流には珊瑚、海龜等が棲息し、北方の寒流には各種の海獣が多い。

#### 第四章 産業及び物産

農業 我が國民は、古來農を主業とし、人口の五割五分は之に従事してゐるが、人口が稠密な上に、耕地は地積の約一割五分に過ぎないから、農法は集約的で、規模が小さく、土地の利用に就いても改良の餘地が多い。

米は、農産中の第一位を占め、北海道の東北部と、樺



清酒の原料となる米のみで六百萬石以上に及ぶことがある。

茶の栽培は近年九州方面でも次第に盛になつて行く。

我が國は濕氣が多く面積が狭く且大草原がないから牧畜に適當とはいへぬ。

太とを除けば、殆ど全國到る處の平野に産するが、國民の常食とする外、醸造等の原料とし、その消費が莫大であるから、年々多量の輸入を仰がねばならない。麥は米に次ぐ主要な食料で、關東・中國・北海道等をその主産地とし、大豆も廣く各地に産するが、小麥と共に尙多くの輸入を受けてゐる。茶は世界屈指の産地で、主要輸出品の一となり、甘蔗の栽培も年々盛となり、臺灣の製糖業等は著しい發達を示した。その他甘藷、馬鈴薯、煙草等の産出も亦多い。養蠶は元來農家の副業であるが、近年大いに發達し、本州の中部以北は最盛である。

牧畜 近年生活状態の變遷に伴れて、肉毛の需要が増し、且軍馬改良の必要等か

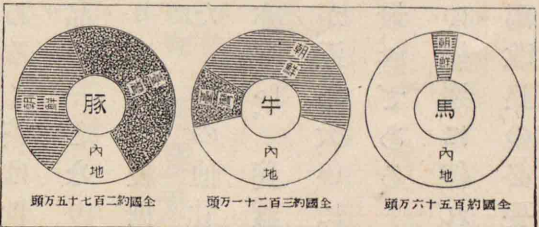
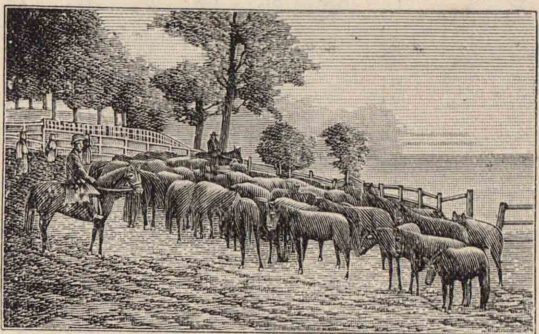
品目	(内地の主要産地)
米	新潟、福岡、兵庫、北海道、山形
麥	茨城、埼玉、熊本、千葉、兵庫
茶	静岡、三重、鹿児島、京都、奈良
大豆	北海道、岩手、茨城、熊本、埼玉
煙草	栃木、鹿児島、茨城、徳島、福島
甘藷	沖縄、鹿児島、長崎、熊本、千葉
馬鈴薯	北海道、青森、福島、宮城、岩手
牛	廣島、兵庫、岡山、鹿児島、長崎
馬	北海道、鹿児島、岩手、熊本
豚	沖縄、鹿児島、千葉、静岡

政府は青森・北海道に於て二個所の種馬牧場、地方の處々に種馬育成所又は種馬所を置いて馬匹の改良を計つてゐる。

**北海道の牧場**  
北海道は氣候地形が牧畜に適するもので、斯業が盛である。圖は牧馬の光景を示したものである。

家畜の數（人口に對する割合）は歐米諸國に比して著るしく少い。

森林は御料林・國有林・民有林等に分れ、國有林は本州・四國・九州を六區に分けて國家が之を經營してゐる。



ら、公私の牧場が處々に興つて、牛・馬・羊・豚等の飼養が次第に盛大となり、その方法も亦著しく改善されて來た。養鶏は概農家の副業であるが、近年之を專業とするものもある。

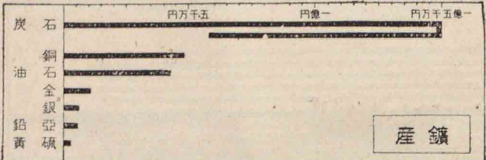
先進國に劣る點が多い。北海道樺太・朝鮮・臺灣等には天然の廣い大森林があり、内地には、秋田・木曾・熊野等の美林があつて、建築用材・鐵道枕木・燐寸軸木・製紙原料・薪炭等を出すが、木材・パルプ等は輸入を仰ぐことも少くない。林業の副産物たる樟腦（臺灣）・木蠟（四國・九州）・漆（奥羽）

**吉野の杉林**  
吉野山地で、々と伸びた杉林の光景である。

表中の鐵は八幡製鐵所の分は含んでゐない。

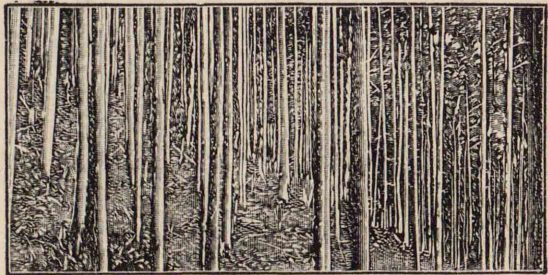
銅は世界有數の産地に數へられてゐる。

は、我が國の特産で、殊に樟腦は、世界需要の過半を供給する重要な産物である。  
**鑛業** 我が國の鑛産はその種類は多いが、産額は餘り豊富ではない。鑛産額の最多いのは石炭で、全鑛産價額の七割餘を占め、重要な輸出品をなし、銅が之に次いでゐる。その他、金・銀・鐵・硫



品目	(内地の主要産地)
石炭	福岡、北海道、福島、長崎、佐賀
銅	秋田、栃木、愛媛、大分、茨城
金	大分、茨城、鹿児島、新潟、秋田
鐵	大分、茨城、栃木、秋田
硫黄	岩手、
石油	北海道、岩手、福島、長野
亜鉛	新潟、秋田
	福岡、山口、宮城

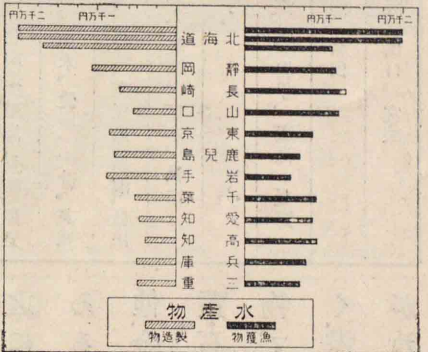
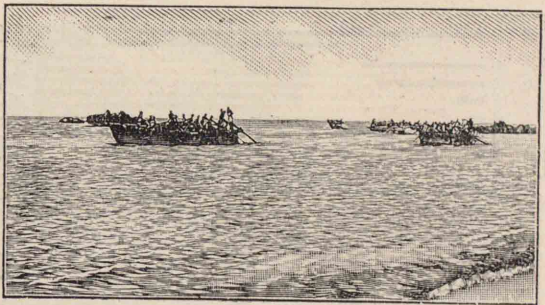
黄・石油・亜鉛・燐・硫等は主要な産物であるが、鐵・石油の産出が少く、需用に不足を告げ、輸入を仰がねばならぬのは甚だ遺憾で



近時滿洲・シベリヤ等の沿岸へも漁區を擴め産額が大いに増加した

北海道的地方の海岸は世界三大漁場の一に數へられる

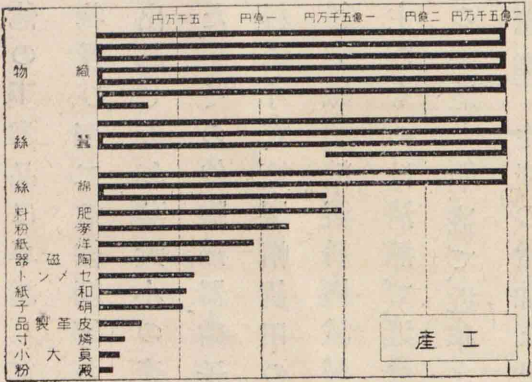
各地の河川では鮎がとれ池沼では鯉鰯等の養殖が行はれる



産物は、冷凍法によつて他へ送り、又乾物・鹽藏・罐詰・肥料等に作るものも多く、就中搾粕・鰹節・鰯等は、その大部を占めてゐる。處々の内海では貝類・海苔等が養殖せられ、志摩半島の養殖眞珠、九州臺灣の珊瑚等も世界に有名な産物である。この外、食鹽の製造も亦盛て

布等の漁獲が多く、太平洋方面では、鱈・鰹・鰯、日本海方面では、柔魚・鯛等が豊富である。是等の水産物は、我が近海は、寒暖二種の海流が各種の魚族を導き、漁業は一般に盛であるが、殊に北海道樺太の沿岸は、世界屈指の漁場に數へられて、鯨・鱈・鮭・鱒及び、昆

四大工業地帯  
京濱地方  
阪神地方  
北九州地方  
中京地方



瀬戸内海地方をその主産地とし、臺灣・朝鮮等の西海岸にも鹽田が多い。工業 我が國民は、古來手工に長じてゐたが、大工業の發達は最近のことである。生

絲は、その産額が世界の諸國に卓越して、輸出品中の第一位を占め、綿絲紡績は近年急激に進歩發展し、その輸出は甚だ多い。織物は材料製品共に種類が甚だ多く、産額は

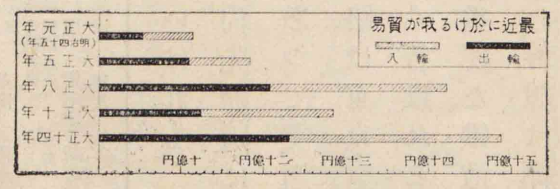
(品目)	(内地の主要産地)
生絲	長野、愛知、群馬、埼玉
綿絲	大阪、愛知、兵庫、三重、岡山
絹織	京都、福井、石川、群馬、東京
綿織	大阪、愛知、和歌山、愛媛、兵庫
麻織	滋賀、大阪、東京、栃木、兵庫
毛織	愛知、兵庫、大阪、東京、岐阜
眞大小	大阪、愛知、東京、和歌山
陶器	愛知、岐阜、京都、佐賀
硝子	大阪、福岡、神奈川、東京、兵庫
セメント	福岡、北海道、神奈川、山口
漆器	石川、愛知、福岡、和歌山、静岡
和紙	高知、愛媛、静岡、山口、岐阜
洋紙	北海道、東京、静岡、大阪、福岡
燭寸	兵庫、大阪、愛知、岡山
壘表	廣島、大分、岡山、静岡
花籃	岡山、福岡、廣島、静岡、香川

他の工業品に卓越してゐる。その中、綿織物及び羽二重、縮緬等の絹織物は主要な輸出品で、近年莫大の産額も大いに増加した。その他、陶磁器、硝子、セメント、和洋紙、肥料、燐寸、花筵、製帽、眞田の製造も甚だ盛で、造船製鐵、製糖、製粉、機械製造、化學工業等も大いに發達した。醸造の主なもの、清酒で、近畿九州にはその産額が殊に多く、麥酒、醬油等の製造も頗る盛で、近年之を輸出するに至つた。

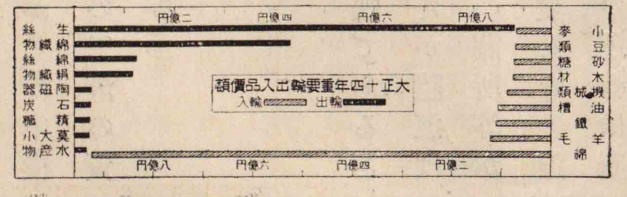
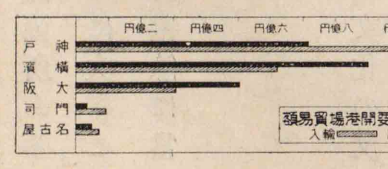
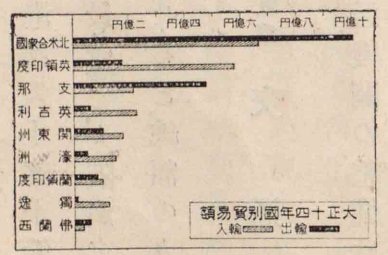
眞田	岡山、香川、新潟、愛知、神奈川
小麥粉	福岡、愛知、兵庫、群馬、東京
砂糖	沖縄、鹿児島、北海道
清酒	兵庫、廣島、福岡、京都
麥酒	東京、大阪、福岡、兵庫
醬油	千葉、香川、愛知、兵庫

〔商業〕 生産の増加と共に商業も益發達し、東京と大阪とは國內商業の二大中心であるが、その中間の名古屋も、商圏が次第に廣くなつた。大阪は商業の範圍が最廣く、市場としては東京を凌いでゐるが、東京は大銀行大會社が多く、經濟上の勢力は大阪の上である。その他、各地方には大小の範圍に於ける中心地がある。

大阪の商圏は近畿以西、北陸、北海道に及び、臺灣、朝鮮も亦その範圍に屬し、東京は關東、東海、東北の地方を主とし、北海道が之に次ぐ。



外國貿易も近年著しく盛大となり、殊に歐洲の戰亂以來、その發展が實に目覺しく、最近の輸出入總額は四十九億圓(大正十四年)に及んでゐる。輸入品は原料品が主で、綿を第一とし、鐵製品、豆粕、機械類及び木材等が多く、輸出は加工品が主で、生絲を第一とし、綿織、絹織、綿絲、陶磁器、石炭、莫大、小茶、紙等が之に次ぐ。取引國の中で、我が國が多く輸入を仰ぐのは、北米、合衆國、印度、英吉利、支那、關東州等で、我より多く輸出するのは、北米、合衆國、支那、印度、關東州等である。



貿易港

元山	木浦	高雄	(九州)	三角	博多	(北海道上)	(本州上)	宮津	神戸	横濱
城津	群山	(特別港)	今治	那覇	唐津	大泊	函館	敦賀	糸崎	清水
清津	仁川	(釜山)	(四國)	(以上)	長崎	真岡	小樽	七尾	徳山	武豊
雄基	鎮南浦	(釜山)	基隆	淡水	佐須奈	(以上)	室蘭	伏木	下關	名古屋
(朝鮮)	新義州	(釜山)	安平	三池	鹿見	門司	釧路	新潟	濱田	四日市
	龍巖浦					若松	根室	香森	境	大阪

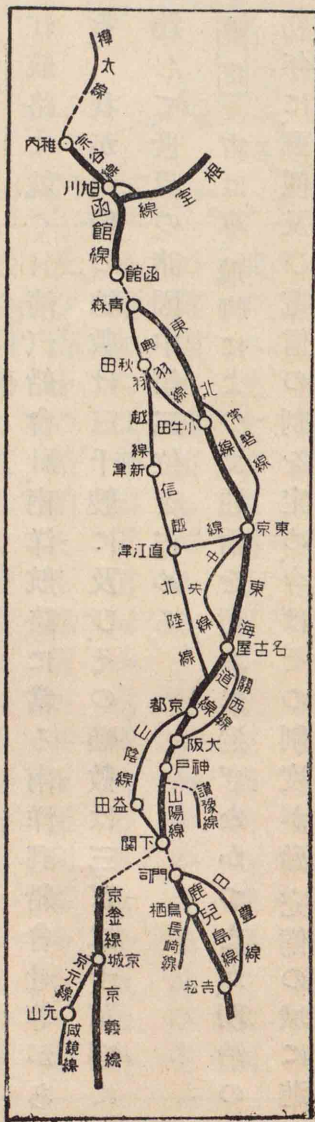
る。貿易港は大小五十餘箇所あるが、その中横濱・神戸は最盛で、大阪が之に次ぎ、この三港の貿易額を合せると、總額の九割餘に當る。

第五章 交通

陸運

交通機關の整備は、文化の反映であるといはれる。我が國は、近年海運界に著しい活躍を示したが、陸運は尙先進國に及ばない。古は道路が不完全な上に、人為の關所等があつて、交通は甚だ不便であつたが、今は全く面目を一變した。道路は東京・京都を中心として各地に幹線が通じ、自動車の運轉は廣く行はれるが、舗装は尙一般に不完全である。交通機關として最も重要な鐵道は、その發達が甚だ速で、今は總延長約一萬二千哩に達し、幹線は樺太・北海道から九州臺灣に及び、その間の宗谷・津輕・下關

道路は國道・府縣道・市道・町村道の四等に分けられる

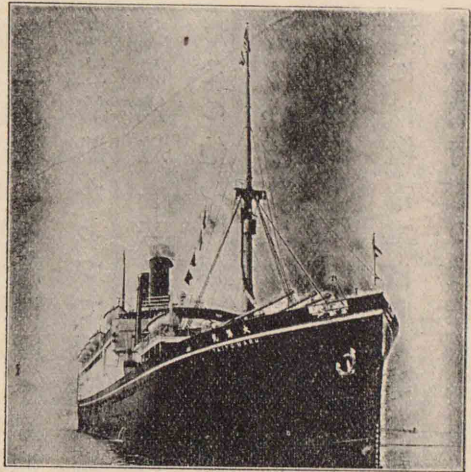


の三海峽は勿論、四國へも連絡船を通じてゐる。朝鮮海峽にも關釜連絡船があつて、朝鮮の鐵道と連り、朝鮮の鐵道は、滿洲に於ける我が鐵道と共に、世界交通の要路となつてゐる。然し、我が國は地形その他の關係から、鐵道網が尙疎である上に、大部分は狹軌制であるから、速度及び輸送力の上に、遺憾な點が多い。

鐵道が遠距離交通に便を與へると共に、主要の都市及び、その附近には、概ね電車・自動車等の設備があつて、近距離の交通に資してゐる。飛行機の發達も著しく、今は實用の域に進んでゐる。

電車網の發達は京阪地方が第一である

○大 洋 丸  
獨逸の客船で原名をキ  
ャプファイニステールと  
呼んだが賠償として聯  
合國に提供したのを我  
が國へ分配せられ現名  
に改めたもので船の長  
さ五百六十一呎排水量  
二萬一千噸ある



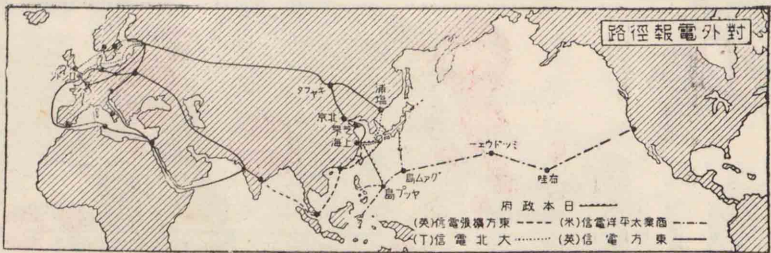
江航路に就く日清汽船會社、南洋航路に當る南洋郵船會社等があ  
る。我が汽船の總數は三千艘に及び、その噸數は三百二十萬噸に  
達して、世界の諸國中第三位を占める。

通信 古は專、飛脚によつて通信を行ふに過ぎなかつたが、明治の  
初年に、郵便及び電信の制を定め、今はその制度が殆ど完備の域に進

海運 海運は近年急速な進歩をなし、

内國の沿岸は勿論、東洋の諸港から遠  
く他の大陸の要地へも航路を開いて  
ゐる。海運事業に最、有力なものは、日  
本郵船大阪商船の兩會社で、共に世界  
有數の大會社である。その他、近海の  
航通を主とする近海郵船會社、專、朝鮮  
の沿岸航運に當る朝鮮郵船會社、揚子

我が國には皇族と  
臣民との別があつ  
て臣民は華族・士  
族・平民及び朝鮮  
貴族の別がある華  
族と朝鮮貴族とに  
は爵を賜げり又朝  
鮮王族があつて皇  
族に准ぜられる



んだ。海底電信も主要な諸島を連ねる外、更に支  
那シベリヤ等に通じ、又小笠原島からは遠く米國  
の電線と連接してゐる。近年海岸の要地及び主  
な船舶には、無線電信局が設置せられたから、海外  
及び海上の船舶とも、通信が甚だ便利である。電  
話の利用も著しく發達し、長距離通話も益、その區  
域を廣め、無線電話も全く實用の域に達した。

### 第六章 住 民

國民 我が國民の主腦となるは日本民族で、全體  
の七割五分を占め、朝鮮民族、臺灣人漢族等が之に  
次ぎ、この他、北部にはアイヌ人、オロチン人、ギリヤ  
ク人等が住み、臺灣には馬來種の土人が住んでゐ

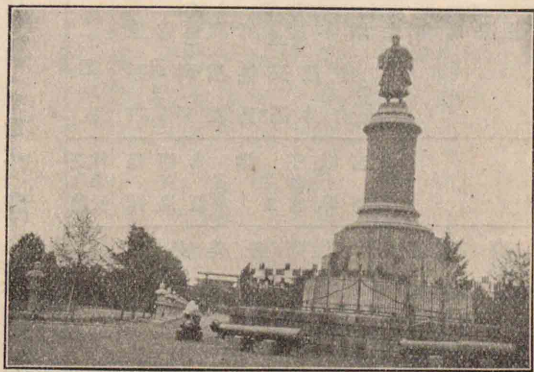




**靖國神社**  
 社前の大廣場で近景の銅像は神社の創設に盡した大村益次郎である

近畿地方は歴史上の關係から著名な神社が最も多い  
 佛教には眞言宗・天台宗・眞宗・曹洞宗・淨土宗・日蓮宗・黄蘗宗・時宗等の宗派がある  
 神道に大社教・黒住教・扶桑教・大成教等の派がある

は皇祖皇宗を始め、氏族の祖及び勳功のあつた士を崇め、神として之を祀る美風がある。神社の数は甚だ多い。神社の中、伊勢神宮は國家の大廟で、上下の崇敬が最篤く、その他は官幣社、別格官幣社、國幣社、府縣社、郷社、村社、無格社等の社格がある。神社の分布は歴史と深い關係がある。



**宗教** 國民は信教の自由を許されてゐるが、信徒の最も多いのは佛教で、寺院の数は七萬餘に及んでゐる。この他、敬神の念に基いて起つた神道、西洋文明の輸入と共に傳はつた基督教等も一部に行はれてゐる。

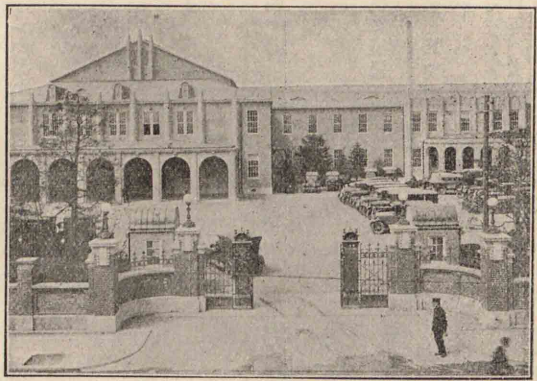
第七章 政治

臺灣・樺太・朝鮮等は我が領土となつて日が尙淺いから住民は政治に參與しない

**國會議事堂**  
 火災後に新築された假設事堂

貴族院は皇族・華族・勳選議員・多額納税議員等から成り衆議院は民選議員から成る

三大政治機關の外宮内省・樞密院・會計検査院がある宮内省は皇室の事務を掌り兼 華族を監督し樞密院は諮詢に奉答し會計検査院は政府の會計を検査する



我が國は建國以來、上に萬世一系の皇室を戴く君國主で、國體の尊嚴なことは、世界にその比を見ることが出来ない。

**政體** 明治二十三年以來立憲國となり統治機關は、立法・行政・司法の三部に分れる。

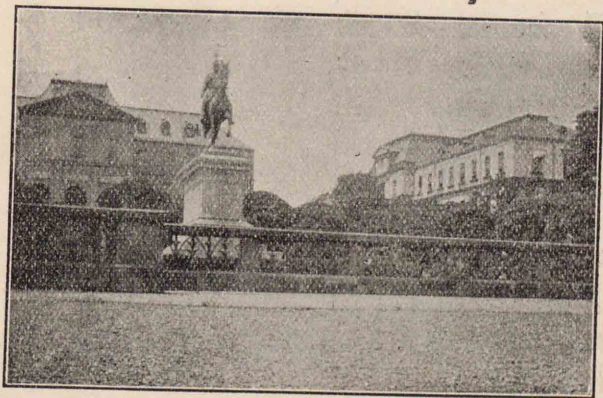
立法部は帝國議會で、衆議院と貴族院とから成り、法律案及び歳出入の豫算等を議定する。

行政部は政府で、その主腦たる内閣の下に、外務以下十一省があつて、主要な政務を分掌する。各省の大臣は國務大臣として、内閣總理大臣と共に内閣を組織してゐる。地方は内地を三府・四十三縣一道とし、府縣に知事を置き、北海道に長官を置く。別に殖民地には、樺太に長官を置き、臺灣と朝鮮とには

大審院は東京に控訴院は東京大阪名古屋・廣島・長崎・仙臺・札幌の七ヶ所にある

參謀本部  
對町永田町にある  
左の建物は陸地測量部  
近頃の銅像は故有橋川  
宮殿下である

總督を置き、又租借地の關東州、委任統治地の南洋諸島には長官を置いてゐる。司法は裁判所の掌る所で、大審院、控訴院、地方裁判所、區裁判所等の別がある。臺灣と朝鮮とは稍、制度が違つて、臺灣には高等法院(覆審部)、地方法院、朝鮮には高等法院、覆審部、地方法院、朝鮮には高等法院、覆審部、地方法院がある。



現役 陸軍三年  
海軍四年  
常備 陸軍四年四ヶ月  
海軍三年  
後備 陸軍十年  
海軍五年  
補充 所要の現役兵員に超過せるもの  
第一 後備・補充を終つたもの  
第二 後備・補充者國民等以外者

兵備 陸海軍は大元帥陛下の統率し給ふ所で、男子は、満十七才から満四十才まで、兵役の義務がある。兵役は常備、後備、補充、國民の四種に分れ、陸軍と海軍とは稍、服役の年數が違ふ。陸軍には參謀本部、海軍には海軍軍令部があつて、各、國防、用兵に關することを司つてゐる。

第七旭川	第六熊本	第五廣島	第四大阪	第三名古屋	第二仙臺	第一東京	近衛東京	(名稱) 師團 (司令部) 步兵旅團 (番號) (司令部)
第十四旭川	第十一熊本 鹿兒島	第九山口	第七大阪 和歌山	第五名古屋 靜岡	第三仙臺 高田	第二東京	第一東京	第八弘前
第二十龍山	第十九羅南	第十六京都	第十四宇都宮	第十二久留米	第十一善通寺	第十姫路	第九金澤	第六秋田
第四十龍山	第三十七成 南興	第三十津	第二十七宇都宮 高崎	第二十二久留米 福岡	第二十善通寺 徳島	第十八岡	第十六敦賀	第十四秋田

陸軍は内地を十四師管に分けて、各師管に一師團の兵を置き、別に近衛師團が宮闕を守衛してゐる。朝鮮には二個の師團を設け、臺灣・滿洲には守備隊を置き、又重要地帯には要塞が設けてある。海軍は全國の海岸海面を三海軍區に分けて、各區に鎮守府を置き、軍港を定め、多數の艦艇を配置して防備に當らしめ、又國防上の要地には要港を設けてある。

外交 我が國は、各國との間に相互の和親を保ち、國利を計る爲に、世界の主要國と概條約を結び、通商航海をしてゐる。我が條約國は現に三十餘に及び、その中、英、佛、伊、米、獨、露、白、伯、土の諸國とは大使を交換し、他は概公使を派遣し、又通

第一 横須賀 同上 大湊	(海軍區) (電港) (鎮守府) (要港)
第二 吳 同上 舞鶴	
第三 佐世保 同上 鎮海・馬公	

支那	暹羅	英吉利
佛蘭	獨逸	奧地利
洪牙	ブルガ	伊太利
西班	牙利	瑞典
白耳	義瑞	典諾威
丁抹	和蘭	希臘
波蘭	チヤ	コスタ
ルーマ	ニヤ	フィン
ラト	ビヤ	北米
秘魯	露智	西露
伯刺	西爾	然丁
エクス	アドル	パラ
グマイ	グマイ	リビヤ

右表中の太字は我が國と大使を交換してある

商上の要地には領事官を置いてある。歐洲大戰の後、國際聯盟の成立と共に、之に加はつて重要な地位を占め、今は世界五大強國の一に數へられてゐる。結論 願れば我が國は開國以來尙五十餘年に過ぎない。この間異數の進歩を重ねて今の隆昌を致したとはいへ、尙世界の列強と對比すれば、産業に於ても富力に於ても、少からぬ遜色がある。吾人は地理上に於ける帝國優越の地位を利用し、益、産業の發展と國力の増進とに力を盡し、以て奉公の實を擧げなければならぬ。

### 中等教育 最近日本地理 終

## 附錄 (日本)

### 設問集

設問は、生徒の學習動機を誘發し、自習に便し、且地理學研究の興味を深める爲に選集したもので、問題の上に●を附したものは、之と同意義のものが嘗て専門學校入學試験問題として、一回若しくは數回に互つて出題せられたものである。

#### 大日本帝國

- 我が國の經緯度を示せ
- 我が國六大島の位置を問ふ
- 我が四面の海洋及び近隣諸國の名稱を述べよ
- 我が國と他國との間の海峡を問ふ
- 日本帝國の位置及び境域について略述せよ
- 明治維新後新に帝國の領土となつた地を記せ
- 内地と殖民地との面積人口を割合を以て示せ

#### 關東地方

- 關東地方の府縣名と府縣廳所在地とを擧げよ
- 關東平野を限る山脈の名を問ふ
- 附圖を参照して箱根山の断面圖を描け
- 關東にあつて那須火山脈に屬する火山を擧げよ
- 關東地方の重要な河に就きその利用の狀況を述べよ

- 東京灣に注ぐ主要の河流を記せ
  - 關東地方の保養地帯を挙げ且その保養に適する理由を述べよ
  - 關東地方に於ける師團司令部・海軍鎮守府の所在地を記せ
  - 京濱工業地帯の勃興した理由を説明せよ
  - 關東の主要な機業地を挙げよ
  - 利根川に沿ふ各縣の主要産物を挙げよ
  - 關東地方の交通系を記せ
  - 東京より銚子・日光・碓氷峠・八王子・水戸・鎌倉の各地へ行くには各何鐵道によるか
  - 關東地方の大無線電信局について知る所を記せ
  - 日米間の電報經由地を問ふ
  - 左の地について記せ
- |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|
| 印旛沼 | 筑波山 | 隅田川 | 犬吠崎 |
| 利根川 | 觀音崎 | 銚子  | 男體山 |
| 日立  | 横須賀 | 鹿沼  | 小田原 |
| 浦賀  | 足利  | 妙義山 |     |

- 左の都會は何によつて發達したか
  - 成田 伊香保 小田原 足尾
  - 左の地の主要工業品を列記せよ
  - 桐生 流山 結城 秩父
  - 伊勢崎
- 奥羽地方
- 奥羽地方の縣名と縣廳所在地を問ふ
  - 奥羽山脈の東と西とを比較して地形の異同を述べよ
  - 圖を以て奥羽に於ける山脈及び河流の位置名稱を示せ
  - 奥羽地方東西兩岸の氣候を比較せよ
  - 奥羽地方の主な半島海灣の名を挙げよ
  - 奥羽地方と關東地方との農業を比較せよ
  - 左について知る所を述べよ
- |     |      |     |      |
|-----|------|-----|------|
| 尻屋岬 | 金華山  | 雄物川 | 猪苗代湖 |
| 八郎瀉 | 津輕海峽 | 北上川 |      |
- 秋田縣にある主要なる鑛山の名を示せ

- 左の所在縣名及び主要物産を示せ
  - 三春 釜石 能代港 若松 鶴岡
  - 奥羽地方の横斷交通路について述べよ
  - 東京青森間の順路を三ツ挙げよ
  - 奥羽地方の縦貫鐵道三つについてその價值を述べよ
  - 盛岡から宇都宮に至る間に鐵道の通過する主要な都邑を列記せよ
  - 奥羽地方の人口密度と關東地方のそれとを比較してその大差ある理由を考察せよ
  - 左の地について記せ
- |    |    |     |     |
|----|----|-----|-----|
| 大湊 | 白河 | 宮古  | 能代港 |
| 水澤 | 石巻 | 土崎港 | 米澤  |
| 小坂 | 鹽釜 |     |     |
- 中部地方
- 左の縣廳所在地を問ふ
- |    |    |    |
|----|----|----|
| 山梨 | 愛知 | 石川 |
|----|----|----|

- 長野縣に隣接した縣名を挙げよ
  - 中部地方に於ける山脈の名を南彎及び北彎に分けて記せ
  - 日本アルプスの南・中・北の三つを比較せよ
  - 富士火山脈に屬する主要な火山を挙げよ
  - 太平洋斜面の主な河流を記せ
  - 木曾川の河系を記しその本支流に沿ふ主要な都邑を示せ
  - 中部地方の水力電氣ほどの地方に送られるか
  - 信濃川・木曾川・射水川(庄川)の發源國名・河口國名・横貫平野及び沿岸の都會を記せ
  - 中部地方の主要な平野及び盆地を列舉せよ
  - 左の所在地を記し何を以て著名であるかを述べよ
- |     |      |     |     |
|-----|------|-----|-----|
| 淺間山 | 石廊崎  | 白山  | 神通川 |
| 信濃川 | 大井川  | 天龍川 | 諏訪湖 |
| 濱名湖 | 伊良湖崎 | 富士山 |     |
- 東海道の大灣及び本州の四大半島を挙げよ
  - 中部地方に於ける南北の兩海岸を各方面から

比較して記述せよ

- 中部地方の避暑地・避寒地について記せ
- 北陸地方に於ける氣候の特徴を述べよ
- 中部地方の太平洋及び日本海岸について(1)海岸の状態(2)農産物(3)工業(4)貿易港を比較せよ
- 中部地方の名高い製陶地を挙げよ
- 石油の用途を述べ我が國の石油需給關係を考へよ

●左の地の主要工業品を記せ

- 岡谷 名古屋 岐阜 福井
- 瀬戸 谷村 小濱 高岡
- 常滑 輪島 多治見

●關東及び中部地方に於ける著名な温泉十ヶ所以上を挙げよ

- 金澤から名古屋に行く順路を鐵道線路名で示し且その沿線の市を挙げよ
- 本州中部地方(東京及び京都の如き接境地を含む地方)の交通を記せ(地圖を附せよ)

○貿易港としての名古屋と敦賀とを比較せよ

- 左の地の所在と特長とを示せ
- 敦賀 上田 伏木 七尾
- 高山 城端 清水 夷
- 魚津 相川 長岡 鳴海

近畿地方

○近畿地方が長く我が國の政治的中心であつた理由とその結果とについて考へよ

○近畿地方の地勢を述べよ

○近畿地方の盆地を列舉せよ

○近畿地方中部の諸山脈と人文との關係を問ふ

●淀川の本流を圖示し之に沿ふ主要な都市を記入せよ

○琵琶湖について記せ

○紀伊半島・伊豆半島・能登半島の氣候及び産業・交通について比較せよ

○瀬戸内海沿岸と盆地内との氣候を比較しその原因をも考察せよ

○阪神地方の主要工業品を列記せよ

○阪神工業地帯勃興の理由を述べ且その特徴を記せ

○近畿地方の主な紡績工業地を列舉せよ

○神戸と横濱との貿易状態に就いて比較せよ

●左の地の主要産物を記せ

- 峯山 龍野 西宮 黒江
- 豊岡 赤穂 和歌山 長濱
- 堺

●左の地について記せ

- 伏見 洲本 宮津 堺
- 四日市 宇治 宇治山田 新宮
- 潮岬 琵琶湖

○大阪を中心とした郊外電車の略圖を描け

○近畿地方の鐵道幹線は如何に地形の支配を受けてゐるか

●左の地の所在を記し何を以て著名なるかを述べよ

- 笠置山 比叡山 湊川 米原

有馬 丹波市 舞鶴 賤ヶ岳

一谷 鳥羽 海八丁 金剛山

四條畷 城崎

中國地方

○中國地方の縣名と縣廳所在地とを略圖によつて示せ

○中國山脈の特色を述べよ

●中國地方の主なる河川を日本海面と瀬戸内海とに分けて挙げよ

●奥羽地方と中國地方との海岸・山脈の二項について異同を語れ

○山陰・山陽兩方面の氣候を比較してその異なる理由を考へよ

●山陰と山陽につきその地勢・海岸・都邑及び人文の發達程度等を比較記述せよ

○中國地方の主要な製鹽地を挙げ瀬戸内海沿岸が製鹽に適する理由を問ふ

○瀬戸内海の水産業について知る所を書け

- 山陽・山陰二道の主な産物を問ふ
- 中國地方の特殊農産物に就いて記せ
- 中國地方の開港場を列記せよ
- 中國地方の主要鐵道を圖示せよ
- 中國から他地方に渡る海上連絡について記せ
- 交通上より下關について述べよ
- 左の地についてその所在と特長とを示せ
- 江田島 岩 國 境 吳
- 船上山 米 子 宇 品
- 左の地について記せ
- 糸 崎 濱 田 嚴 島 高 梁
- 鳥 取 廣 島 大 社 津 山
- 三 次 千 代 川 倉 敷 玉 島

四 國 地 方

- 四國の縣名と縣廳所在地とを列記せよ
- 略圖によつて四國地方の地形を記せ
- 四國の河流について記せ
- 四國の周圍にある主な海峽と岬とを書け
- 淡路島によつて距てられた三つの海及び之を連絡する三つの海峽を問ふ
- 四國の南北兩地方の氣候・産業について述べ人口密度の著しく異なる理由を記せよ
- 四國の重なる製鹽地・抄紙地を擧げよ
- 四國にて舟泊の便ある市の名を記せ
- 四國の鐵道及び海路についてその特色を擧げよ
- 左の地につきて記せ
- 撫 養 別 子 琴 平 善 通 寺
- 今 治 高 知 屋 島 浦 戸
- 宇 和 島
- 瀬戸内海の沿岸略圖を描きその沿岸に於ける要港の位置及び名稱を附せ
- 瀬戸内海の産業 交通・氣候について知る所を記せ
- 東京から高松及び高知に至るには各如何なる順路が便利か
- 屋島と興居島との特色を述べよ

九 州 地 方

- 九州島の東南部地方及び西北部地方は我が歴史上如何なる位置を占めるか又現在の文化の狀態及びそのかくある理由を問ふ
- 九州島は地形上中國四國と如何なる關係があるか
- 九州の山脈と主要な火山とを記せ
- 阿蘇及び箱根火山の構造を比較せよ
- 九州の主要河川を各斜面に分けて記せ
- 九州地方海岸線の概況を述べよ
- 九州南部の諸島及び沖繩列島の地勢について記せ
- 左の地の所在を示しその著名な所以を記せ
- 溫泉岳 五島列島 有明海 大淀川
- 山 國 川 耶 馬 溪
- 福岡縣の物産を問ふ
- 九州炭田及び港の名稱を擧げよ
- 九州に於ける主な金産地を問ふ

- 門司と下關とを位置・交通・産業の上から比較せよ
- 九州にある師團司令部・海軍鎮守府の所在地を記せ
- 既習の四大工業地帯につきその發達に共通の原因を擧げ且各の特色を考へよ
- 九州一周の鐵道線名とそれに沿ふ市の名を擧げよ
- 東京から別府に行く順路を問ふ
- 九州の略圖を描き開港場の位置を示し且つその一方に偏する理由を考へよ
- 左について記せ
- 博 多 口 之 津 中 津 嚴 原
- 那 霸 八 代 竹 敷 高 島
- 八重山諸島 奄美諸島
- 左の地の所在を記しその著名な所以を述べよ
- 國 分 小 倉 佐 世 保 三 池 港
- 鳥 栖 別 府 久 留 米 佐 賀 關
- 鯛 生

臺 灣

- 臺灣島民は我が國の統治以來如何なる恩惠に浴してゐるか
- 臺灣の地勢を問ふ
- 臺灣の河流につき東西斜面の異なる點を發見せよ
- バシール海峽について記せ
- 臺灣の氣候につき東西岸及び南北岸を比較説明せよ
- 臺灣の氣候と本州の氣候と著しく異なる點を問ふ
- 臺灣の主要な産業を述べよ
- 臺灣に於ける製糖業發達の概要を述べよ
- 臺灣の主要な産物五種を挙げよ
- 臺灣の樟腦につき(1)その集散地(2)輸出港(3)仕向地(4)用途を述べよ
- 臺灣の主な特殊動植物産
- 臺灣の開港場(特別開港場をも含む)を列記せ

よ

- 臺灣に於ける主要貿易品を列舉せよ
- 臺灣海岸の國防上の價値を問ふ
- 臺灣の住民について記せ
- 臺灣の行政組織を略述せよ
- 臺灣島の略圖を描き主要都邑十個を記入せよ
- 臺灣山脈の東部と西部につきその地勢・海岸・都邑及び人文發達の程度を比較記述せよ
- 臺灣の時刻と内地の時刻とは如何に異なるか
- 左の各地の所在とその著名な所以とを記せ

臺 北 日月潭 淡水 高雄  
鹿 港 馬 公 次高山

北 海 道

- 北海道と臺灣とにつき氣候とその支配を受けざる産業とを比較せよ
- 北海道本島の地圖を描き主要な山脈・火山・河流を記入しその名稱を併記せよ
- 北海道の近海に濃霧の起る理由及び交通上に

- 及ぼす影響について述べよ
- 北海道の森林には如何なる植物があるかその用途を述べよ
- 北海道の産業の特色を述べよ
- 北海道の水産業について記せ
- 鹿兒島から根室に至る鐵路線名を挙げ沿線の府縣廳所在地を列記せよ
- 千島の軍事的價値を問ふ
- 北海道の略圖を描き主要都邑を記入せよ
- 北海道の都市と内地の都市との間に著しく異なる點があるか
- 左の地について記せ

小 樽	五稜廓	函 館	室 蘭
旭 川	留 萌	根 室	空 知
落 石	網 走	釧 路	阿頼度島
稚 内	襟裳岬	十勝岳	大沼公園
登 別			

- 樺太が日本の領土となる迄の沿革を研究せよ
- 我が國平均氣温の低極は敷香であるが旭川はこれより著しく寒いことがあるその理由を考へよ
- ツンドラとは如何なる地貌か
- 樺太南部(北緯五十度以南)の略圖を描いて主要な山脈・河川・岬・灣・島嶼及び都邑の名を相當の位置に記入せよ
- 樺太近海に於ける海流を列舉せよ
- 樺太に於ける特有生産物の種類を記せ
- 樺太の富源について記せ
- 樺太近海の豚臘獸は國際條約で捕獲を禁止せられたその理由を問ふ
- 樺太及び臺灣の主要な産業を述べよ
- 樺太の交通について記せ
- 東京・豊原間の交通略圖をかけ
- 北海道・琉球・臺灣・樺太の住民の性質及び衣食住の有様は如何に異なるか
- 左の地について知る所を記せ

大泊 眞岡 宗谷海峽 豊原  
亞庭灣 敷香

朝鮮

- 日鮮併合前我が國と如何なる交渉があつたか
- 日鮮併合後朝鮮人は如何なる利益を受けてゐるか
- 朝鮮の地形略圖を描け
- 朝鮮の水系・海岸線の状況及び島嶼の分布について説明せよ
- 朝鮮沿海に於ける潮汐干満の有様について述べよ
- 朝鮮の東海岸地方と西海岸地方とに於ける地文上及び人文上の差異を説明せよ
- 朝鮮に於ける氣候の特徴を問ふ
- 朝鮮の略圖を描き各地に於ける主要物産を記入せよ
- 朝鮮半島に於ける港灣の名稱とその位置とを示し港の發達した有様について語れ

- 朝鮮の主要な交通路を圖示せよ
- 關釜連絡船には何故航送船を用ひぬか
- 朝鮮の幹線鐵道は世界交通の上から如何なる價値があるか
- 朝鮮の行政区劃を示し道廳の所在地を記入せよ
- 朝鮮の略圖を書き著名な山・川・港灣・都市を記入せよ

- 朝鮮の略圖を描き左の事項を記入せよ
- 道廳所在地 主要河川 開港場
- 朝鮮の主要鑛産地 鐵道 内地及外國間航路
- 朝鮮・臺灣に於て内地との關係の最も深い開港場を挙げ種々の點から兩者を比較せよ
- 左の地について記せ
- 清津 鎮南浦 木浦 新義州
- 鎮海 龍岩浦 仁川 全州
- 鏡城 江景 光州 蔚山
- 開城 大邱 釜山 會寧
- 羅南 龍山 大邱

總説

- 我が國諸山脈の系統を問ふ
- 南嶺山系に於ける内帶と外帶との地形的差異を述べその人文上の影響を考察せよ
- 北日本と南日本との地形の相違點を挙げよ
- 日本列島の火山脈を記し之に屬する主な火山を示せ
- 日本の國民性が火山的だといはれるのは如何なる意味か
- 左記の山岳の所在を記し何を以て著名であるかを述べよ
- 富士山 笠置山 別子山 碓氷峠
- 日光山 温泉岳 比叡山
- 温泉は必ずしも火山と關係のないことを實例によつて證明せよ
- 舟楫の便ある我が國の河流十及びその流入する海灣を挙げよ
- 本州の河川中水力の利用が最も盛なのは中部

地方で最も少ないのは中國地方であるこれは地形と關係があるか

- 縣廳所在の都會を貫流する我が國內地の大河八つをその都會と共に列擧せよ
- 左の諸川は何應何縣で海に注ぐか又その河口附近に如何なる都會があるか
- 雄物川 射水川 千代川 山國川
- 大淀川 熊野川 吉野川 利根川
- 北上川 釧路川
- 峡谷の人文に及ぼす影響を問ふ
- 左記の港灣に流入する最大の河川の名一を記せ
- 仙臺灣 東京灣 相模灣 富山灣
- 伊勢海 多來加灣 兒島灣 廣島灣
- 淡水港 有明海
- 我が國著名の湖沼十及び其の所在國を問ふ
- 舟楫の便がある我が國の湖沼五ヶ所とその大順序及び所在國を問ふ
- 本州の四大半島を挙げよ



- 太平洋に於ける港灣とその位置とを問ふ
- 日本海に面する良港八ツを挙げよ
- 日本の岬角島嶼を挙げよ
- 本邦の主な海峡及び要塞を問ふ
- 我が國沿岸の海流を列擧し其の通路を略述せよ
- 本邦近海の海流を圖示し且本邦に及ぼす影響を述べよ
- 我が國に於ける潮汐干満の差が最も大きな所と最も小さい所とを記せ
- 黒潮親潮について記せ
- 寒流・暖流と漁業との關係を述べよ
- 我が國の氣候について記せ
- 我が國に於ける降雨の分布について記せ
- 我が國に於て日本海岸地方が同緯度の太平洋岸よりも一般に積雪の多いは何故か
- 我が國に於て一年を通じて最も雨量が多い所と最も少い所とを記せ
- 本邦に例を採り氣候と産業との關係を述べよ

- 表日本と裏日本との氣候を比較せよ
- 太平洋岸と日本海岸との我が本土に就いて各特異な點を記せ
- 臺灣竝に津輕海峡以北の土地にある特有植物を記せ
- 我が國の農業及び農産物について記せ
- 我が國の氣候帯と農林業との關係を述べよ
- 我が國に於ける左の産地を挙げよ  
麻 砂糖 米 麥
- 我が國は古來農業本位の國であるに拘らず農産物の輸入が輸出より多い理由を問ふ
- 養蠶の盛な府縣名を挙げよ
- 我が國に於て牧畜業の振はない理由如何又羊毛は主として何處から供給を仰ぐか
- 我が國の牧牛地帯に就いて知る所を記せ
- 我が國の林業・水産及び工業の概況を記せ
- 本邦の主要鑛業地について記せ
- 我が國の著名な銅産地七ヶ所を記せ
- 我が國の鑛産中その産額の多いもの五種を舉

- 左記地方に於ける石炭又は銅につき記せ  
關東地方 奥羽地方 四國地方  
九州地方 臺灣地方 北海道地方  
樺太地方 朝鮮地方
- 我が國に於ける陶器の産地五箇所を挙げよ
- 重要な實用鑛物四種につきその用途と我が國に於ける需給關係を考察せよ
- 我が國の外交・貿易について記せ
- 我が國の重要な輸出品及び輸入品を列擧せよ
- 外國貿易上我が國第一の顧客は何國か且彼我兩國の貿易品の主なものを挙げよ
- 我が國に於て最も多く輸入を仰ぐ貿易國名三

- 我が國は次の産物を主として何々國から輸入するか  
米 綿 羊毛 鐵鑛及び鐵材木
- 我が國の主要輸出品五個を挙げその主要なる産地及び積出地を記せ
- 歐洲大戰亂が我が貿易に及ぼした影響を問ふ
- 北海道本島・本州・九州・臺灣・朝鮮の縦貫鐵道及び本州の横斷鐵道について語れ
- 長崎から青森に至る鐵道幹線が通過する市の名を順次に記せ
- 大泊から東京を経て新義州に赴くに當つて由るべき汽船航路及び鐵道線路を記せ
- 我が國の海運上主要な港十ヶ所を記せ
- 帝國の水運について記せ
- 我が國日本海方面の海上交通について記せ
- 東京から歐洲に行かんとし西比利亞鐵道に乗るには幾條の便路があるかその各について順

- 路を示せ
- 我が國に於ける主要な無線電信局の所在地を列擧せよ
- 日本住民の種族を問ふ
- 邦人の主な外國移住地三を擧げよ
- 我が國內地の各地方を人口密度の順に排列せよ
- 我が國で人口密度の最も大きな所と最も小さな所とを記しその原因を考察せよ
- 本州(三大都市を除く)北海道及び九州に於て最多数の人口を有する都會を擧げ地理上その將來を卜せよ
- 我が國體の美點を述べよ

- 下記神宮・神社の所在府縣名並に市名を記せ  
伊勢神宮 熱田神宮 香取神宮 鹿島神宮  
橿原神宮 出雲大社 靖國神社
- 我が國地方行政の組織を問ふ
- 次の各島の管轄府縣名を記せ  
小笠原島 壹岐 隱岐 佐渡 淡路
- 師團司令部の所在地を數へよ
- 我が國に於ける要塞地を列擧せよ
- 海軍區と鎮守府所在地とを問ふ
- 本邦の略圖を描き海軍要港及び重要な灣の名を記してその所在を示せ
- 在外帝國公使館の所在地を問ふ

附 録 (日本) 終

明治四十四年十一月廿八日印	大正七年十二月廿五日發行
明治四十五年一月一日發行	大正九年一月四日發行
明治四十五年一月廿一日發行	大正九年一月廿四日發行
明治四十五年一月廿四日發行	大正九年一月廿七日發行
明治四十五年一月廿七日發行	大正九年一月三十日發行
明治四十五年一月三十日發行	大正九年二月二日發行
大正六年十二月廿一日發行	大正九年十二月廿四日發行
大正六年十二月廿四日發行	大正九年十二月廿七日發行
大正六年十二月廿七日發行	大正九年十二月三十日發行
大正六年十二月三十日發行	大正九年一月二日發行
大正七年一月一日發行	大正九年一月五日發行
大正七年一月四日發行	大正九年一月八日發行
大正七年一月七日發行	大正九年一月十一日發行
大正七年一月十日發行	大正九年一月十四日發行
大正七年一月十三日發行	大正九年一月十七日發行
大正七年一月十六日發行	大正九年一月二十日發行
大正七年一月十九日發行	大正九年一月廿三日發行
大正七年一月廿二日發行	大正九年一月廿六日發行
大正七年一月廿五日發行	大正九年一月廿九日發行
大正七年一月廿八日發行	大正九年二月一日發行
大正七年一月三十一日發行	大正九年二月四日發行
大正八年二月一日發行	大正九年二月七日發行
大正八年二月四日發行	大正九年二月十日發行
大正八年二月七日發行	大正九年二月十三日發行
大正八年二月十日發行	大正九年二月十六日發行
大正八年二月十三日發行	大正九年二月十九日發行
大正八年二月十六日發行	大正九年二月廿二日發行
大正八年二月十九日發行	大正九年二月廿五日發行
大正八年二月廿二日發行	大正九年二月廿八日發行
大正八年二月廿五日發行	大正九年三月一日發行
大正八年二月廿八日發行	大正九年三月四日發行
大正八年三月一日發行	大正九年三月七日發行
大正八年三月四日發行	大正九年三月十日發行
大正八年三月七日發行	大正九年三月十三日發行
大正八年三月十日發行	大正九年三月十六日發行
大正八年三月十三日發行	大正九年三月十九日發行
大正八年三月十六日發行	大正九年三月廿二日發行
大正八年三月十九日發行	大正九年三月廿五日發行
大正八年三月廿二日發行	大正九年三月廿八日發行
大正八年三月廿五日發行	大正九年三月三十一日發行
大正八年三月廿八日發行	大正九年四月一日發行
大正八年四月一日發行	大正九年四月四日發行
大正八年四月四日發行	大正九年四月七日發行
大正八年四月七日發行	大正九年四月十日發行
大正八年四月十日發行	大正九年四月十三日發行
大正八年四月十三日發行	大正九年四月十六日發行
大正八年四月十六日發行	大正九年四月十九日發行
大正八年四月十九日發行	大正九年四月廿二日發行
大正八年四月廿二日發行	大正九年四月廿五日發行
大正八年四月廿五日發行	大正九年四月廿八日發行
大正八年四月廿八日發行	大正九年五月一日發行
大正八年五月一日發行	大正九年五月四日發行
大正八年五月四日發行	大正九年五月七日發行
大正八年五月七日發行	大正九年五月十日發行
大正八年五月十日發行	大正九年五月十三日發行
大正八年五月十三日發行	大正九年五月十六日發行
大正八年五月十六日發行	大正九年五月十九日發行
大正八年五月十九日發行	大正九年五月廿二日發行
大正八年五月廿二日發行	大正九年五月廿五日發行
大正八年五月廿五日發行	大正九年五月廿八日發行
大正八年五月廿八日發行	大正九年六月一日發行
大正八年六月一日發行	大正九年六月四日發行
大正八年六月四日發行	大正九年六月七日發行
大正八年六月七日發行	大正九年六月十日發行
大正八年六月十日發行	大正九年六月十三日發行
大正八年六月十三日發行	大正九年六月十六日發行
大正八年六月十六日發行	大正九年六月十九日發行
大正八年六月十九日發行	大正九年六月廿二日發行
大正八年六月廿二日發行	大正九年六月廿五日發行
大正八年六月廿五日發行	大正九年六月廿八日發行
大正八年六月廿八日發行	大正九年七月一日發行
大正八年七月一日發行	大正九年七月四日發行
大正八年七月四日發行	大正九年七月七日發行
大正八年七月七日發行	大正九年七月十日發行
大正八年七月十日發行	大正九年七月十三日發行
大正八年七月十三日發行	大正九年七月十六日發行
大正八年七月十六日發行	大正九年七月十九日發行
大正八年七月十九日發行	大正九年七月廿二日發行
大正八年七月廿二日發行	大正九年七月廿五日發行
大正八年七月廿五日發行	大正九年七月廿八日發行
大正八年七月廿八日發行	大正九年八月一日發行
大正八年八月一日發行	大正九年八月四日發行
大正八年八月四日發行	大正九年八月七日發行
大正八年八月七日發行	大正九年八月十日發行
大正八年八月十日發行	大正九年八月十三日發行
大正八年八月十三日發行	大正九年八月十六日發行
大正八年八月十六日發行	大正九年八月十九日發行
大正八年八月十九日發行	大正九年八月廿二日發行
大正八年八月廿二日發行	大正九年八月廿五日發行
大正八年八月廿五日發行	大正九年八月廿八日發行
大正八年八月廿八日發行	大正九年九月一日發行
大正八年九月一日發行	大正九年九月四日發行
大正八年九月四日發行	大正九年九月七日發行
大正八年九月七日發行	大正九年九月十日發行
大正八年九月十日發行	大正九年九月十三日發行
大正八年九月十三日發行	大正九年九月十六日發行
大正八年九月十六日發行	大正九年九月十九日發行
大正八年九月十九日發行	大正九年九月廿二日發行
大正八年九月廿二日發行	大正九年九月廿五日發行
大正八年九月廿五日發行	大正九年九月廿八日發行
大正八年九月廿八日發行	大正九年十月一日發行
大正八年十月一日發行	大正九年十月四日發行
大正八年十月四日發行	大正九年十月七日發行
大正八年十月七日發行	大正九年十月十日發行
大正八年十月十日發行	大正九年十月十三日發行
大正八年十月十三日發行	大正九年十月十六日發行
大正八年十月十六日發行	大正九年十月十九日發行
大正八年十月十九日發行	大正九年十月廿二日發行
大正八年十月廿二日發行	大正九年十月廿五日發行
大正八年十月廿五日發行	大正九年十月廿八日發行
大正八年十月廿八日發行	大正九年十一月一日發行
大正八年十一月一日發行	大正九年十一月四日發行
大正八年十一月四日發行	大正九年十一月七日發行
大正八年十一月七日發行	大正九年十一月十日發行
大正八年十一月十日發行	大正九年十一月十三日發行
大正八年十一月十三日發行	大正九年十一月十六日發行
大正八年十一月十六日發行	大正九年十一月十九日發行
大正八年十一月十九日發行	大正九年十一月廿二日發行
大正八年十一月廿二日發行	大正九年十一月廿五日發行
大正八年十一月廿五日發行	大正九年十一月廿八日發行
大正八年十一月廿八日發行	大正九年十二月一日發行
大正八年十二月一日發行	大正九年十二月四日發行
大正八年十二月四日發行	大正九年十二月七日發行
大正八年十二月七日發行	大正九年十二月十日發行
大正八年十二月十日發行	大正九年十二月十三日發行
大正八年十二月十三日發行	大正九年十二月十六日發行
大正八年十二月十六日發行	大正九年十二月十九日發行
大正八年十二月十九日發行	大正九年十二月廿二日發行
大正八年十二月廿二日發行	大正九年十二月廿五日發行
大正八年十二月廿五日發行	大正九年十二月廿八日發行
大正八年十二月廿八日發行	大正九年十二月三十一日發行
大正八年十二月三十一日發行	大正九年一月一日發行

中等 最近日本地理(拾訂版) 昭和二年臨時定價  
 定價 金 六十六 錢 金壹圓拾貳錢

本製田澤



不許複製

發行所

(東京) 三 省 堂  
 (大阪) 三 省 堂 大 阪 支 店  
 (東京) 三 省 堂 大 阪 支 店  
 (大阪) 三 省 堂 大 阪 支 店

編纂者 三省堂編輯所  
 代表者 神保周藏  
 印刷者 三省堂  
 代表者 神保周藏  
 印刷所 三省堂印刷部  
 代表者 神保周藏





広島大学図書

2000041343

